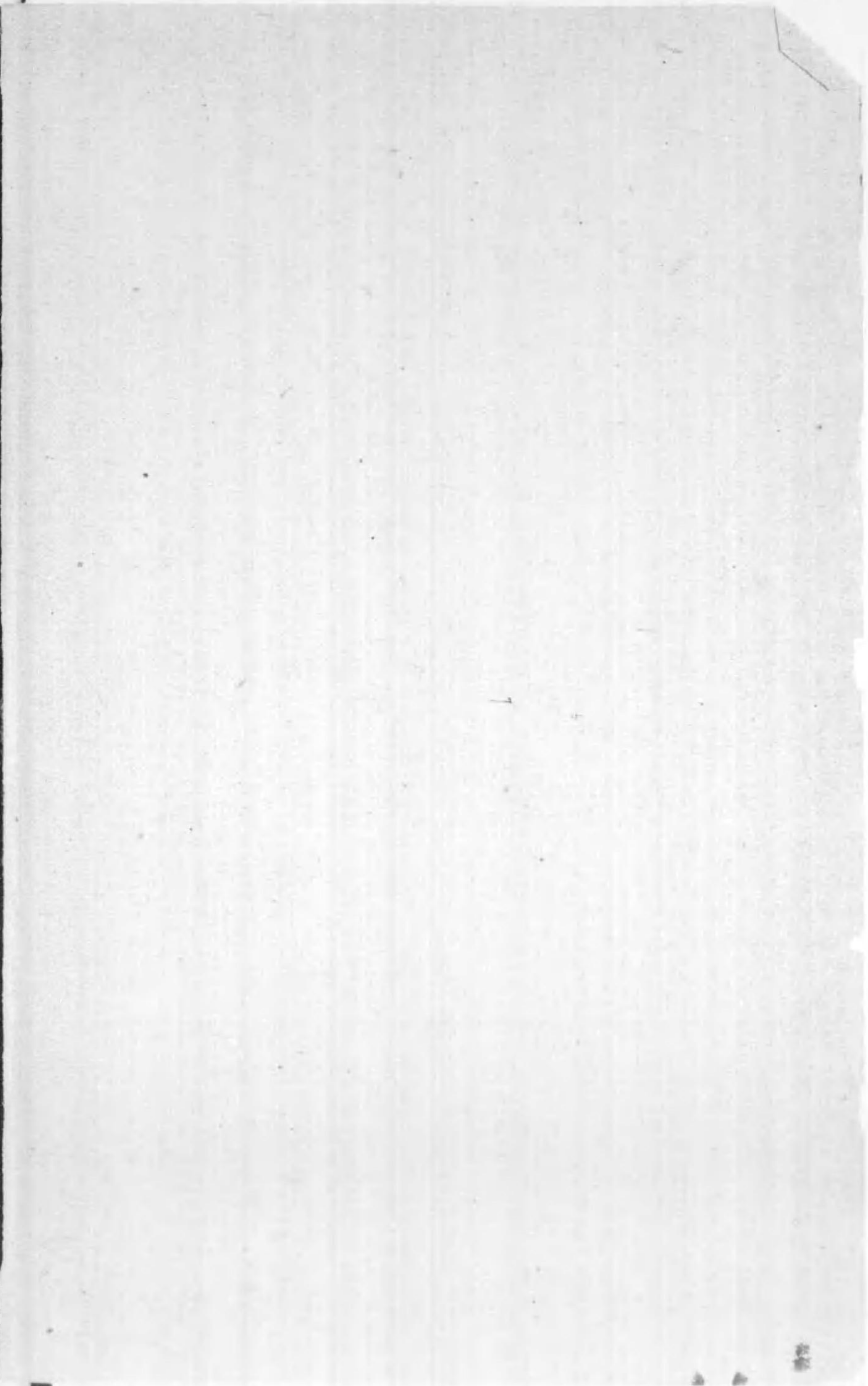


327  
6211



始





354-133  
327-621x

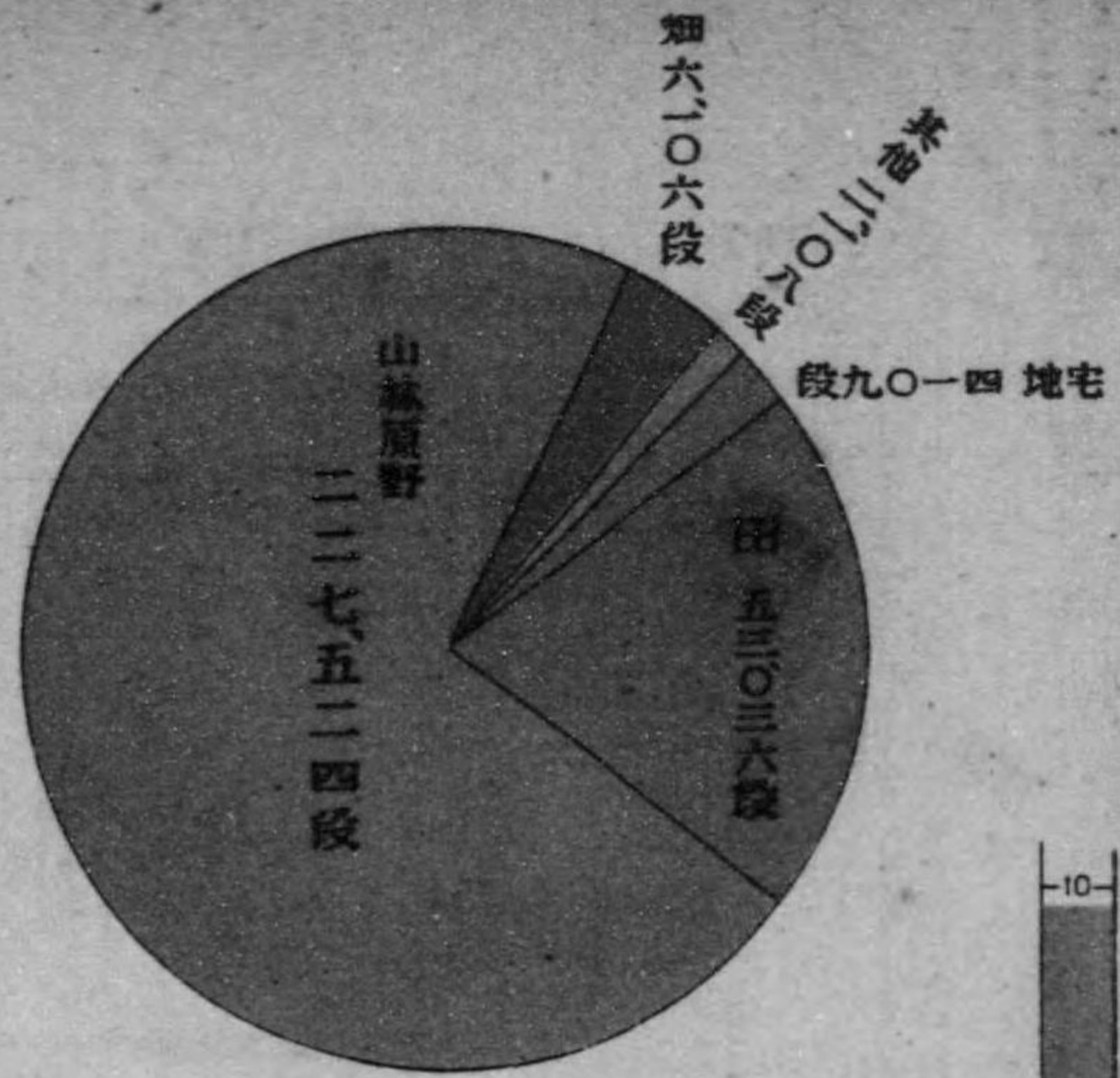


大正七年十二月發行

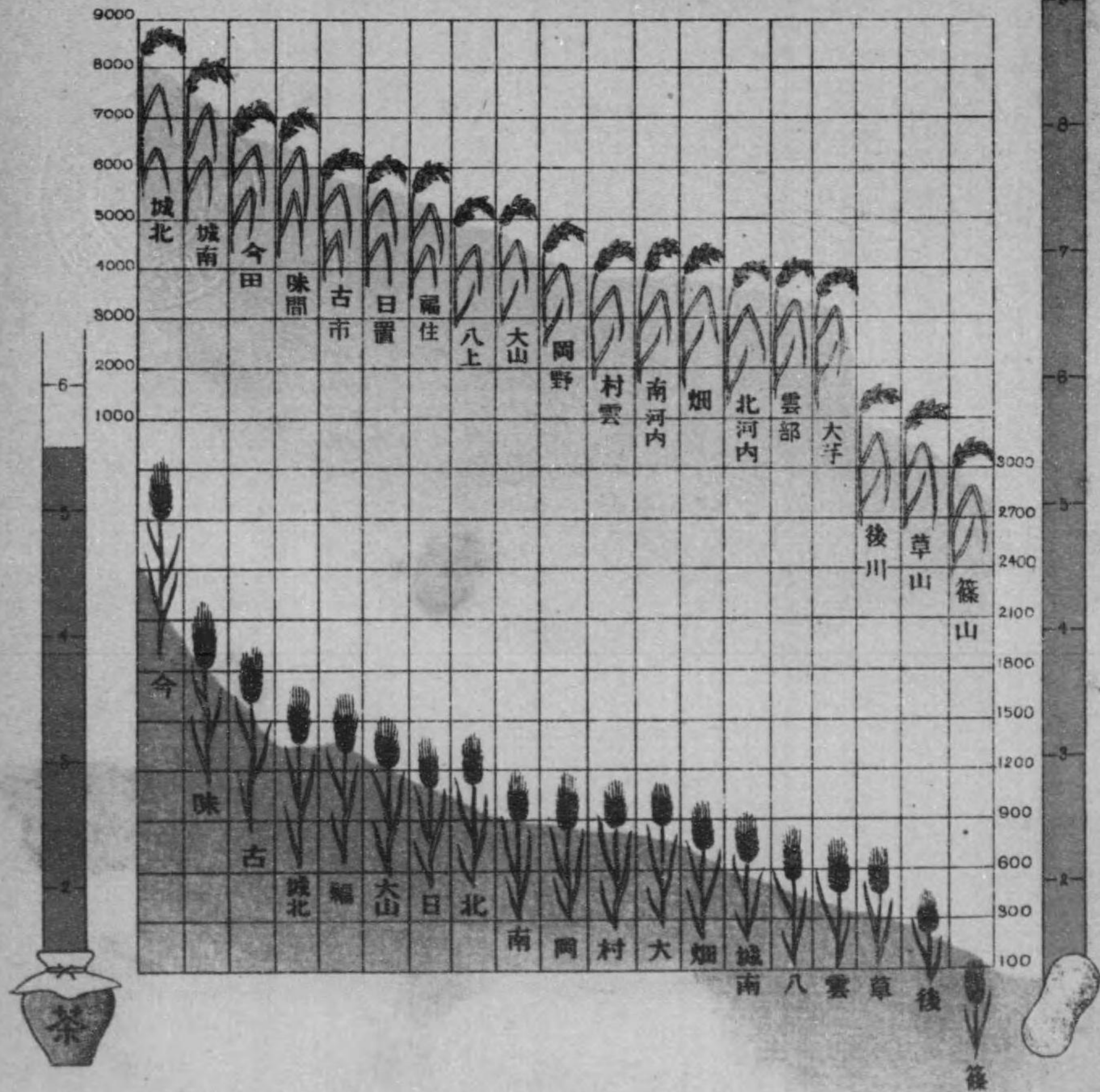
# 紀郡誌

私立多紀郡教育會編纂

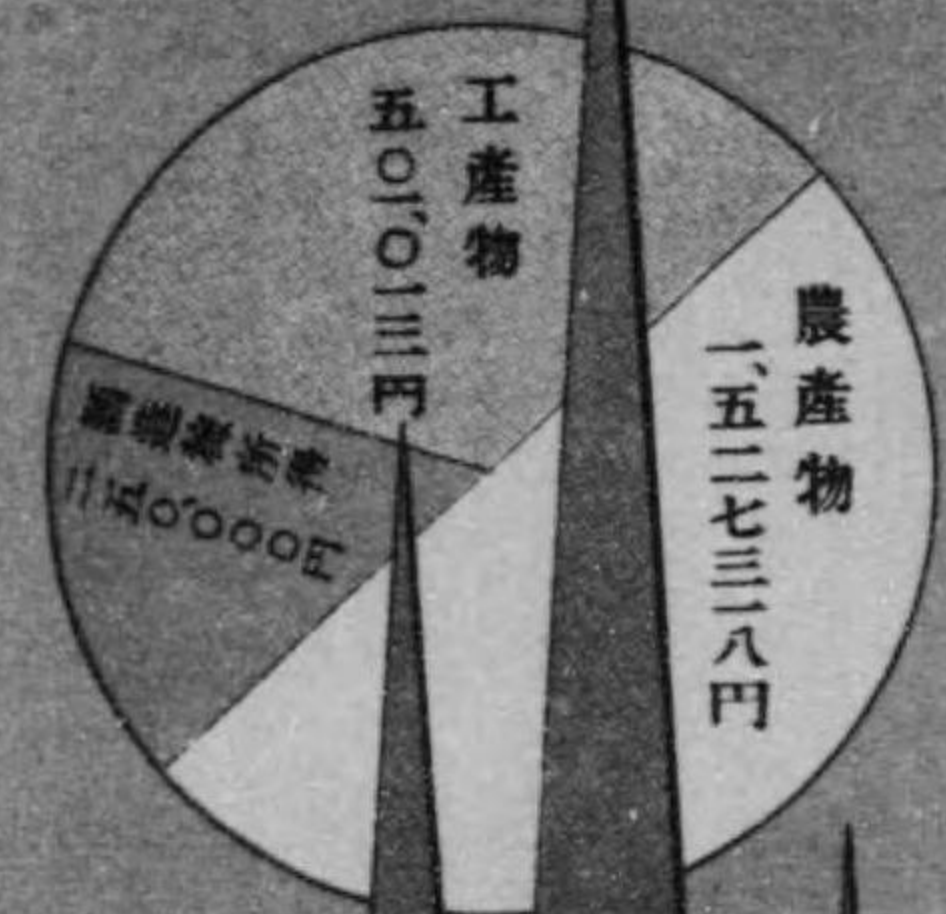
大正  
8. 1. 6  
内交



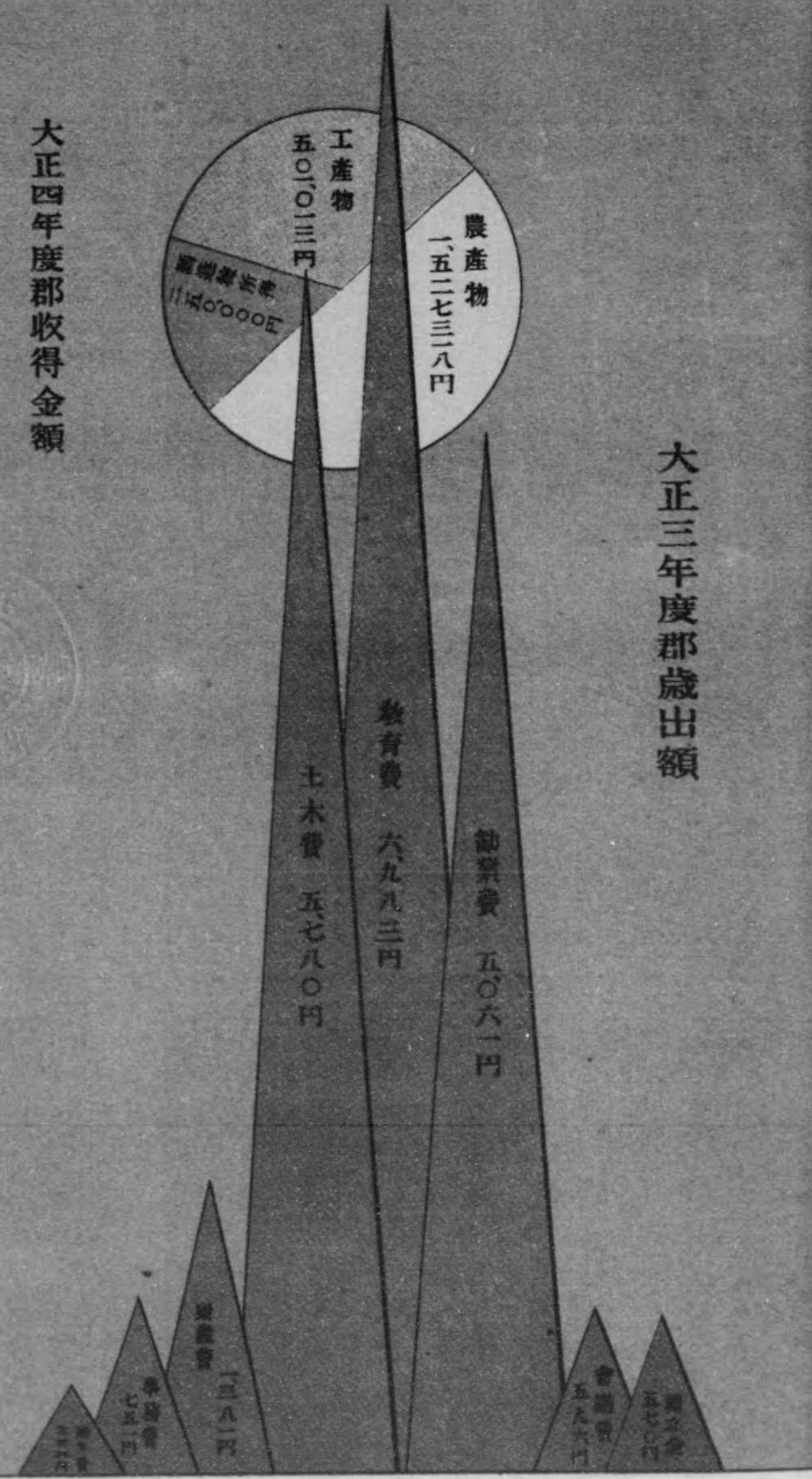
鹽茶ノ數ハ單位万円  
米麥ノ數ハ單位石  
右ノ米麥  
左ノ米麥  
米麥ハ下ノ字村名



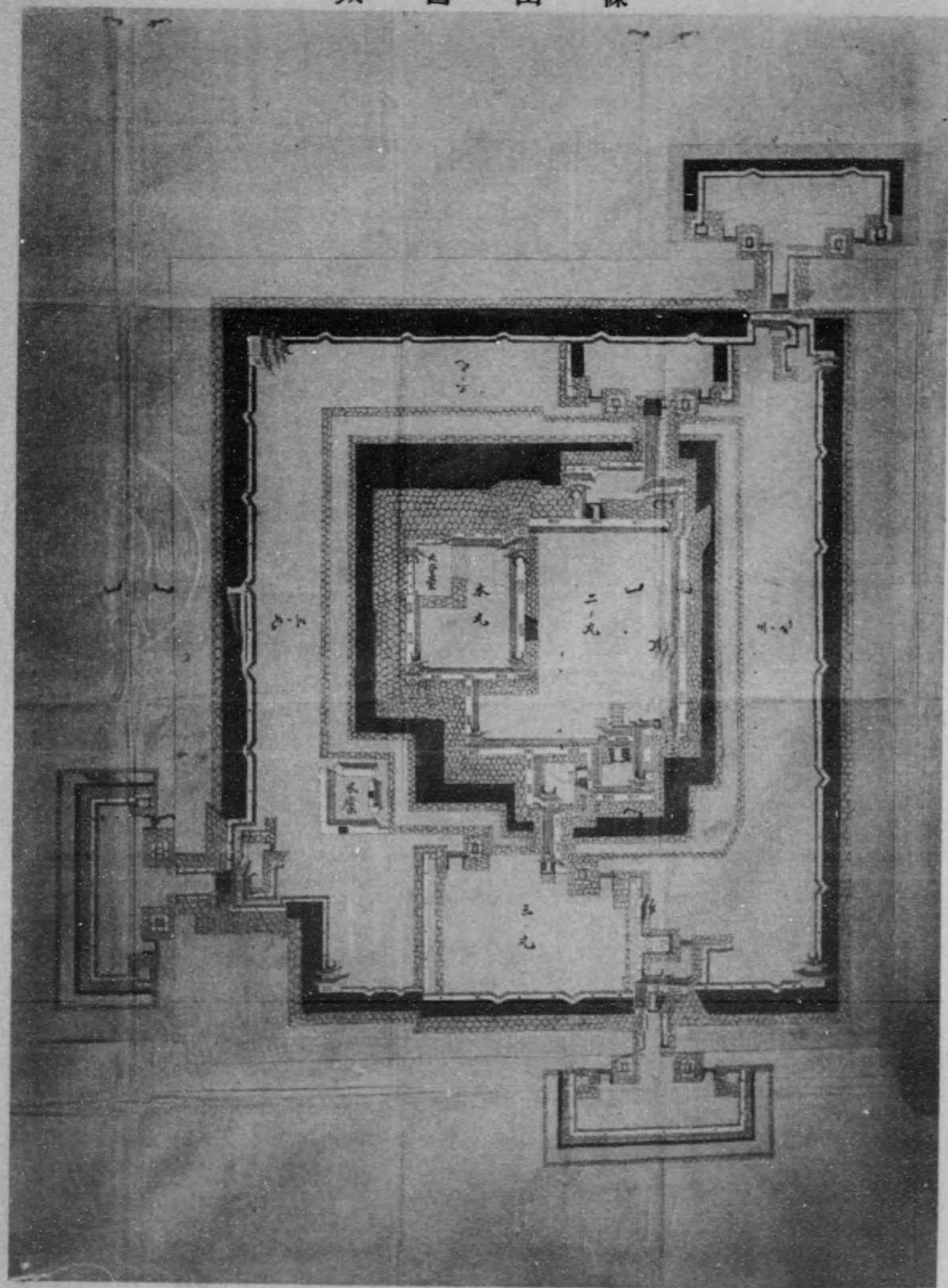
大正四年度郡收得金額

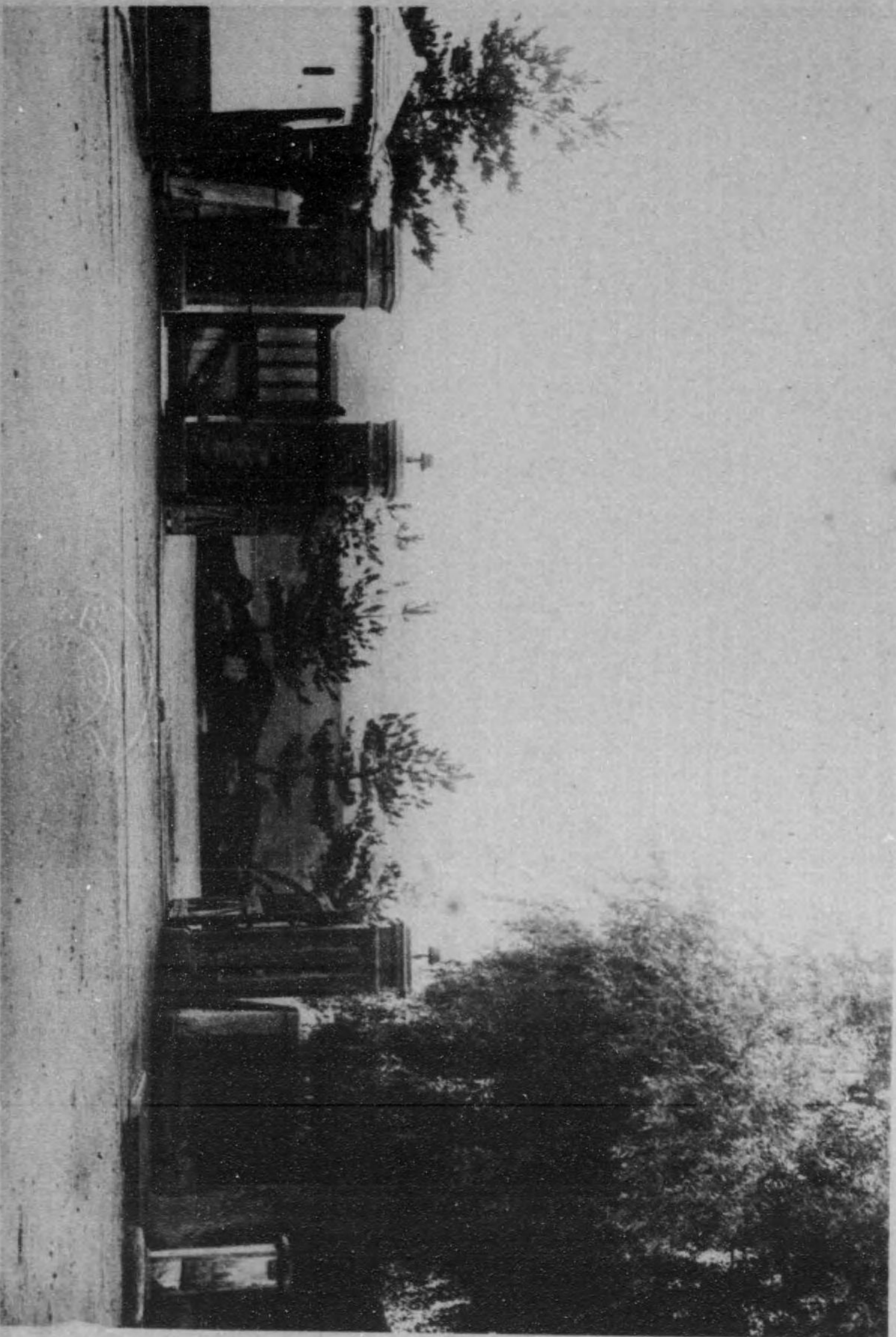


大正三年度郡歳出額



篠山舊城





隊聯十七第兵步山篠



## 凡 例

本誌ハモト明治四十四年ノ發行ニ關ルモノナリシ  
ガ其ノ後年月ヲ經ルニ從ヒ記載事項ニ幾多ノ變更  
ヲ來シタレバ今回之ガ修正増補ヲナスコトトナレ  
リ。  
本誌ニ年月ヲ記セザル事項ハ大正四年末現在狀況  
ナリ。其後印刷ニ附スル際ニ至リテハ既ニ狀況ノ變  
セル點アリト雖全体ニ關シテハ鈞合上四年末若シ  
クバ其接近年月ノ現狀ヲ記スルヲ標準トセルナリ





管轄、郡長歴代、町村、官署、警察。

軍事

所屬管區、戰役、軍費、應召兵員、戰病者數、受賞者、廢兵、郡出身軍人數、在郷軍人、日獨戰役、兵營設置。

教育

篠山藩學校、私塾寺子屋、小學校ノ配置、小學校表、修業年限、二部教授、就學兒童數、小學校教員、教育ノ現狀、補習教育、青年會、郡青年大會、壯丁教育、學校園、鳳鳴義塾、高等女學校、教育費、學校基本財産、教育會、尙齒會、附御大典紀念事業。

神社

郡ノ神社、神社合併。

宗教

黑住教、大社教、妙靈教、天理教、金光教、神道ニ關スル希望、教會所。佛教、郡ノ寺院、基督教、儒教。

勸業

農業、農産物、郡ノ米麥産額、米ノ需用供給、米ノ産額全國ト比較、町村別米麥産額、黒大豆、菜種、馬鈴薯、自作小作、小作料、養蠶、茶、家禽、郡農會、農事講習所ノ由來、耕地整理、米ノ選種、浸種、水稻、苗代、播種量、插秧法、稻作立毛品評會、米ノ俵裝、採種田、堀作、堆肥舍、酒造出稼、牧畜、林業、林相、郡ノ造林事業、林産物、郡ノ林業計畫、果實、商業、會社ノ發達、銀行、銀行表、銀行ノ希望、保險、工業、立杭燒、工産物表、凍豆腐、燐寸、産業組合、産業組合表。

負擔

國稅、主ナル稅目負擔表(町村別)、所得稅額、町村費、負擔金額、納稅思想。

衛生

醫術、醫術外ノ衛生、清潔法、種痘、疾病ノ種類、醫師會、水質、赤十字社、愛國婦人會。

交通

鐵道、郡ノ鐵道、縣道、里道、縣道ノ手入、鐘ヶ阪隧道、里程表、郡ノ郵便、電信、電話。

名所

王地山遊園地、篠山名所、篠山舊城、大瀧小瀧、川代、神社佛閣、飛ノ山、籠坊温泉、潮池、

四十八瀧、玉水、石塚、毘沙門瀧、豊林寺ノ牡丹川鐘ヶ坂ノ櫻、忠魂碑。

### 史談

三五

郡ノ太古ノ地形、郡名ノ起原、古代ヨリノ管轄沿革、篠山城、青山家、定紋、版籍奉還、舊藩主ノ別レ、尙志館、青山家ヨリノ御贈金、篠山懷舊會、桂園舎、鳳鳴義塾、町村名ノ起原、昔ノ庄郷、波多野秀治、畑時能、阪東篤之輔、名族、園田多祐翁、波部本次郎氏、延年池、朝路山、白藤城址、細工所ノ城壘、茶白山、鼓峠、金山城址、鍋塚池、義士ノ遺物、不來阪、承明門院ノ御陵墓、大芋村、藤原時平ノ祠跡、福住城址、楨ヶ峯、少將山、小枕村ノ名ノ起原、監物橋、杉村、安口村、車塚、鼓峠ノ戰場、桑原ノ里、藤原氏ノ碑。

目次終

## 多紀郡誌

私立多紀郡教育會編纂

### 自然地理



位置。我多紀郡ハ兵庫縣ノ東北部ニ位シ東ヨリ北ハ船井、天田、氷上ノ三郡ニ連リ、西ハ播磨多可郡、加東郡ニ接ス。

形。長軸六里半、短軸四里半ノ橢圓ヲ東西ニ横タヘ其西端ヨリ南方ニ縱横各二里ノ突出部ヲ附着スレバ我郡ノ概形トナル。突出部ハ古市、今田ノ兩村ナリ。境界ハ不規則ナル山嶺ニ沿ヒテハ、界線ノ曲折出入セルコト言フヲ待タズ。殊ニ草山村ハ北ニ出テ後川村ハ南ニ膨脹ス。面積ハ二十五、二平方里。我國ノ全面積四萬三千餘方里ニ比シテ千七百分ノ一弱ニ當ル。

地勢。中國山脈ハ山城ノ北方ヨリ來リ幾多ノ小山脈ニ分裂シテ低キ平凡ノ丘陵山嶺トナリテ丹波ヲ通過ス。所謂丹波山地是ナリ。而シテ我ガ多紀郡ニ於テハ中央僅ニ篠山平野ヲ殘スノミニテ南、北俱ニ數條ノ山脈トナリテ西走シ郡ノ大部分ハ此ニ全ク山地ヲナス。故ニ全郡ノ地勢ハ概シテ四隣ノ地ヨリ高ク、即チ篠山町立町ノ北端街路ニテ海面上標高二百七米アリ。之ヲ園部町(百二十四米)

ニ較スレバ八十三米高ク、柏原町(百十米)ニ比スレバ九十七米高ク、而シテ福知山(十七米)ヨリハ百九十米、三田町(百四十七米)ヨリハ六十米高シ。サレバ旅人ノ郡境ヲ越エテ他ニ出ヅルモノ何レモ少シク登リテ多ク降ルヲ覺ユ。川流モ亦多クハ源ヲ本郡ニ發シテ他郡ニ出ヅ。唯後川(ソノカガハ)ノ他郡ヨリ來ルアルノミ。

篠山平野ハ郡ノ中央ニアリ。今篠山城趾或ハ王地山ニ登リテ眺望スレバ連山ニ圍マレナガラ聊脚下ニ餘裕アリテ水田相連ルヲ見ルベシ。是即チ篠山平野ニシテ東西約三里、南北約一里ニ亘ル。然レドモ此間亦多少ノ獨立丘陵アリテ散在ス。

山。郡境ハ總テ山嶽重疊スルノミナラズ、郡内亦山峯多シ。故ニ吾人何處ニ立ツモ常ニ青巒萬重ノ内ニ在ルヲ免レズ。郡ノ面積二十五平方里アリ之ヲ換算スレバ三萬九千町トナル。内三萬町ハ即チ山ニシテ殆ンド全郡ノ四分ノ三以上ニ當レリ。今比較的著シキ山峯ヲ左ニ擧ゲン

三嶽(七九三米) ハ篠山町ノ北、少シク東ニ偏シテ立ツ。畑村ノ北ニアルヲ以テ又畑山トモイフ。畑村ヨリ登レバ二十七丁ニテ山嶽ニ達ス。郡中第一ノ高山ニシテ山嶽ヨリ展望スレバ東ニ山城ノ愛宕山、南ニ攝津ノ六甲山ヲ見ルベク、北方ニハ天田郡ヲ見オロシ尙天氣快晴ノ日ニハ起伏連亘セル山脈ヲ越エテ遠ク日本海ノ一部ヲ見ルヲ得ベシ。而シテ山ノ北面ニハ石南花茂生シ花時香雲叢郁タリ。此山ハ古ハ藍婆ヶ峯ト稱シ三嶽寺大伽藍ノアリシ所ニシテ維新前ニハ瀧山老樹ニテ良森林

タリシガ維新後濫伐ト火災トニヨリ次第ニ荒廢ニ歸シ所々ニ山骨ヲ現ハスニ至レリ。然レドモ今ハ植林計畫ノ進行中ニテ他日豊大ナル良林相ニ回復スルナルベシ。

西ヶ嶽(七二七米) ハ三嶽ヨリ六十六米低ク三嶽ノ西方千米ノ所ニ立ツ。城北村ヨリ登ル山路十三丁。

小金ヶ嶽(七二六米) ハ西ヶ嶽ヨリ一米低ク三嶽ノ東方二千米ノ所ニ立ツ。頂上ノ東北ニ岩門アリ巨大ノ岩石ニテ門關ノ狀ヲナシ莊嚴ナリ。

以上三山ハ東西ニ一直線ニ並ビ立チ郡ノ最高部ヲナス。南方ヨリ仰ギ見レバ三嶽ハ雄大、西ヶ嶽ハ穩健、而シテ小金ヶ嶽ハ岩骨稜々磊落ノ氣ヲ帶ビタリ。サレバ三山何レモ昔ハ修驗者ノ攀躋苦行セシ所ナリト云フ。三山ニ亞ギテ七百米以上ノモノ又三ツアリ。

白髮嶽(七二二米) ハ味間村ノ南ニアリ。山上ヨリ播磨灘ヲ望ムベク、味間村ヨリ登ル山路一里九丁。

彌十郎ヶ嶽(七一五米) ハ日置村ノ東南ニアリ。日置村ヨリ登ル山路十五丁

西光寺山(七一三米) ハ今田村ノ西、郡境ニアリ。

以上六高山ノ外ハミナ七百米未滿ナリ。

高仙寺山(六八四米) ハ白髮嶽ノ東ニ連リテ千米ノ所ニアリ。峯頭二ツニ分レ北ノ方稍高シ。東

南ノ山麓ニ高仙寺アリ。北麓ニ文保寺アリ。古來ノ名刹ニシテ維新前ニハ盛ナリシガ今ハ昔ノ如クナラザレドモ尙本堂庫裡舊觀ヲ存シ古松老杉蒼鬱シ幽邃閑雅何レモ夏日杖ヲ曳クニ宜シ。味間村ヨリ登レバ山嶺二十五丁、古市村ヨリハ十八丁。

八ヶ尾山(六七八米) ハ大芋村小原ニアリ大芋村ヨリ登レバ十二丁。

愛宕山(六四九米) 又如意ヶ嶽トモイヒ或ハ龍藏寺山トモイフ。城南村真南條上ノ東南、郡境ニアリ。篠山町ノ正南ニ當リ頭部急ニ尖リテ樹木蒼蔚スルモノ是ナリ。北面ニ愛宕ノ神祠アリ。又龍藏寺ノ墟址アリ。昔ハ龍藏寺、文保寺、高仙寺ヲ俗ニ三山ト稱シタリキ。城南村ヨリ登レバ二十丁。

三國ヶ嶽(六四八米) ハ城南村小枕ノ南、郡境ニアリ。愛宕山ノ東方二千米ニ當ル。尙同名ノ

三國ヶ嶽(五〇八米) ハ大芋村ノ東南隅ニモアリ。

黒頭峯(六二二米) ハ大山村ノ北方、郡境ニアリ。其東ニ近ク夏栗山(五九六米)アリテ相並ブ。

黒頭峯ハ頂尖リ、夏栗ハ圓シ。兩山トモ大山村ヨリ登レバ各二十丁ニテ嶺ニ達スベシ。

和田寺山(五九〇米) ハ今田村ノ中央ニアリテ各部落之ヲ環繞ス。東麓ニ和田寺アリ。

櫃ヶ嶽(五八二米) ハ大芋村宮代ノ北ニアリ。大芋村ヨリ登レバ八丁。上ニ櫃ノ如キ、四所アルヲ以テ此名ヲ得タリトイフ。

金山(約五三七米) ハ大山村鐘ヶ阪隧道ノ南ニアリ。コノ山ニ天然ノ一大石橋アリ。天狗ノ掛橋ト云フ。

盃ヶ嶽(四九六米) ハ三嶽、西ヶ嶽ノ山脈ノ西南ニ延ビタル端ニシテ岡野村西濱谷ノ北ニアリ

岡野村ヨリ登レバ十四丁、盃ヶ嶽ノ北方二千米ニ觀音山(五八九米)アリ東腹ニ觀世音ヲ安置ス。世ニ岩屋ノ觀音トイフ。其絶頂ノ岩石東方ニ突出シ鼻ノ噴ノ如シ、ふくらみぢりのくちばしトイフ。

高城山(四五九米) ハ朝路山又八上ノ城山トモ云フ。日置村八上々ノ東南ニアリ。往昔八上城ノアヲシ處ナリ。其形稍富岳ニ似タリトテ人呼デ丹波富士ト云フ。滿山悉ク松樹翠色揃スベク松茸叢生シ香味愛スベシ。國有林タリ。日置村ヨリ登レバ十丁。

飛ノ山(二六一米) ハ又富ノ山トモ書ス。練兵塙ノ南ニ接スル獨立丘ナリ。其東麓ナル蟠龍庵ニハ舊藩主青山家代々ノ塚塋アリ。西南ノ谷ニハ諏訪社アリテ建御名方命ヲ祀レリ。

王地山(二四六米) 篠山町ノ東ニアル小丘ニシテ公園地ナリ。

尙東南境ニ深山(七九一米) アレドモ山嶺ハ本郡ヲ離レテ南桑田ト豊能ト兩郡ノ境ニアリ。

以上ハ著シキ山數個ヲ記シタルノミ。コノ外ニモ峯巒渺カラズ。吾人ハ朝ニ盪喇スルト共ニ山ヲ見タニ戸ヲ閉デントシテ復山ニ對ス。始終吾人ノ面前ニ立塞ガルコノ山岳ハ郷土ヲ狭小ナラシムルガ如シト雖モ亦吾人ニ着實ノ美德ヲ與フルモノナリ。而シテ近時文明ノ餘澤ヲ受ケ山ハ整タレテ鐵

路通シ坂ハ夷ゲラレテ坦途トナリ交通ノ不便ハ漸次ニ除カル。サレバ吾人ハ退キテハ本據ヲコノ山  
 間ニ置キテ益質實剛強ノ性ヲ養ヒ進ンデハ廣ク社會ト交通シ機敏ニ活動シテ郡ノ面目ヲ新ニセザル  
 ベカラズ。殊ニ山岳ハ建築用材及薪炭ヲ莫大ニ産出スルモノナレバ益々林業ノ發達ヲ計リ山中ノ寶  
 庫ヲ開發セザルベカラズ。

郡ニハ火山ナシ。

鑛山ハ現ニ採掘中ノモノナシ。但味間村味間奥ノ西ニ銅銀ヲ産スレドモ含有量少ク收益ノ見込疑  
 ハシ。日置村會地奥ナル堂ガ谷ニモ銅ノ舊坑アリ。大山村荒子新田ノ奥及ビ後川村後川中ノ南ニモ  
 銅ノ舊試掘坑アリ。福住村本明谷ノ奥及ビ日置村會地中宇四十九ニ各まんがん坑アリ。雲部村奥縣  
 守ヨリ砥石ヲ産シ福住村川原ノ奥ニ硫鐵鑛ヲ産シ草山村本郷ニ硯石ヲ産ス。古來多紀郡ニハ黃金ノ  
 鑛脈アルベシト(目下試掘中ノモノモアリ)。

川。郡中ノ水ノ大部分ハ集リテ篠山川トナリ郡ノ中央ヲ西ニ流ル。篠山川ニ入ラザルモノハ後  
 川、草山川、木津川、小野原川、田松川等トナリテ各自郡外ニ出ヅルナリ。

篠山川ハ上流ヲ大芋川トイフ。東境ノ三國岳ヨリ發シ大芋村ヲ流ル、間ニ藤坂川、筱見川ヲ合セ  
 南流シテ向井村ニ至リ縣守川、粉井川ヲ合セ是ヨリ篠山川トナリ西流シテ辻川、會地川、畑川、奥  
 谷川ヲ合セテ篠山町ノ南ヲ過ギ尾根川、小枕川、黒岡川、藤岡川ヲ合セ尙西ニ流レテ泥川、宮田川

大山川ヲ合セ水上郡ニ出デ、佐治川ニ會シ播磨ノ加古川トナリ高砂港ニ至リテ播磨灘ニ注グ。本郡  
 ヲ經過スル里程ハ凡ソ十一里二丁。

篠山川ノ河幅ノ參考トシテ橋梁ノ長サヲ次ニ示ス(暨物橋、小瀧橋ハ實測、其外ハ町村誌ニヨル)

大芋村大藤ノ	見山橋	二間
大芋村福井ノ	蛸井橋	八間
村雲村向井ノ	出合橋	十八間
雲部村泉ノ	泉橋	二十二間
城北村野間ノ	辨天橋	二十五間
篠山町ノ東端	京口橋	五十四間
篠山町ノ内南新町ノ	暨物橋	四十一間
岡野村東岡屋ノ	波瀨橋	四十四間
南河内村川北新田ノ	西島橋	二十四間
南河内村黒田ノ	小瀧橋	十三間六分
大山村大山下ノ	一ノ瀨橋	二十間

是ニヨレバ河幅ハ篠山平野ヲ通過スル間最モ廣ク下流ハ却テ狹マルヲ見ル。蓋シ平野ニ在リテハ兩

岸低ク且土質軟カナルヲ以テ大雨ニ際シ汎濫シテ自由ニ河幅ノ擴張セラレシナラン。其ノ篠山平野ヲ流ル、間、殊ニ河身ノ屈曲點ニテ沿岸ニ災害ヲ被ラシメタル所アリ。今被害修繕ノ跡ヲ見ルニ左岸ノ村落ハ自己ヲ防護スルタメニ堤防ヲ築ク、由リテ洪水ノ際ハ水勢右岸ヲ衝キテ之ヲ崩壊ス。右岸ノ者亦自己ヲ防護スルタメニ石垣ヲ築ク、是ニ於テ左岸復其災ヲ被ルヲ免レズ。斯ク水ハ兩岸ニ依テ翻弄セラル、ヲ以テ次第ニ蜿蜒曲折シ一旦豪雨數日水勢滔々山ヲ抜クニ至リテハ終ニ濁浪奔馬ノ如ク突進シテ田園ヲ流シ新水路ヲ造ルニ至ル。斯ノ如クシテ河床ノ變遷セシ跡ハ所々ニ認めラル日置村曾地川ノ東、縣道ノ南側ニ柳ノ老幹一株アリ元六株アリシガ漸々ニ減ゼシナリ。コハ中古源頼光等主従六人大江山ニ赴ク途上携ヘシ杖ヲ此處ニ樹テシガ生育シタルモノナリトノ口碑ヲ附會スルモノアリタレドモ往時篠山川此處ヲ流レ其ノ南岸ニアリシ一列ノ柳樹ガ今殘存セルモノナラン。又日置村畑井ノ西(川ノ左岸)ニモ、八上村糶ヶ坪ノ北(川ノ左岸)ニモ、味間村西吹ノ北(川ノ左岸)ニモ、南河内村川北新田ノ南(川ノ右岸)ニモ昔ノ河床ノ跡アリテ今ハ水田トナレドモ堤防等ノ痕跡ヲ認ムルヲ得。此川ハ平時ニハ水量少ク河床ノ大部分ハ砂礫ノ川原トナル故夏日濁水ノ際ニハ衣ヲ塞グズシテ徒涉シ得ル所アルニ至ル。コレ篠山平野ニ於ケル篠山川ノ状態ナリ。之ニ反シテ下流ハ又大ニ趣ヲ異ニシ誠ニ壯觀ナリ。請フ次項ヲ見ヨ。

小瀧。南河内村黒田ノ南少將山ノ西ニ至レバ河底一面ニ頑固ノ岩アリ。古來流水ノ侵蝕ニ抵抗

シテコノ地位ヲ保チ上流河底ノ低下ヲ防禦スルモノ、如シ。已ムヲ得ズシテコノ岩ノ上ヲ流ル、水ハ岩ヲ離ル、ヤ直ニ侵蝕ヲ逞フシテ河底頓ニ低下シコ、ニ數尺ノ懸瀑ヲ現ハス。所謂小瀧是ナリ。コ、ニ架セル吊橋ヲ小瀧橋ト云フ。三十二年二月ノ架設ニ係ル。橋上ヨリ俯瞰スレバ深碧數尺ノ下ニ在リ夕陽少將山ノ翠衣ヲ染ムル頃川魚潑刺トシテ銀鱗ヲ漾スナド又一奇觀タリ。

大瀧。小瀧ヨリ下流ハ兩岸高ク壁立シ河底低ク或ハ潭トナリ或ハ瀬トナリテ大山村大山下ノ大瀧ニ至ル。大瀧ハ第二防護岩ニヨリテ造ラレタル數尺ノ瀑布ナリ。此處ハ元來南北ニ亘レル山脈ノ低部ナルガ水ハ其山骨ヲ破リテ通過セントシ岩石ハ是ニ抗シ相争フコト太古ヨリ歇マズ岩石ハ次第ニ噬嚼セラレテ水路通ズレドモ尙頑然トシテ遺留セル巨岩ハ或ハ臥牛ノ横ルガ如ク或ハ河馬ノ立ツガ如ク或ハ水流之ニ激シテ雷聲ハ日夜絶エズ。

川代。小瀧ヨリ大瀧マデハ約八丁。大瀧ヨリ下ルコト約半里ノ所ヨリ約一里ノ間ヲ川代ト云フ。郡境ノ山脈ヲ破リテ通セルモノナレバ兩岸ハ數十尺ノ斷岩ニテ水ハ巨岩亂立ノ間ヲ過ク。且傾斜急ナル故碎ケテ水球トナリ繞リテ渦ヲ卷ク。或ハ瀑布ノ狀ヲナシ、或ハ深潭トナル。ちが淵ノ如キハ激流大ニ淀ミテ池ノ如ク絶壁巨岩ノ間ニ洋々タル青波寄來テ壯嚴ニシテ凄氣アリ。水上郡ニ通ズル道路ハ右岸ノ上ニアリ而シテ阪鶴鐵道線ハ東ヨリ來リ左岸ヲ過ギちが淵ノ上ニテ鐵橋ニヨリテ右岸ニ移リ直チニ亦左岸ニ轉ズ。車中ノ旅客ハ遙カ下方ニ勇マシキ岩ノ姿ト烈シキ水ノ流トヲ

見テ快哉ヲ呼バザルハナシ。此ノ如キモノ一里ニシテ溪谷漸ク開ケテ水田ノ間ニ出ヅ。即チ水上郡上久下村ノ内阿草村ナリ。郡境ハ川代ノ中央ニアリ。

川代ノ景色ニ更ニ一層ノ美觀ヲ添ヘタルハ植樹ナリ。即チ大山村ト氷上郡上久下村トノ兩村共同シテ明治四十一年十一月川代ノ東口ノ少シク東ヨリ西口ノ少シク西マデ一里半ノ間縣道ノ兩側ニ櫻千本、松千本、楓五百本ヲ植エタリ。櫻ニハ最心ヲ籠メ將來川代ノ千本櫻ト稱セラレンコトヲ期スルナリト。

篠山川ニハ舟運ノ便ナシ。是レ土地ノ傾斜急ニシテ水量乏シケレバナリ。其ノ傾度ヲ見ルニ水源地大芋村ノ大藤ニテ水面三百米、篠山町ノ南ニテ二百米、川代ノ中央ニテ約百五十米ナリ。日露戰後企業熱高キ時此流水ニ依リテ水力電氣事業ヲ試ミントシタル人アレドモ遂ニ着手ニ至ラザリキ下流ナル播州加東郡瀧野ハあゆノ名産地ナルニ我郡迄ハ登リ來ラズ。サレド其他ノ川魚ハ中々ニ多ク郡民釣漁ヲ以テ娛樂ノ一トス。日置村ノ篤志家波部本次郎氏鰻ノ兒數萬ヲ此川ニ放チシコトアリト云フ。

後川川ハ豊能郡深山ヨリ發シ同郡根根莊村ノ内天王村一部落ノ水ヲ集メテ本郡ニ入り後川村全部ノ水ヲ合セテ南流シ郡境ノ谷ノ間ヲ貫キテ有馬郡ニ出デ千狩川トナリ武田尾ニテ武庫川ニ入ル。

田松川ハ新川トモ云フ明治六年豊岡縣費ヲ以テ開鑿セラレタリ。八上村八上々ニテ篠山川ヨリ南

ニ分レ水田ノ間ヲ西ニ直流シテ味間村大澤ニ至リ其ヨリ南ニ折レ終ニ古市村草野ヨリ有馬郡ニ出デ武庫川ノ上流トナル。元來運輸ノ爲ニ作リタルモノニテ始ハ小舟ヲ通シテ運輸ニ用ヒタレドモ其後荒廢シテ今ハ徒ニ魚類ノ運動場トナリ時々灌漑ニ利用セラル、コトアルノミ。味間村大澤俗稱辨天ガ鼻ニテ泥川ト交叉ス。以前ニハ泥川ハ下ヲ流レ田松川ハ二階ヲ流レタリシガ今ハ崩レテ田松川ノ水ハ泥川ニ落チ北流シテ篠山川ニ入ルナリ。

因ニ云フ此ノ川ハ明治六年豊岡縣奉行田中參事、松島權參事ノ兩人專ラ工事ノ主任トナリタレバ兩姓ノ頭字ヲ取リテ田松川ト名ヅク。當時池上村字藏ノ坪(今ノ遊廓地ノ北部)ニ港ヲ作り物品積卸ノ場所ト定メ一時有馬郡三田町マデ舟筏ヲ通シ運輸ノ便ニ供シタリシガ迂遠ニシテ實際其用ヲナサザリシガ爲メ間モナク廢止トナリタリ。此川ニ架セル橋ヲ田松橋ト云ヒ田松橋ノ東岸ニ立ラル松樹ハ當時主任兩氏ガ工事ノ記念トシテ植エタルモノナリト云フ。

小野原川ト木津川トハ共ニ今田村ニアリ。小野原川ハ和田寺山ノ東ノ部落ノ水ヲ集メ木津川ハ其西ノ部落ノ水ヲ集メテ俱ニ南流シ郡境ニテ兩水相合シテ一トナリ有馬郡ヲ經テ加東郡ニ至リ東條川トナリ遂ニ加古川ニ合ス。

草山川ハ三嶽ノ北ヨリ出デ草山村ノ水ヲ集メテ北流シ天田郡ニ出デ、菟原川トナリ終ニ福知川ニ合シテ由良川トナリ北海ニ入ル。



川ノ修理。 河川ノ功用大ナルコト固ヨリ論ヲ俟タザレドモ又之ニ要スル費用尠カラズ。 篠山川ノ堤防修理費ハ壹萬四千六拾壹圓(大正五年度)ニシテ凡テ縣費ヲ以テス。 其他ノ川ハ工事ノ程度ニ應ジテ補助セラル。 川ト補助外ノ溝トノ區別ハ普通川ノ状態ヲ具ヘタルモノハ皆川トシテ補助ヲ受ケ用水路悪水路ノ形ナルモノハ補助セラレズ。 例ヘバ宮田川ニ就キテ言フニ倉本池ヨリ上ハ池ニ入ルベキ用水路ナレバ補助セラレズ、池ヨリ下ヲ補助川トスルガ如シ。 篠山川ハ度々沿川地方ニ迷惑ヲ掛クルコト遺憾ナレドモ大改修ヲ行ヒテ永久ニ損害ヲ免ルベキ見込立チ難シ。 併シ八上村附近ヨリ以下ヲ改修シ川代ノ水吐キヲヨクセバ相當ノ利益アラソ。

篠山川筋ニ於テハ水利關係者爲メニ用水堰ノ設ケアリ。 其構造ニ就キテハ堤防ノ保護及河身ノ保持上ニ注意ヲ要スベキナルニ只揚水量ノ多カラシコトヲ望ミテ他ヲ顧ミズ堰ノ高ク長キコトヲ競フニ由リ河床ニハ漸次砂礫ヲ堆積シ却テ溜水量ヲ減ズルノミナラス河床ヲ高カラシムル爲メニ一朝洪水ノ際ニハ堤防ニ及ボス損害多大ナリ。 今日堰ノ構造ヲ改メテ中切ヲナシテ中央部ニ水路ヲ存シ出水ノ際水力ヲ利用シテ堆積セル土砂ヲ浚渫シ流身ノ保護ヲナスニアラズンバ將來一層ノ大害ヲ來センコトヲ恐ル。 貝田、本莊、上宿ノ堰ハ善ケレドモ八上新村、泉、般若寺、野間、澁谷、吹島、ナドハ改造ヲ希望ス。

氣象。 左表ヲ參照スベシ

全年度ノ平均温	年中ノ最高温度	年中ノ最低温度	全年度ノ降水量	恒春	臺北	鹿兒島	神戸	篠山	東京	秋田	旭川
二四、九	三三、二	一三、二	一九三、〇	八月廿五日	七月廿八日	八月廿四日	八月二日	七月一日	七月十九日	八月一日	七月卅一日
三三、二	三七、五	七、五	二四五、〇	八月廿四日	八月二日	七月一日	七月十九日	八月一日	七月十九日	八月一日	七月卅一日
一七、〇	三五、九	一、九	二七五、〇	八月二日	七月一日	七月十九日	八月一日	七月十九日	八月一日	七月卅一日	七月卅一日
一五、五	三六、一	(-) 四、三	一五四、四	七月一日	七月十九日	八月一日	七月十九日	八月一日	七月十九日	八月一日	七月卅一日
一四、八	三六、〇	(-) 一〇、八	一八六、七	七月十九日	八月一日	七月十九日	八月一日	七月十九日	八月一日	七月卅一日	七月卅一日
一四、二	三四、二	(-) 五、五	一九七、〇	八月一日	七月十九日	八月一日	七月十九日	八月一日	七月十九日	八月一日	七月卅一日
一〇、六	三三、七	(-) 一六、七	一七六、〇	七月十九日	八月一日	七月十九日	八月一日	七月十九日	八月一日	七月卅一日	七月卅一日
五、〇	三三、九	(-) 二八、三	二二〇、〇	七月卅一日	七月卅一日	七月卅一日	七月卅一日	七月卅一日	七月卅一日	七月卅一日	七月卅一日

備考。 神戸篠山ノハ兵庫縣氣象表大正五年ノ表ニ據リ其他ハ國民年鑑大正五年ノ表ニ據ル。 平均温度ハ毎日午前十時ノ温度ヲ平均シタルナリ。 温度ハ攝氏ナリ。 (-)ハ零下ノ温度數ナリ。 降水量ハ耗(ミリメートル)ノ數ヲ示ス。 一耗ノ降水量ハ地面一坪ニ一升八合三勺ノ水ヲ撒布シタルニ同シ。

温度。 全年ノ平均温度ニヨリテ本郡ノ温度ヲ他所ト比較スルニ全國ニテ測候所所在地中平均温度ノ最も高キハ臺灣南部ノ恒春ニシテ二十四度四分。 最も低キハ石狩ノ上川ニシテ五度ナリトス。 神戸ハコノ兩極點ノ中位ニアリテ約十五度ナリ。 而シテ本郡ハコレヨリ更ニ低キコト約二度トス。

一年中ノ最高温度ハ全國ヲ見ルニ三十八度ヨリ三十一度マデノ間ニアリ。篠山ハ大正四年ノ最高ハ七月一日ノ三十六度ナリキ。而シテ一年中ノ最低温度ヲ見ルニ各地大ナル差アリ、即恒春ノ十三度ヨリ上川ノ零下三十一度マデ其間四十四度ヲ隔ツ。而シテ篠山ハ大正四年ノ最低ハ一月十五日ノ零下十度八分ナリキ。實況ヲ見ルニ北海道、滿洲富士山嶺ノ如ク煙管ノ唇ニ附着シ酒類ノ凍ル等ノ例ハナケレドモ硯水凍リ筆端固マル等ノ事往々アリ。而シテ雪ハ山野ヲ被ヒテ全郡ヲ銀世界タラシムルコト冬時ニ珍シカラズト雖モ而モ積雪ハ漸次ニ融解セラル、ヲ以テ平地ニ一尺以上積ルコトハ稀ナリ。孟春季秋ノ候霜置キ霰飛ビ夏時雷電急雨ノ來ル等大低同緯度ノ他地方ノ氣象ト異ルコトナシ唯丹波ノ霧海ト云フモノアリ。コハ秋冬ノ候未明ヨリ濃霧タチコメテ一町ヲ隔ツレバ何物ヲモ見ル能ハザル現象ニテ所謂北海ニ生ズル濃氣ニ異ナラズ。午前十時頃迄ハ天地朦朧トシテ日光ヲ見ザルコト多シ。コレ山嶺ノ間ニアル丹波ノ特徴トス。但本郡ノ霧ハ福知山ノ如ク甚シカラズ。

降水量ハ一ヶ年ニ本邦西南諸地方ニハ三千耗以上ノ所アリ。東北ニ至ルニ從ヒ漸ク減ジテ北海道ニテハ千耗未滿トナル。而シテ篠山ハ千八百餘耗ナリ。

土質。草山、後川、今田ノ三ヶ村ヲ除クノ外ハ概ネ重粘土ニシテ耕地深ク吸收力並ニ保水力ニ富ムト雖モ肥料分解力弱シ、地味中位ニシテ至ル所米麥作ニ適セリ。畑地ニアリテハ桑茶亦生育シ難キニアラズ。草山、後川、今田ノ三ヶ村ハ前者ニ比シ稍壤質ヲ含ミ何レノ農作物ニモ適ス。山岳

原野地ニアリテハ概ネ瘠薄タルヲ免カレザレモ到ル處赤松能ク繁茂シ杉檜カネキ等亦生育ス。

禽獸。本郡ノ山中ニ棲ム鳥獸ニ就キテ狩獵家ノ説ヲ參取スルニ郡特有ノ種類トシテ擧グベキモノナシト雖モ然シ大ナル野獸ノ住ムハ三嶽、小金ヶ嶽ノ北面、高仙寺山等ヲ主トス。猪ハ是等ノ林中ニ常ニ棲ミ獵者ノ最重要ナル獲物ナリ。一年ニ五十頭位ハ獲ラル。龍藏寺山ニ來ルコト稀ニハアレド永澤寺山ヨリ渡ルナリ。永澤寺ヨリ東方豊能郡ノ深山山系及南桑田郡ノ半國山系ハ野獸ニ富ミ猪ナドモ其處ヨリ渡リ來ル。又天田郡ニモ深林多キ故多ク獲ラル。其須知ヨリ送ラレテ篠山町ノ肉店ニ吊サル、モノ多シ。鹿モ三嶽、小金ヶ嶽、及ヒ桑原、本郷、後川等ノ深山ニ棲ミ。一年ニ獲ル所十頭内外ナラン。猿モ三嶽、小金ヶ嶽等ニ棲メドモ捕獲シ難キ故一年僅ニ五頭位ナラン。栗鼠ハ到ル處ノ深山ニ棲ミ狐狸又山林ニ多ク貂モ少ナカラズ。狼、熊ニ至リテハ絶エテ見ルコトナシ。但維新以前ニハ狼ガ三嶽傳ヒニ倉本村ナドノ山ニ來リシコトアリト老人ハ云ヘリ。雉子、山鷄ヤマドリハ山野ニ甚ダ多クコレ等狩獵家ノ重ンズル鳥類ハ狩獵規則ニ保護セラル、故カ數年前ニ比シテ三倍位ニ増加セシナラン。サレバ阪神地方ヨリ遊獵家ノ入込ムモノ多ク屢々良結果ヲ獲テ得々トシテ歸ル。

區劃

郡ヲ分チテ一町十八ヶ村ノ自治團トス。内ニ大字十三ヶ町二百十三ヶ村アリ次ノ如シ。但戶數ハ

大正四年十二月末日現在ヲ以テ算ス。

篠山町 一三〇戸。(郡ノ人文ノ中心ナリ)ノ内

東新町 一〇九戸、舊城ノ東ニアリ。

西新町 八五戸、舊城ノ西ニアリ昔ノ徒士町西堀端ヲ含ム。

南新町 一一七戸、舊城ノ南ニアリ篠山川マデ。

北新町 八八戸、舊城ヲ含ミ鳳鳴義塾、稅務署、郡役所、町役場、小學校等アリ。

乾新町 六四戸、町ノ西北ニ突出シ聯隊區司令部、憲兵屯所、篠山町驛アリ。

山内町 四六戸、町ノ北部ニアリ。

以上ハ重ニ舊藩士族邸宅

河原町 一七五戸、町ノ東端ヨリ西ニ趣ク。昔ハ篠山川ノ川原ナリキ、今茲ニ發電所

アリ。

小川町 二二戸、河原町ノ西端ヨリ西ニ直行スル支線街路。

立町 一八二戸、河原町ノ西端ヨリ北ニ走リ折レテ中橋マデ。

吳服町 七〇戸、中橋ヨリ廣小路マデ。篠山郵便局アリ。

二階町 一二九戸、廣小路ヨリ魚ノ棚迄。裁判所、警察署アリ。

魚屋町 五〇戸、魚ノ棚ヨリ西端誓願寺マデ。

西町 九三戸、魚屋町ヨリ南ニ赴キ更ニ西ニ走リ町ノ末端マデ。

八上村 四一五戸。(篠山町ノ東高城山ノ西マデ)ノ内

稲ヶ坪 七五戸、村役場小學校ノ所在地ニシテ此村ノ製紙ハ郡ノ製紙ノ元祖ナリト

云フ。

池上 五六戸、明治四十一年ヨリ遊廓置カル。

小田多 八七戸、平柳谷ニ屏風岩アリ。

奥谷 四三戸、奥谷丸一名蕪谷丸ノ城址ハ高城ノ前身ナリ。

西八上 二七戸、井根山ノ松茸ハ豊饒ニシテ佳味。

八上内 四五戸、誓願寺谷ニ足利義輝ノ遺子天譽住ミタリト云フ。

八上下 三八戸、奥谷ヨリ澁谷マデヲ昔ハ八上下町ト云フ。

澁谷 二一戸、篠山川ト縣道トノ間ニアリ。

松ノ木島 二三戸、澁谷ノ西ニアリ。

日置村 七〇七戸。(高城山ヲ含ミ東方飛會山峠マデ)ノ内

八上新 七五戸、八幡神社、小學校、村役場、郵便局、日置銀行アリ。

上宿 四四戸、六本柳今ハ株ヲ存ス。古昔篠山川ノ堤タリシ處ナリ。  
 井ノ上 三八戸、雲部ニ通ズル岐路アリ。  
 北島 二七戸、傳説ニ源義經此處ヲ通リシトキ講ヲ開キ居リシ故講山アリ。  
 畑井 三四戸、昔松平氏ノ菩提所極樂寺アリタリ。  
 宮ノ前 三九戸、波々伯部神社アリ、參詣人甚多シ。巡查駐在所アリ。  
 小中 三一戸、指物ヲ造ル。  
 畑市 一七戸、西光寺ニ行基作樂師佛像アリ。  
 辻 七〇戸、辻銀行アリ。指物ヲ造ル。  
 曾地口 三三戸、篠山河原町觀音寺ハ昔此村ニアリキ。  
 曾地中 七九戸、四十九トイフ地アリ昔四十九院アリキト云フ。  
 曾地奥 五〇戸、栗ノ實ヲ産ス。曾地川發源ス。  
 野々垣 四七戸、西藏坊ノ居宅ノ跡アリ。  
 八上々 七六戸、高城山ハ三百餘年前波多野氏ノ居城。  
 西庄 四六戸、金剛寺アリ。  
 後川村 一九一戸。(彌十郎ヶ嶽ノ南山間ノ別天地)ノ内

後川新田 三〇戸、籠坊鑛泉ニハ浴客多シ。炭酸株式會社アリ。  
 後川上 七六戸、村役場アリ。  
 後川中 五二戸、小學校アリ。  
 後川下 二一戸、後川川ハコ、ヨリ發シ有馬郡ニ出ヅ。  
 後川奥 一二戸、西境ヲ出デ南ニ數丁ニシテ永澤寺ニ達スベシ。  
 福住村 七二九戸。(飛曾山峠ヨリ東郡境迄)ノ内  
 福住 一六三戸、本郡東部ノ中心商業地ニシテ村役場及ビ福住尋常高等小學校ノ所在地ナリ。  
 川原 三二戸、西方ノ住吉神社ハ永保元年建立。  
 本明谷 三四戸、西方字丸ヶ元ニ本休寺アリ。  
 安口 六七戸、北ノ山ニ安口城址アリ。南ノ谷ニ鍛冶用赤土産ス。  
 西野々 六三戸、西野々小學校ハ安口以東五個部落幼年兒童ノ就學スル學校ナリ。  
 下原山 三七戸、昔ハ中、奥ト共ニ一ノ原山村ナリキ。  
 中原山 一五戸、日吉神社ニテハ舊四月申ノ日ニ申祭ヲ行フ。  
 奥原山 一四戸、原山峠ハ郡ノ東界ナリ。園部マデ二里。

安田 二三月、縣道ノ南ノ杉ノ大樹周圍ニ丈餘。  
 藤ノ木 四〇戸、北方ヨリ幡路川來リ靱井川ニ入ル。  
 幡路 一八戸、東北方ノ谷ヲ越ユレバ大芋村三熊。  
 二ノ坪 一六戸、西方字宮ノ下ニ熊野神社アリ。  
 箱谷 三二戸、光明寺アリ。  
 小野新 二二戸、縣道北ニ分レテ大芋ニ至ル。  
 小野奥谷 二三戸、昔ハ小野新村ト全村ナリシガ承應二年ノ頃分ル。  
 大芋村 四〇二戸。(福住村ノ北ナリ郡ノ東北隅ナリ)ノ内  
 福井 七三戸、縣社櫛岩窓神社ハ古來著名ナリ。  
 中 三九戸、村役場及學校アリ。  
 三熊 二七戸、葛粉ヲ産ス。  
 小原 五四戸、井尻信濃守ノ城址アリ。毘沙門ノ瀧アリ。  
 藤坂 六三戸、脇屋義治ノ白藤城址アリ。中馬氏ハ城主ノ子孫ナリ。  
 小倉 二二戸、宮代ト、モニ古來勤儉富裕。  
 宮代 三一戸、東北ニ櫃ヶ嶽アリ。

市野々 三四戸、八幡社ノ側ニ窟アリ。  
 立金 一九戸、大杉神社アリ其所ニ杉ノ大木アリ。  
 大藤 二七戸、大藤川ハ篠山川ノ源ナリ。  
 奥山 一二戸、東境ヲ越ユレバ船井郡竹野村。  
 村雲村 四〇六戸。(大芋村ノ西南北ニ長シ)ノ内  
 向井 五一戸、大芋川ハ靱井川ヲ合セテ篠山川ト呼バル。  
 柄梨 二〇戸、西方ニ柄梨城址アリ。  
 貝田 二〇戸、昔ハ垣田村ト書キタリ。下ノ宮神社アリ。  
 井串 一五戸、昔ハ細工所村ト一村ナリキ。山田池アリ。  
 細工所 三五戸、東方ニ細工所城址アリ。  
 塩岡 一五戸、郡役所ヘ二里三十丁。  
 草上 四四戸、村役場、小學校アリ。  
 垂水 一五戸、西北隅字清瀧ニ觀音堂アリ。  
 小立 三一戸、昔ハ垂水村ト一村ナリキ。  
 山田 二四戸、道ヨリ西方ニ入込ミタル里ナリ。

小田中 五〇戸、中央字菖蒲谷ニ稻荷神社アリ。村雲銀行アリ。

下笹見 四五戸、西方字宮倉ニ九頭女神社アリ。

上笹見 四一戸、笹見川ノ上流ニ瀑布七ヶ所アリ。

雲部村 三二四戸。(村雲村ノ西)ノ内

奥縣守 二四戸、縣守川出ヅ。南ニ衣笠山アリ。

縣守 五二戸、埴輪ノ出ヅル所ノ石壘十一ヶ所在。應仁坂ヲ越エテ垂水村。

東本莊 六一戸、車塚ハ丹波道主命ノ陵墓ナラント云フ。

西本莊 三三戸、村役場、雲部小學校アリ。

佐貫谷 二〇戸、東方ノ足坂ヲ越ユレバ西本莊ナリ。

泉 五三戸、葭池ハ面積三町四反餘郡中最大。

春日江 五八戸、式内熊按神社アリ。

倉谷 一三戸、田ノ水持善ク池ナケレドモ旱害ヲ受ケズ。

畑村 四二一戸。(三嶽小金ヶ嶽ノ南ニアリ)ノ内

畑宮 三九戸、佐々婆神社、學校、村役場アリ。

大淵 二一戸、西方ニ稻荷神社アリ。

和田 五四戸、善法寺ハ郡西國ノ靈場ノ一ナリ。

般若寺 五〇戸、謠曲盛ニ行ハル。

大上 三八戸、蔬菜類ノ名産地ナリ。

今谷 九戸、中部ニ春日社アリ。郡役所ヘ一里廿三丁。

火打岩 五六戸、北ノ坂ハ三嶽小金ヶ嶽ノ間ヲ越ユ。

奥畑 五〇戸、曹洞宗太寧寺ハ嘉吉三年開基。

丸山 一戸、谷ハ城北村ニ續ケドモ畑村ニ屬ス。

瀨利 五七戸、八百里山ニ畑牛之丞守能ノ城址アリ。畑製糸場アリ。

菅 三六戸、中部ニ金照寺アリ。

城北村 五三一戸。(篠山町ノ北ニアリ)ノ内

郡家 八八戸、練兵場及郵便局アリ。

熊谷 二二戸、南方田ノ間ニ石塚アリ。

藤岡口 一八戸、熊谷ヲ分チテ藤岡トシ更ニ口奥ノ兩字トセリ。

藤岡奥 二八戸、中央ニ閻魔堂西ノ山腹ニ觀音堂アリ。

佐倉 一二戸、寺内ヨリ分レタルナリ。

鷺尾 一九戸、十郎靈社ニ傳説義經ノ嚮導鷺尾十郎ヲ祀ル。  
 知足 二二戸、北ニ西ヶ嶽アリ。  
 大谷 七戸、普寺内村ヨリ分レタリ。知足川流ル黒岡川ノ上流ナリ。  
 寺内 二二戸、北方ニ式内大賣神社アリ。  
 黒岡 七七戸、村役場小學校ノ所在地ニシテ西北ノ田間ニ玉水ト云フ清泉アリ。  
 澤田 六五戸、小林重範ノ城址アリ。城北銀行アリ。北澤田ヲ合併セリ。  
 大熊 一八戸、傳説笛ノ薬師ハ元平敦盛ノ笛ヲ藏セリトカ。  
 新莊 六〇戸、中部字山ノ口ニ八幡神社アリ。  
 野間 四四戸、篠山川ノ南岸ニ野間ノ辨天ヲ祀レリ。  
 澤田島 二八戸、王地山ノ東方田野ノ間ノ一村ナリ。  
 岡野村 三六八戸。(篠山町ノ西ニアリ)ノ内  
 西岡屋 五七戸、諏訪神社ハ天平勝寶ノ頃分祀。西濱谷ノ間ニ村役場小學校アリ。  
 有居島 三一戸、岡野ノ西南隅ナリ。  
 東濱谷 二九戸、南ニ兵營アリ。  
 西濱谷 三二戸、北ニ盃ヶ嶽アリ。

野尻 三二戸、縣道ノ北ニ野尻池アリ。  
 今福 一六戸、北ノ山ニ松茸多シ。  
 大野 三一戸、縣道ノ北ノ小丘ニ中山寺アリ眺望ニヨシ。  
 矢代 三五戸、歩兵第七十聯隊ノ射的場アリ。  
 東岡屋 七二戸、蟠龍庵ハ青山家代々ノ廟ナリ。  
 風深 二七戸、篠山町ノ西南ニアリ。  
 吹上 六戸、吹島トモ云フ。黒岡川ト篠山川トノ間。  
 南河内村 三四〇戸。(岡野村ノ西ニアリ)ノ内  
 黒田 六九戸、村役場小學校アリ。西南ニ少將山アリ。  
 川北新田 四〇戸、昔川北村ヨリ分レタルナリ。  
 川北 五三戸、篠山川ノ北ナリ。  
 口坂本 三三戸、北河内村ノ坂本ニ對シテ口ノ字ヲ附ケタリ。  
 西坂本 一七戸、口坂本ヨリ分ル。  
 西谷 三三戸、南方死ノ坂ニテ昔岡本丹後守盜賊ヲ平ゲタリ。  
 東木ノ部 一六戸、北ニ乘本池アリ其上ハ宮田城址。

西木ノ部 三五戸、東木ノ部ト共ニ南河内村西北突出部ナリ。  
高屋 二六戸、宮田川ノ東ニ沿フ。  
川西 一八戸、宮田川ノ西ナリ。

北河内村 四七〇戸。(南河内村ノ北ニアリ)ノ内

宮田 六三戸、宮田城ノ址ハ東木ノ部ノ北方乗本ニアリ。

下板井 三二戸、コ、ニテ縣道ハ二分ス。一ノ宮アリ。多紀製糸株式會社アリ。

上板井 五六戸、弘誓寺トイフ大寺アリ。二ノ宮神社アリ。

小坂 五六戸、佐仲池ハ上下二ツニテめをと池ト云フ。

乗竹 三七戸、北河内小學校アリ。

打坂 二七戸、本山葛粉ヲ産ス。村役場アリ。

垣屋 三三戸、東ニ八ヶ嶽アリ藤岡ト界ス。

高坂 二二戸、明治十八年六月北ノ山崩レタリ。

倉本 二七戸、倉本池今ハ坂本ノ地ニアリ。

坂本 一八戸、北ニ福徳貴寺アリ既戸皇子ノ創建ト云フ。

栗柄 一〇二戸、栗柄小學校アリ。不動堂アリ。

草山村 三〇七戸。(北河内村ノ奥、鼓峠ノ東。三嶽小金ヶ嶽ノ北ニ當ル)ノ内

本郷 一一八戸、村役場小學校ノ所在地ニシテ春日神社ハ草山全村ノ社ナリ。

川坂 四九戸、分水嶺ノ東ハ藤坂ナリ。

遠方 七一戸、遠方鑛泉ニ浴客多シ。

桑原 六九戸、大同二年ニ建築シタル堂アリ。

大山村 五二六戸。(郡ノ西北部ナリ)ノ内

追入 三八戸、鐘ヶ坂隧道アリ。西ニ金山城趾アリ。

大山宮 六一戸、縣道ノ南ニ村社追手神社アリ。

園田分 二四戸、長安寺村以西九ヶ大字中ニ散在ス。

大山上 七三戸、大根、芋ヲ産ス。

荒子新田 八戸、西郡境ヲ越ユレハ氷上郡上久下村ナリ。

石住 五戸、昔ハ石積或ハ石角ト書キタリ。

高倉 一四戸、北ニ延暦以來ノ高藏寺アリ古刹ナリ。

一、印谷 二八戸、徳永ノ北ノ谷ナリ。

大山新 二三戸、小學校村役場ハ大山川ノ二ツ橋ニ夾マル。



徳永 一〇戸、正徳ノ頃中澤傳左衛門救民ノ池ヲ作ル延年池是ナリ。  
 町之田 二七戸、東方字池尻ニ池尻神社アリ。  
 長安寺 二七戸、長澤家ノ菩提寺長安寺ノ跡アリ。  
 北野新田 三〇戸、承應二年北野村ヨリ分立セリ。  
 北野 三一戸、南方字初太夫ニ天満神社アリ。  
 大山下 一〇一戸、大山城址ハ長澤義遠ノ居城タリキ。  
 東河地 一五戸、昔東光寺村ト書キタリ。  
 明野 一一戸、昔ハ上野村ト書キタリ。  
 味間村 六九一戸。(岡野村、南河内村、大山村ノ南ニアリ)ノ内  
 東吹 一〇五戸、網掛ニモカ、リテ吹小學校アリ。  
 吹新 一一戸、東吹ト網掛トノ地ヲ割キテ置カレタリ。  
 網掛 三一戸、昔安田川ニ網ヲ掛ケテ魚ヲ取リキ。  
 東古佐 二七戸、元西古佐村ヨリ分立セリ。  
 西吹 四五戸、片山ニ上山城址アリ。  
 西古佐 五八戸、大山驛アリ。西山ニ日露草アリ。

味間北 五二戸、昔ハ北村、南村、奥村ハ一ノ味間村ナリキ。  
 味間奥 一〇〇戸、波多野秀治ノ子孫住ム。  
 味間南 五七戸、文保寺アリ。二村社ハ奥村ニモカ、ル味間小學校ノ所在地ナリ。  
 味間新 六五戸、明暦二年ノ頃味間大澤兩村ヨリ分立。  
 中野 三二戸、寛永以前大澤村ヨリ分立。  
 大澤 七四戸、篠山驛及ビ郵便局アリ。輕便鐵道ノ起點ナリ。  
 大澤新 一一戸、貞享二年ノ頃周圍五ヶ村ヨリ分立。  
 杉 二四戸、元祿ノ頃杉本八右衛門ノ造リシ村ナリ。  
 城南村 五四六戸。(篠山町ノ南ニアリ)ノ内  
 北 三二戸、元野中村ヨリ北ニ分レタル村ナリ。  
 野中 五八戸、尾根川天神社ハ秀治時代ノ建立。  
 谷山 四八戸、稻荷社ノ檜杉ハ良材ナリ。  
 岩崎 四〇戸、岩崎坂ノ上ニ小池アリ早ニモ涸レズ。  
 字土 四九戸、弘誓寺アリ、文明以來ノ古刹ナリ。  
 小枕 九九戸、傳説義經ノ駒鞍ヲ解キ休ミシ所ニシテ村役場及ビ學校アリ。

真南條上

六四戸、愛宕山ニ愛宕社及ヒ龍藏寺アリ。

真南條中

七六戸、北方ニ曾見谷ノ砦ノ跡アリ。城南小學校分教場アリ。

真南條下

五一戸、真南條往還ハ昔播州邊ヨリノ京街道。

栗栖野

二九戸、昔泥深カリシガ山崎川ノ改修ニテ害ヲ免ル。

古市村 六六一戸。(高仙寺山ノ南ニアリ)ノ内

草野

二七戸、田松川ト縣道トハ山間ヨリ有馬郡ニ出ヅ。

古森

二〇戸、昔油井村ヨリ分立。

油井

五四戸、有名ナル石材油石ノ産地ニシテ年額數千圓以上ニ及ブ。

不來坂

一七戸、傳説義經進軍シテ待テドモ平氏ハコ、ニハ來ヌ坂ナリキ。

住山

五二戸、昔不來坂ヨリ分立セリ。

古市

九二戸、波賀野新田ト連リテ市街狀ヲナス村役場アリ。

波賀野新田

五三戸、元波賀野村ヨリ分レタルモノニシテ古市小學校所在地ナリ。

見内

一三戸、二村神社ニ小野道風筆ノ額アリ。

波賀野

六二戸、北方ニ波賀野ノ稻荷社アリ。

當野

四八戸、徳圓寺ノ阿彌陀ハ有名ナリ。

矢代新

一二戸、承應元年ノ頃矢代村ヨリ分立。

南矢代

九〇戸、古市小學校ノ分教場アリ。

犬飼

四九戸、傳説昔人身御供ヲ食フ狸ヲ殺セシ犬ヲ飼ヒキ。

初田

二九戸、酒井主水ノ塚アリ。

牛ヶ瀬

三三戸、淨福寺ニ大銀杏樹アリ。

今田村 六二二戸。(郡ノ西南部ナリ)ノ内

黒石

四六戸、木津川發源。

本莊

七九戸、郡境ノ西光寺山ハ螺ヶ嶽トモイフ。七一三米。

佐曾良新田

一二戸、昔小枕團野氏ノ開墾セシ地ナリ。

今田

二二戸、村役場アリ。

今田新田

三〇戸、寛永三年市原村ヨリ分立。

市原

三四戸、西方只越ヲ越エテ加東郡上鴨川村ニ至ル。

芦原新田

六戸、文政八年市原村ヨリ分立。

木津

五三戸、郡役所ハ五里五丁。

四斗谷

三七戸、昔年貢米四斗ヲ納メシ故此名ヲ得タリト傳説ス。

辰 巳 二五戸、天保十三年ノ頃園田庄十左衛門氏開墾。  
 上小野原 三九戸、昔源義經小野原村ノ民家ヲ燒キテ明ヲ取ル。  
 下小野原 五四戸、今田小學校アリ。  
 休 場 二二戸、和田寺アリ其山ヲ和田寺山トイフ。  
 上立杭 五九戸、上下兩村及ビ釜屋ヨリ立杭燒ヲ産ス。  
 下立杭 五三戸、分教場アリ。  
 東庄分 一四戸、元下立杭村ヨリ分立。  
 釜 屋 四二戸、郡ノ極南端ナリ郡役所ヘ四里二十四丁。  
 間新田分 二戸、木津釜屋兩村ノ中間新開地ナリ。

大正六年四月一日ヨリ行政上事務簡捷ヲ期スル爲メ各村トモ大字ノ村ノ字ヲ省クコト、ナレリ。  
 篠山町。ハ郡ノ中央ニアル小都會ニシテ古來政治ト商業トノ中心タリ。主ナル商業地ハ東端河原町ヨリ西端西町ニ通ズル一條ノ縣道ニ沿ヘル商家ノアル處ニテコノ間約二十三丁。中央ニ舊城地ヲ含ム。其ノ二ノ丸ニ増築ヲ施シテ篠山尋常小學校トセシガ明治四十三年其學校ヲ東三ノ丸ノ新築校舍ニ移シ舊校舍ハ目下女學校ト公會堂トニ用ヒラル。本丸ニハ青山家ノ中宗忠俊公ヲ祀レル青山神社アリ。東ニ王地山ノ公園地アリ西北ニ數丁離レテ歩兵第七十聯隊ノ兵營及ビ練兵場アリ南ニ篠

山川流ル。廢藩後舊藩主ハ東京ニ移住セラレ士族ハ散居或ハ轉籍シテ七百一戸ノモノ今ハ其半ニ足ラズ。斯クテ藩政時代ノ設備ノ衰頹ニ代リテ新文明ノ機關ハ建設セラレ鳳鳴義塾及ビ各學校諸官署及ビ主ナル商業機關アリ官民ノ出入繁シ。商家ハ大都會ヨリ仕入レタル商品ヲ全郡ニ供給スルヲ以テ物貨集散ノ中心タリ。サレド出入スル人集散スル品單ニ一郡ニ限レルヲ以テ大ナル發展ヲ遂ゲズ各自小成ニ安ンジテ廣キ社會ノ進歩ニ伴フコトヲ得ザル點アリ。然ルニ明治四十一年三月近距離ニ兵營落成シテ軍人入込ミタンバ町ノ商業稍活氣ヲ呈シ各方面ニ向上ノ氣運ヲ現セリ。

福住村福住。ハ郡ノ東部ノ中心ニシテ戸數百六十三戸。篠山町ニ次グ市街ナリ。福住分署、福住郵便局、福住小學校アリ。縣道ハ一ハ南ニ分岐シテ池田ヲ經テ大阪ニ達シ。一ハ東ニ向ヒテ園部ニ至ル。北ノ城山ハ俗ニ北山ト云フ。榎井城ノ古跡ナリ。昔榎井越中守教業コ、ニ居守シ八上高城ノ波多野秀治ニ屬シ東方先鋒タリ奮戰シテ明智光秀ニ亡サル。事實ハ榎井家日記ニ詳ナリ。

古市村古市。ハ郡ノ西南部ノ小中心ニシテ波賀野新田ノ人家ト連リテ共ニ九十二戸市街ヲナシ山陰鐵道ハ有馬郡藍本驛ヨリ來リコノ村ノ北ニアル古市驛ヲ過ギテ東北篠山驛ニ至ル。縣道ハ篠山町ヨリ來リ西端ニ分岐シ西ニ行クモノハ今田村ヲ過ギテ播磨ニ出デ南ニ行クモノハ鐵路ニ副ヒテ攝津ニ出ツ。昔ハ追入。福住ヲ合セテ郡ノ三驛ト稱シタリキ。

土地

民有地。本郡ノ民有地ハ次ノ表ニ示スガ如ク總計二萬八千七百町。其内有租地ハ二萬八千五百町、其地價ハ貳百五拾萬圓ナレバ賣買價額ハ大略コノ四倍ニテ壹千萬圓位ナルベシ。其精査ヲナスニ違ナカリシヲ遺憾トス。

多紀郡民有地表 (大正四年十二月現在)

地目	有租地					地價
	田	畑	郡村宅地	山林	原野	
田	一〇七、五四二					二、二五一、四〇三
畑		二七、三四二				一〇二、〇九〇
郡村宅地			一三、一八五			四九三、〇六五
山林				三三、五六一		五〇、〇六八
原野					五、六六四	四四六
其他					五二	四七
計	一八七、三四六					二、七九七、一一九
反別						三三一、一五五・二

地目	免租地										地價
	公立學校地	鄉村社地	墳墓地	溜池	井溝	鐵道用地	保安林	砂防指定地	隔離病舎敷地	其他	
公立學校地	二二二										九六、八二〇
鄉村社地		五									一、三一八
墳墓地			一、二五〇								四五三、八〇八
溜池				一、八七〇							一、三六二、六〇六
井溝					三六						一、九二九
鐵道用地					一六四						二一、三二〇
保安林						四二					一、四二二、六〇一
砂防指定地							六三二				八、八九二、二〇九
隔離病舎敷地								二三			一三、七〇一
其他									一五八		五四、一三一
計										四、三九二	一一二、三二〇、四四三
總計											七、二一九

各町村別ノ有租地ハ次ノ如ク田ノ最モ多キハ

- 味間村 四百五十三町步
- 城南村 四百三十町步
- 城北村 四百二十一町步

山林ノ最モ多キハ

- 今田村 三千六百五十町步
- 大芋村 一千七百〇四町步
- 草山村 一千六百九十九町步
- 大山村 一千六百七十五町步
- 福住村 一千五百町步

宅地ノ多キハ

- 篠山町 一一五、六八七坪
- 日置村 九五、二二八坪
- 味間村 九五、一二〇坪
- 古市村 八四、七五〇坪

福住村 有租地 八二、九八〇坪 (大正四年現在)

町村名	田		畑		郡村宅地		山林	
	反別	地價	反別	地價	反別	地價	反別	地價
篠山町	二〇、二	七、四六四	二五、四	三、九八〇	二五、六八七	一〇一、三六九	四、〇	二五、六
八上村	二八、三	一三三、五二六	一三、九	二、三四九	五三、〇六三	二二、〇六八	一九三、四	七五、五
日置村	四〇、六	一六八、四八〇	三三、一	五、三八六	九五、三三八	三八、一五六	一、三三八	三、四八八
後川村	九、一	三三、二四六	三三、九	五、三七九	二八、一六七	七、八三九	一、三六六	一、九三九
福住村	三三、九	一三二、九一六	二〇、六	三、四〇七	八一、九八〇	三三、三〇一	一、五〇〇	四、〇九七
大芋村	二五、六	八四、二八三	三三、七	五、五八九	五三、三四〇	一四、九四七	一、七〇四	三、一五六
村雲村	二五、七	九七、五九二	一五、一	二、四九八	五一、八三四	一六、九四九	九八、六〇〇	二、五三六
雲部村	二六、三	九九、〇四三	一八、七	三、一五八	五〇、三六八	一六、二二三	一、五七八	二、二二八
畑村	二五、五	一一二、五三一	一九、三	三、二四〇	五五、五一四	一七、六七二	九七、四〇〇	二、五九七
城北村	四二、一	一九四、五五〇	二二、八	三、八五五	七四、〇四〇	二七、七〇一	七〇、八九	二、二六二

岡野村	三七、二	一〇九、六七八	一〇、一	一、六六九	四七、四七二	一八、六〇八	三〇〇、七	九八八
南河内村	二六四、二	二八、五六六	三、六	二、〇九九	四二、三四二	一四、三六八	一三、六	七六六
北河内村	二九一、四	二四、六三三	三九、一	六、〇三九	五六、七五八	二〇、〇七〇	一、二九九・八	二、三四三
草山村	八九、二	二五、三六六	六二、五	一〇、三四四	三四、八五〇	九、二六九	一、六九九・八	二、三八四
大山村	三〇三、四	二八、六九六	七〇、五	二二、三七七	六三、三五〇	二二、二五七	一、六七五・九	四、一五三
味間村	四五三、二	一六二、八四五	七二、二	一一、五二八	九五、二〇〇	三三、五七二	九三三・六	二、七三二
城南村	四〇〇、七	二〇〇、三七九	二二、二	三、七五四	七三、一六二	二五、〇六二	九八三・四	三、〇三七
古市村	三〇七、九	一一〇、九六五	六、九	一〇、五七八	八四、七五〇	三一、九二四	一、三八六・八	三、四七九
今田村	三三五、五	一一七、六五四	二五、〇	三、八八一	七六、七九五	二二、八七五	三、六五〇・六	六、八七五
合計	五、三〇三、六一、一五二、四〇三	六、一〇、六	一〇一、〇九二、三二八、一〇〇	四九三、〇六五、二二、二九二、二	五〇、〇六八			

溜池。民有免租ノ溜池ハ郡中ニ千八百五十二アリ。其内最モ大ナルハ

- 雲部村泉 葎池三町四反二畝二十九步
- 城南村小枕 鍋塚池三町一反四畝一步
- 北河内村坂本 倉本池二町七反八畝八步

葎池ハ過半水極メテ淺ク一面ニ葎ヲ生ズルノミナルヲ以テ戊申詔書ノ記念田トシテコノ一部ヲ埋立テ耕地トナセリ。鍋塚池ハ昔コノ池ヲ掘リシ際大ナル鍋ヲ得テ池ノ傍ニ埋メテ塚ヲ築キシヨリカク名ヅクトゾ。鍋ハ楨ヶ峯千軒坊ノ遺物ナランカ。倉本池ハ五坊谷池トモイフ。山間ニアリテ水深ク水量多ク魚類亦豊ナルニヨリテ名アリ。

國有林 (大正四年末現在)

本郡内ニ於ケル國有林ノ面積ヲ各町村別ニ示セバ次ノ如シ。

町村名	箇所	面積	町村名	箇所	面積
八上村	一	二二・五一〇六	城南村	四	一四八・四三〇一
日置村	二	一四八・〇六二四	古市村	一	五〇・四一一五
雲部村	三	一一・六二一五	今田村	一	五〇・九四〇七
大山村	一	五・六五二六			
味間村	三	五五・四五〇三	計	一六	四九四・一〇〇七

國有林ノ管理機關ハ全國ニ十大林区署アリ。其廣島大林区署ノ管下ニアル當篠山小林区署ハ水上多紀、有馬ノ三郡ヲ管理ス。多紀水上ヲ第一保護區トシ有馬ヲ第二保護區トス。

國有林ノ由來。藩政時代ニ藩主ノ所有林ヲ御林ト稱シ用水溝川ノ堰ノ修築用材ニ供スル山林ヲ井根山ト稱シテ民有林ト區別シタリキ。廢藩ノ時之等ノ中水源涵養、土砂扞止ニ必要ト認メタルモノヲ全部官有林トシ其他ハ公賣拂下トシテ民有トシタリ。且社寺ノ境外領地ナル山林モ多ク國有林トナリシガ之ハ多クハ漸次不要存置林トシテ拂下セラレツ、アリ。

地籍外ノ地面。自然地理ノ方面ヨリ測量スレバ郡ノ全面積ハ二十五・二平方里、換算シテ三萬九千町ナリ。然ルニ地籍上ニテハ民有地面積二萬八千七百町之ニ五百町ノ官林及其他官有ノ社地、寺院地等ヲ加ヘテ大約二萬九千三百町トナルベシ。而シテ全面積三萬九千町ヨリ差引ケバ九千七百町ハ則チ地籍外ノ地面タルヲ知ル。今之ヲ細別スレバ

- 川 溝 六〇〇町
- 道 路 六〇〇
- 畦畔堤防 四〇〇
- 山林ノ實測増 八、一〇〇

右ハ想像ノ換算ナリ。山林ノ實測増ハ過大ナルガ如クナレドモ斯ノ如クナラズバ計算合ハズ而シテ實際ヲ見ルニ二萬二千餘町ノ山林ニハ八千餘町ノ誤測アルコトハアリ得ベキコト、信ズ。尙精確ノ調査ヲ後日ニ期ス。

### 戸 口

多紀郡ノ現住戸口ヲマヅ大正四年度末ニ就キテ記セバ九千七百五十八戸、五萬二千百三十三人アリ。其一割強、即チ千二百三十八戸、六千〇六十七人ハ篠山町ニ住メリ。抑モ我ガ丹波ハ京都ニ近ク王化ニ浴スルコト早カリシヲ以テ本郡ノ如キモ其ノ地方ニ對シテ住マルベキダケノ戸口ハ早クヨリ住ミタルベシト想像セラルレドモ今精確ニ調査スル違アラズ。明治三年四月版籍奉還ニ關シテ篠山藩知事ヨリ朝廷ニ差出サレタル調査ニ據レバ總戸數一萬三千七百八十二軒、總人口五萬八千七百二十三人トアリ。今日ニ比スレバ約四千戸、八千人多キハ郡外ノ舊領地ヲ合セタルニヨル。男女ノ數ニハ大差ナク約相半セルヲ以テ表ニハ區別セズ。概括スレバ全部ニテ男二萬六千二百二十六人、女二萬五千九百七人即チ男ハ女ヨリ三百十九人多シ。特ニ篠山町ニテ男ハ女ヨリ二十一人多シ。

華族。本郡ニ華族ト稱スルモノナシ。  
士族。舊幕時代ノ士族ノ邸宅ハ篠山城ノ三ノ丸及ビ外濠ノ周圍並ニ町家ノ東北西方背部ニ櫛比セリ。多紀郡役所及ビ篠山町役場保管ノ篠山町誌附録ノ圖面ハ之ヲ詳ニセリ。廢藩後ハ士ノ常職ヲ解キ農商ノ業ニ就クコトヲ獎勵セラレタルヲ以テ多ク舊邸ヲ出デ、村落ニ散居セリ。然レドモ數年ナラズシテ再ビ篠山町ニ歸リ住ムモノアリ或ハ郡外ニ出デ、各適當ノ職ニ就クモノ尠ナカラズ。サ

レバ廢藩ノ際七百一戸ナリシ士族ハ今ハ減シテ三百戸位ナリトイフ。

職業。 篠山町ニテハ約半數商業戸ナレドモ他ハ農ヲ主トス。今全郡ノ職業別百分比例ヲ示サバ

農業 六十四パーセント

商業 十五パーセント

工業 八パーセント

雜業及無業 十三パーセント

農業戸ハ米ヲ作ルヲ主トシ兼テ麥、豆類、芋類等ヲ作り副業トシテ養蠶、林業、製茶、養鶏、牧畜ヲナシ冬季ニ至レバ酒造出稼ニ郡外ニ出ヅル者多シ。商業戸ハ米其他郡產物ノ輸出ト郡内ノ需用品ノ販賣及ビ金融事業ヲ爲ス。工業戸ハ清酒、生糸、陶器、凍豆腐、紙、瓦、其他主トシテ郡内需要ノ實用品ヲ製造ス。無業戸トハ定マル職業ナク臨時ノ收得ニ依リ或ハ貯金ニ依リテ生活スルモノナリ以上ノ他ハスベテ雜業ナリ。

兵營ノ設置ニ伴ヒテ戸口ハ著シク増殖ス。即チ明治四十二年末日ニ比スレバ大正四年末ニハ篠山町ニテ四十三戸増シ、城北村ニテ十八戸増シ、岡野村ニテ十三戸増セリ。此三ヶ村ノ兵營附近沿道ハ家屋新築セラレテ市街ノ狀ヲ呈セリ。尙大正四年末マデニ増加セルコトハ戸口表ノ後ニ記ス。

戸口表 (大正四年度末現在)

區別	町村名	戸數	人口	農戶數	商戶數	工戶數	雜業戶數	無職戶數
篠山町		一、二三八	六、〇六八	一八	四七六	二〇七	五〇〇	二五
	八上村	四五	二、二七二	三三	一一	二八	三	三
	日置村	七七	三、八七七	四八	二六	四〇	六	一
	後川村	一九二	一、〇一八	一四	一七	三	一四	一
	福住村	五九	三、一四七	四〇	六	四〇	八	一
	大芋村	三九七	二、一四五	三三	一一	三	三〇	二
	村雲村	四〇二	二、〇七六	二八	四	四	二七	四
	雲部村	三四	一、七七六	三三	二五	二四	二	二
	畑村	四一	二、一八五	二九	五	四	一	一
	城北村	五四三	二、九〇五	三八	六	四	四	一
	岡野村	三六八	二、〇五三	二二	六	三	五	三
	南河内村	三四二	一、九二六	二四	二	一	五	二
	北河内村	四七〇	二、五〇七	三六	三	三	二	四



草山村	三五七	一五二七	二五二	二六	一	一九	
大山村	五二五	三八九八	三五八	三三	三六	三三	五
味間村	六九二	三五八	五二二	八三	四五	五二	一
城南村	五四二	二、六九五	四五四	五五	一八	一四	
古市村	六六一	三、七三三	四六	八二	四五	一〇九	
今田村	六五五	三、七三三	五〇四	四〇	六二	一九	
合計	九、七五八	五二、一三三	六、一七九	一、四七六	八〇七	一、二四三	五二
大正元年	九、七三三	五、二三八					
明治四十一年	九、六三二	五〇、九二二					

(四四)

今上陛下御即位御大禮ニ際シ。郡内各町村ニ於テ酒饌ヲ賜ハリタル八十歳以上ノ高齢者人員左ノ如シ。

篠山町	八八	城北村	四〇
町名	人員	町名	人員

八上村	三四	岡野村	四二
日置村	七〇	南河内村	三〇
後川村	二六	北河内村	四二
福住村	七〇	草山村	二四
大芋村	五四	大山村	三六
村雲村	四六	味間村	五二
雲部村	五四	城南村	六〇
畑村	三六	古市村	四〇
今田村	八四	計	九二八

政治

管轄。多紀郡ハ兵庫縣ノ管轄ニ屬ス。維新前ニハ安口<sup>アサカス</sup>以東ヲ除キ篠山藩王青山家ノ領地ナリシ。ガ明治二年二月王政復古ノ大業ニ願ミテ藩主青山忠敏<sup>アサカス</sup>公版籍奉還ヲ奏請シ同年六月其請ヲ許サレ同時ニ忠敏公ハ篠山藩知事ニ任セラレ多紀郡ヲ其支配地トセラル。明治四年七月廢藩置縣ノ詔ニヨリ

(四五)

篠山藩ヲ廢シテ篠山縣トシ同年十一月篠山縣ヲ廢シテ豊岡縣ヲ置カレ郡ハ其管轄ニ屬ス。明治九年八月豊岡縣ヲ廢シ郡ハ兵庫縣管内トナリテ今ニ至レリ。

郡。明治十二年一月郡區町村編制法ニ依リ以前ノ大區小區ノ名稱ヲ廢シ多紀郡役所ヲ置キ戶長役場ノ上ニ立チテ全郡ヲ管理セシム。爾來郡長ノ職ニ在リシモノ

安藤 直紀 明治十二年一月十三日新任。明治十九年八月三十一日非職在職七年七ヶ月間。

大野 親温 明治十九年八月三十一日新任。明治二十二年一月廿三日安栗郡へ轉任。在職二年五ヶ月間。

古田 庸 明治二十二年一月二十三日兵庫縣屬ヨリ拜命。明治二十四年十月九日美囊郡へ轉任。在職二年九ヶ月間。

蘆田辰左衛門 明治二十四年十月九日氷上郡長ヨリ轉任。明治二十七年三月二十六日非職。在職二年五ヶ月間。

山内 祐邦 明治二十七年三月二十六日兵庫縣屬ヨリ拜命。明治二十九年二月十八日非職。在職一年七ヶ月間。

依藤 忠夫 明治二十九年一月十八日三原郡長ヨリ轉任。明治三十一年十月三十一日

川邊郡長へ轉任。在職二年九ヶ月間。

福田 伊八 明治三十一年十月三十一日兵庫縣屬ヨリ拜命。明治三十四年十月二十三日加西郡長へ轉任。在職三ヶ年間。

鈴木 需 明治三十四年十月二十三日加西郡長ヨリ轉任。明治三十九年一月二十九日依願免官。在職四年三ヶ月間。

小出 雅雄 明治三十九年一月二十九日群馬縣邑樂郡長ヨリ轉任。明治四十年八月十日加西郡へ轉任。在職一年七ヶ月間。

小林 伊成 明治四十年八月十日川邊郡長ヨリ轉任。明治四十一年十月二十七日飾磨郡長へ轉任。在職一年二ヶ月間。

安達儀一郎 明治四十一年十月二十七日水上警察署長警視ヨリ拜命。明治四十三年八月二十七日揖保郡長へ轉任。在職一年十ヶ月間。

藤井 雅太 明治四十三年八月二十七日揖保郡長ヨリ轉任。大正元年十月十五日津名郡長へ轉任。在職二年二ヶ月間。

永木誠太郎 大正元年十月十五日出石郡長ヨリ轉任。大正二年五月三十日城崎郡へ轉任。在職七ヶ月間。

中村 兼彌

大正二年五月三十日美濃郡長ヨリ轉任。大正四年七月十日依願免官。在

(四八)

職二年二ヶ月間。

田中 八作

大正四年七月十日赤穂郡長ヨリ轉任。

郡ハ一ノ自治体ニシテ上ハ國ト縣トニ屬シ下ハ自ラ經營ス。郡長ハ國及縣ニ關スル事務ニ就キテハ内務大臣、縣知事等夫々上級官ノ指揮ヲ受ケ郡自身ノ施設ニ就キテハ自ラ指揮シテ郡治ヲ行フ。町村ハ最下級ノ自治体ニシテ國家ヲ組織スル基本ノ團體ナリ。郡ニハ今一町十八ヶ村アリ其沿革ヲ見ルニ古來二百餘ノ町村アリ。町ハ商業ノ便利ノタメニ集合セル人家ヨリ成リ。村ハ主トシテ農業ノ便利ノタメ各地ニ集合セル部落ナリ。農業ハ始終田畑山林ニ出入スル必要アルガ故ニ使用地ニ遠ザカリテ居住スベカラズ。各田畑山林ニ遠ザカラヌ範圍ニ於テ集合セザルベカラズ。故ニ農村ハ三四十戸ヲ常トシ百戸ヲ超ユルモノハ二三部ニ小分セルヲ常トス。此ノ如クナルヲ以テ村ハ農業ニハ便利ナレドモ行政上ニハ不便ノ點アリ故ニ古代ヨリ庄、郷、組等ノ名ヲ用ヒテ數村ヲ一團トシテ行政ノ便ヲ計レリ(史談參照)。維新後豊岡縣時代ニハ郡ヲ二大區ニ分チ其第二大區ヲ六小區ニ分チ第二十一大區ヲ七小區ニ分チタリキ。後明治二十一年四月ニ發布セラレタル町村制ニ基キ眞ニ自治体トシテ現今ノ如キ町村トナリタルモノナリ。但後川村ハ始メ日置村ノ内ナリシガ明治二十五年分立シタルナリ。町村長及助役ハ其町村公民中年齡滿三十歲以上ノモノヲ選舉シテ名譽職トナス。

若シ其町村ノ公民ニアラズ或ハ三十歲未滿ノモノヲ選舉セントスルトキニハ有給條例ヲ設ケテ然ル後有給ノ町村長及ビ助役ヲ置ク。現今大山村助役ハ有給ニシテ其他ハスベテ名譽職ナリ。町村長ハ上ハ上級官署ノ命令ヲ受ケツ、下ハ直接人民ニ接シテ其町村ノ發達ヲ計ル。

町村ノ内ニ更ニ大字即チ古來ノ町村名ヲ有スル町村アリテ便宜上種々ノ計畫ヲナシ歴史的和親ノ一家族ノ如クナレリ。サレド自治体ニハアラズシテ町村ノ部分ナリ。

官署。(大正四年十二月末現在郡内官署ノ重ナルモノ)

多紀郡役所 篠山町ノ内北新町ニアリ多紀郡ヲ管轄ス。

篠山區裁判所 篠山町ノ内吳服町ニアリ。多紀郡ヲ管轄ス。更ニ神戸地方裁判所ノ乙號支部ヲ兼ナルヲ以テ豫審ノ事務ハ水上郡ヲモ管轄ス。

篠山警察署 篠山町ノ内二階町ニアリ。多紀郡ヲ管ス。

福住警察分署 福住村福住ニアリ。

篠山稅務署 篠山町ノ内北新町ニアリ。神戸稅務監督局ニ屬シテ多紀郡ノ稅務ヲ行フ。

篠山小林區署 辨天ニアリ。水上、多紀、有馬ノ三郡ヲ管ス。

篠山郵便局 篠山町ノ内吳服町ニアリ。電信、電話ヲモ取扱フ。其詳細及ビ他ノ郵便局

ノコトハ交通ノ部ニ記ス。

(四九)

步兵第七十聯隊 岡野村東瀧谷ニアリ。第四師團ニ屬シ多紀郡外一市六郡ノ歩兵ヨリ成立  
ツ。

(五〇)

篠山衛戍病院 歩兵第七十聯隊ノ北隣ナリ。第四師團ニ屬ス。

篠山聯隊區司令部 篠山町ノ内乾新町ニアリ。多紀郡外一市六郡ヲ管ス。

篠山憲兵分隊 篠山聯隊區司令部ト同位置ニアリ。大阪憲兵隊ニ屬ス。

警察。警察トイフ名稱ハ維新後ニ起リタレドモ警察ノ實務ハ古ヨリ行ヘリ。徳川時代ニハ取締  
ト云フ名義ニテ其ノ時代ノ社會ニ適當シタル設備アリテヨク公安風紀ヲ維持セリ。維新ノ際政治ノ  
急變ニ依リ社會ノ秩序一旦崩レ新政府ハ之ヲ整理スルノ暇ナク不良ノ徒ハ横行シテ良民安ンセズ。  
コ、ニ於テ先ツ幕府ノ警務ニ從事セシモノ及ビ諸藩ノ兵士ヲシテ江戸市中ヲ巡邏セシム。明治四年  
ヨリ選卒ヲ置キ明治八年之ヲ巡查ト改稱セリ。カク警察ノ事務ハ初メ東京ニ行ハレ其後全國ニ及ビ  
東京ニ警視廳アリ他ノ各府縣ニ警察部アリテ各管内ノ警察署ヲ統督ス。警察事業ノ精神ハ人民ノ保  
護ニ存ス。維新當時數年間ハ社會ノ狀況亂暴ナリシヲ以テ警察モ司法警察ニ偏シ犯罪擧テ主トシ  
人民ハ之ヲ畏怖スルノミナリシガ明治八年始メテ行政警察規則ヲ發布シテ人民ノ危害ヲ豫防シ公安  
巡查ヲ維持シ健康ヲ保護スルコトニ努力シ警察ノ真ノ本能ヲ發揮シツ、アリ。  
郡ノ警察。篠山警察署ハ全郡ヲ監督シ其下ニ福住分署、古市村巡查部長派出所及ビ其他各村ニ

駐在所アリ。篠山警察署詰四十一名ノ内

署長	警部	一名
警部補		二名
巡查部長		四名
内勤巡查		一名
特務巡查		四名
刑事巡查		二名

其他ハ外勤。即チ駐在所勤務受持巡查ナリ。

福住分署ハ篠山警察署ノ監督ノ下ニ福住、後川、大芋、村雲、雲部ノ各村ノ事務ヲ取扱ヒ分署長心  
得トシテ巡查部長一名、特務一名、外勤即チ受持巡查五名。計七名勤務ス。

古市派出所ニハ巡查部長一名派出ス。以上全郡ノ警察官四十八名ナリ。(大正六年三月現在)

篠山警察署ハ明治十年二月十日開署。現今ノ建物ハ明治三十五年六月落成セリ。

## 軍事

所屬管區。明治六年全國ヲ六軍管トシテ大阪ニ大阪鎮臺ヲ置カレ郡ハ其管下ニ屬ス。明治二十

(五一)

一年鎮臺ヲ師團司令部ト改メ大阪ニ第四師團ヲ置カレテ郡ハ其管區ニ入ル。明治二十九年全國ノ七ヶ師團ヲ十三ヶ師團ニ増シ姫路第十師團ヲ置カル、ニ及ビ郡ハ其管區ニ入りテ歩兵ハ福知山歩兵第二十聯隊ニ入ル。日露戰後全國十八ヶ師團トナリ郡ハ姫路師團ヨリ脱シテ大阪ノ第四師團管區ニ復シ明治四十年ノ壯丁歩兵ハ氷上、有馬、川邊、豊能、三島、北河内ノ六郡ト共ニ第七十聯隊ニ編入セラレ一時大阪ニ入營シ篠山ノ兵營落成スルニ及ビテ明治四十一年三月コ、ニ歸リ其ヨリ毎年コ、ニ入營ス。大正五年度ヨリ氷上ヲ省キ中河内郡ヲ編入スルコト、セリ。歩兵ノ現役ハ三年ナレドモ明治四十年ヨリ二年服役ノ後歸休セシムルコト、ナリ事實上二年現役制トナル。コレ戰勝後ノ軍備擴張ニ由ルナリ。騎兵、野砲兵、輜重兵ハ大阪へ工兵ハ初メ伏見へ今ハ高槻へ入營シ、重砲兵ハ由良或へ深山ノ重砲兵隊ニ入り。海軍志願者ハ吳鎮守府ニ入ル。

戰役。明治二十七八年戰役ナル日清戰爭ハ帝國ヲシテ東洋ノ盟主タラシメタル戰役ナリ。我郡ハ邊鄙ノ山間ナレドモ宣戰ノ詔ヲ拜讀シテ人身勇ミ立チ各自應分ノ奉效ヲナシタリ。

明治卅七八年戰役ナル日露戰爭ハ帝國日本ヲ世界一等國ノ班ニ列セシメタル曠古ノ大戰役ナリ。其宣戰ノ詔下ルヤ上下一致四民協力國ヲ舉ゲテ咸國事ニ盡瘁シ終ニ克ク無前ノ大功ヲ奏セリ今我郡民ノ奉公ノ一端トシテ左ニ國債應募ノ狀況ヲ示サン。

軍費トシテ明治三十七八兩年度ニ五回ノ國庫債券募集アリ。之ニ對シテ郡ノ應募額ハ百九拾六萬

貳千參百貳拾五圓。超過セル故按分ニテ

募入セラレシ額ハ四拾四萬五千七百五拾圓。募入額一戸平均四拾圓貳拾七錢六厘。

町村分ニセバ

町村名	區別	應募額	募入額	一戸平均額
篠山	上	一七九、二二五	四八、八七五	四三・六三八
八上	置	八一、六五〇	一七、七〇〇	四四・四七二
日置	川	一五七、三七五	二八、五七五	三七・八四八
後川	住	二一、四〇〇	五、八二五	二八・五五四
福住	芋	一一一、八五〇	一一、二七五	三四・九六九
大芋	雲	六四、八〇〇	一一、四〇〇	三〇・六一四
村雲	部	五四、〇七五	二〇、五五〇	四九・七五八
雲部	北	六六、九〇〇	一三、八五〇	三七・〇三二
畑部		六八、二〇〇	一八、〇〇〇	四二・〇五六
城北		一〇八、九二五	二〇、九七五	四一・九五〇

會銀	今	古	城	味	大	草	北	南	岡
	田	市	南	間	山	山	河	河	野
社行									
	二八三、一二五	六八、七二五	一三三、八七五	一〇五、五七五	八八、六五〇	一三三、八二五	二一、三七五	八一、四五〇	六二、一二五
	四九、一五〇	二二、三〇〇	二六、二七五	二四、七〇〇	二九、三〇〇	二五、〇〇〇	五、三二五	一五、九〇〇	一六、三二五
	1	三八、七五九	四二、〇四〇	四三、一〇六	四三、一五二	四五、二八九	一七、二七七	三四、一九四	四四、一二二
									五二、三八八
									一六、四五〇
									一六、三二五
									一五、九〇〇
									八一、四五〇
									六二、一二五
									五五、二〇〇

(五四)

右ノ外ニ多紀郡基本財産ヲ以テ五千圓按分外優先募入セラレタリ。

此戰役ニ現役以外召集ニ應ジタル郡ノ兵員ハ將校二八人、准士官三人、下士九五人、卒九七三人計一、〇九九人。

戰病死者。 同役ニ戰死病死ノ郡ノ兵員ハ陸軍ニテハ

戰死將校 五人 下士 一九人 卒 七一人 計 九五人  
 病死將校 1 下士 一人 卒 二四人 計 二五人  
 計 將校 五人 下士 二〇人 卒 九五人 總計 一二〇人

海軍ニテハ戰病死者二人、内將校一人、下士一人ナリ。  
 此戰役ニ於テ郡内出身軍人ノ金鷄勳章ヲ拜受セシ者次ノ如シ

功三級 三 人  
 功四級 十七 人  
 功五級 二十七 人  
 功六級 六 人  
 功七級 百三十四 人  
 計 百八十七 人

右ノ内海軍ニテハ功四級一人、功七級二人アリ、他ハ陸軍ナリ。而シテ計百八十七人。  
 内篠山町出身者ハ陸軍五十人、海軍二人、而シテ其三十六人ハ功六級以上ナリ。コレ同町出身者ニハ佐治爲善、石橋健藏、本郷房太郎、ノ三陸軍少將ヲ始メ將校ノ甚多數ナルニ由ル。  
 此外旭日章、瑞寶章、賜金等ヲ拜受セシモノ甚多シ。

(五三)

軍人ノ功勞固ヨリ大ナルガ恩賞ノ厚キ誠ニ忝キ次第ナリ。而シテ賜金ハ之ヲ永遠ニ保存セシムル  
タメ町村長ヨリ保護ヲ加ヘ居レルヲ以テ全ク浪費セシモノハ僅ニ四名ニ過ギズ。  
此戰役ノ爲メノ廢兵ハ郡ニ三十名アリ其内恩賜ノ義手義足ヲ用フルハ次ノ三名ナリ

右ハ右頸部貫通銃創兼臀部管銃創且兩手足凍傷切斷  
雲部村泉 豫備歩兵上等兵 西嶋善太郎

右ハ足部砲傷切斷  
城北村黒岡 現役砲兵伍長 竹見禎次郎

草山村遠方

現役歩兵一等卒

橋本信太郎

右ハ左手粉碎(流車擦過)

郡出身軍人。大正四年末現員次ノ如シ

陸		現	役	豫	備	後	備	計
將	下							
校	士	五三	六八	一七	四三	二九	七三	九九
卒			三三三		五三三		四六九	一、三三四

在郷軍人中三十七八年戰役ニ於テ感狀ヲ賜リタルハ大山村町ノ田豫備歩兵上等兵勳八等功六級岸  
本平吉ナリ。

軍		海				軍	
補	充	將	下	兵	補	計	計
兵		校	士	卒	兵		
一、九二〇			四	二四	五二	一	八
二、三三七			一〇	一一			二二
五九三			一				
一			一	一			一
一、九二〇			五七一				
			三、四三七				
			五	三四			
			六四				
			一				
			一〇四				

日獨戰役。本郡内ノ軍人ニテ日獨戰役ニ参加セシ總員並ニ其受勳ハ次ノ如シ。

勳	階級	氏名
旭七 功七	砲上	畑中彌五郎
旭八 功七	全	永井久四郎
旭七 三三〇	砲曹	山田勘太郎

旭 旭 瑞 瑞 端 瑞 瑞 旭 旭 旭 旭 旭 旭  
八 八 七 七 八 七 七 七 七 七 七 七 七

二二〇 二〇〇 三五 七〇 八〇 八〇 八〇 一一〇 一五〇 一五〇 一五〇 一五〇 一五〇

全 砲 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

(五九)

尾川五郎七 前川佐助 澤下辨次郎 田中爲助 谷田彌藏 中川吉次郎 松下元藏 横原市三郎 前田覺右衛門 山口梅吉 小林貞治 岸本小四郎 藤田伊之助 松尾治三郎 後藤貞治郎

旭 旭 旭 旭 旭 旭 瑞 瑞 旭 旭 旭 旭 旭 旭 旭  
七 七 八 七 七 八 八 八 八 八 八 八 八 八 八

一五〇 二〇〇 二二〇 二〇〇 三〇〇 一五〇 八〇 八〇 一五〇 一五〇 一七〇 一五〇 一五〇 二二〇 二〇〇

全 輜 砲 輜 輜 全 全 砲 砲 砲 砲 全 砲 砲 砲  
輸 上 輸 輸 伍 二 一 二 上 一 上 一

(五八)

上野清七郎 畑莊三郎 岸野助太郎 山本德之助 小崎福太郎 岡澤松太郎 山内義三郎 菟原要助 古家後柳吉 新家卯之助 勝野憲一 瀬々倉徳次郎 中本憲三郎 河南慶藏 小林源兵衛



瑞八	九〇	砲一	前川常之進
瑞八	八〇	全	畑乾藏
瑞七	八〇	輜輸	藤岡喜一
海軍之部			
旭八	一三〇	水兵	中本喜一郎
旭八	全	全	中村築永

戰病死者並ニ負傷者等ナシ

兵營設置。明治三十七八年戰役後我陸海軍ノ軍備ハ擴張セラレ新ニ五個師團ノ陸軍ヲ増設セラ  
 ル、ニ際シ本郡有志者相謀リ郡内適當ノ地ニ兵營ノ設置ヲ出願シ其敷地ヲ郡民ヨリ献納センコトヲ  
 具申セリ。爾來他地方ヨリ同様設置ノ出願ヲ爲スモノ續出シタレドモ遂ニ明治四十年三月ニ至リ篠  
 山附近ニ步兵一個聯隊、聯隊區司令部、憲兵分隊、衛戍病院ヲ置カル、コトニ確定シ郡内有志者屢  
 ヲ會同シ役員ヲ設ケ今年三月三十日献納地事務所ヲ開キ之レガ事業ニ關スル委員ヲ選ミ森本莊三郎  
 氏ヲ委員長ニ推選シ爾來同氏統率ノ下ニ献納地事業ヲ進捗シ五月五日臨時陸軍建築部大阪支部長技  
 師以下ヲ率ヒテ來篠シ位置ヲ城北、岡野兩村ノ交錯地點ニ決定ス。其結果兵營敷地ハ政府ノ買収ニ  
 屬シ練兵場、作業場、射撃場、墓地、全交通路、憲兵分隊等ノ敷地約八萬坪ノ所要地ハ本郡民ヨリ

献納スルコトニ確定セリ。而シテ政府ニ於ケル買収地モ其買収方ヲ献地事務所ニ囑託セラレ全年六  
 月ヨリ地均工事ニ着手セル傍ラ一方買収事務ノ進捗ニ勉メ八月献納土地ノ明細書ニ地圖ヲ添ヘテ其  
 筋ニ呈出シ臨時陸軍建築部ニ引渡シテ完了セリ。

抑本事件ハ本郡ニ於ケル空前ノ事業ニシテ其間三星霜ノ永キニ涉リ費用ノ總額金五萬五千八百九  
 拾五圓五拾六錢貳厘ノ巨額ニ達ス。其敷地ノ潰地ノ反別ハ左ノ如シ

練兵場	拾四町四畝貳拾參步
作業場	八反五畝貳拾參步
射撃場	六町八反貳畝貳拾九步
墓地	四反壹畝貳拾壹步
全交通路	四畝貳拾八步
憲兵分隊	壹反五畝拾七步
計	貳拾貳町參反五畝貳拾壹步

右ハ献納地ニ屬スル分

兵營、聯隊區司令部、衛戍病院 拾貳町八段八畝壹步

右ハ政府買上地ニ屬スル分

明治四十一年三月歩兵第七十聯隊本部・第一・第二大隊本部及び六個中隊ヲ收容シ同年五月八日軍旗ヲ拜受シ同年十二月新兵入營ヲ以テ聯隊十二個中隊茲ニ完成シ本郡外六郡ノ壯丁ハ年々之ニ入營シテ國民ノ義務ヲ盡シ大阪灣ト舞鶴灣トノ中間咽喉ノ地衛戍ノ機關ヲ増シ郡ノ各方面ニ活氣ヲ帶ビテ進運ニ向ヒツ、アリ。郡内ニアリテハ三百年前篠山築城以來ノ盛事ニシテ共ニ記憶スベキ一事ナリトス。

### 教 育

篠山藩學校。篠山藩ニテハ明和三年藩主青山忠高公大ニ教育ヲ重ンジ大阪人關文平（世美ト稱ス）ヲ聘シテ教師トシ篠山城外壕ノ西南隅ニ校舍ヲ設ケ振徳堂ト名ケ二三ノ藩士ヲ都講トシテ教師ヲ輔佐セシメ藩内ノ士民ニ漢學ヲ教授セリ。天明年間京都ノ人福井源助（名ハ軌）ヲ聘シ振徳堂ノ傍ニ更ニ養正齋、成始齋、攀桂樓等ヲ増築シ。攀桂樓ニ孔子ヲ祭レリ。藩士ノ子弟八歳ニ至レバ日課生トシテ必ズ藩學校ニ入り十五歳元服ヲ加フルニ至リ退學シ後藩士トシテ別ニ講義ヲ聽ク。病氣其ノ他事故ノ爲メ幼時入學シ能ハザリシモノハ成長後仕官又ハ藩士ノ養子相續トナルコトヲ得ザルナリキ。平民ノ子弟モ藩學校ニ入ルヲ許ス制定アリシモ其ノ許サレシハ一二ニ過ギズ。學科ハ文學トシテ漢學、算術、碁方、習字ヲ課シ維新後皇學、洋學、醫學ヲ加ヘタリ。武術ハ文學ト相對シハ

歲藩學ニ入ルト同時ニ練習ヲ始メ身ヲ終ル迄修養ス。其ノ科目ハ弓、馬、劍、槍、兵學、砲術、銃術、捕方等ニシテ其ノ術ニ長セル藩士ヲ選ビ命ジテ各術ノ師範トシ師範者ノ邸内ニ演武場ヲ設ケテ教授セシメタリキ。嘉永年間渡邊亮太郎（弗措）ヲ學士ニ任ジ大ニ藩ノ教育ヲ振興セシガ廢藩ト共ニ藩學校モ廢セララル、ニ至レリ。當時生徒ノ數男約三百名。總テ無月謝ナリキ。今ハ廢校トナリシガ篠山高等小學校ヲ以前振徳高等小學校ト呼ビシハ振徳堂ノ名ヲ採用シタルナリ。藩ノ女子教育機關トシテハ制度ナク唯父母ノ心掛ニテ家庭内又ハ親戚等ニテ女子ニ必要ナル學藝ヲ授ケ或ハ私塾寺子屋ニ通ハシメタリ。

私塾寺子屋。廢藩前篠山藩領内ニアリシ私塾寺子屋ノ著シキモノ左ノ如シ

所在地	名稱	塾主名	生徒數	
			男	女
篠山町御差町 (今ノ東新町)	積水塾	渡邊亮太郎	七六	一
八上新村	中立舍	波部六兵衛	一〇〇	二〇
福住村		荻田彌三右衛門	四〇	一〇
全		内藤源右衛門	三五	一五
西野々村		石橋義男	三五	一五

真南條下村	立川一造	三五	五
下立杭村	中川頼母	一五	三
大山來寺内村	園田清譽	三六	一五
和田村	上阪慈門	一五七	一九
中原山村	高松全明	三五	五
福住村	本田說譽	二五	一
本明谷村	谿光本英	二五	一
奥畑村	奥山良禎	九八	一九
二ノ坪村	國里榎軒	二五	五
下立杭村	上中龜藏	七	二
瀨利村	畑尾織江	六八	一一
篠山町徒士町 (今ノ西新町)	村上四郎兵衛	四〇	一〇
全	佐藤奎之進	五〇	三〇
全	人見傳治	六〇	二〇

(六四)

篠山割場町 (今ノ東新町)	北村源正博	三〇	二〇
篠山内町	河南信成	四〇	三〇
小坂内村	日置順	三五	五
篠山新町 (今ノ東新町)	瀬戸晚翠	四〇	二〇
篠山石山口 (今ノ北新町)	並河基藏	四〇	一
篠山小川町	北川里右衛門	二〇	一五
篠山餅差町 (今ノ東新町)	喜多川幸太郎	一八	一二
全	高井達之進	四〇	二五
全	早川七之亟	二五	一八
篠山南新町	塩田蓮右衛門	三〇	一五
篠山六軒町 (今ノ西新町)	小林禎之進	二〇	一五
計	三十二ヶ所	一、三〇〇	三七九

(六五)

此ノ外私塾寺小屋向多ケレドモ精査シ得ザリキ。コレヲ明治四年廢藩當時ノ現狀トス。昔ハ平民ノ教育ヲ必要トセズ殊ニ農民ニ學問セシムルハ腰高クナリテ農事ヲ嫌フ心生ズトテ父老等之ヲ喜バ

ザリキ。サレバ私塾寺子屋等ニテハ習字ヲ主トシ傍ラ讀書、作文、珠算及行儀作法ヲ教フルノミ。從ツテ教授法モ極メテ幼稚ナリキ。サレド師弟ノ間ハ親子ノ如ク恩威兼テ行ハレテ比較的良結果ヲ擧ゲ當時ノ社會ニ相當セル智徳ヲ養ヒ得タリ。但体育ノ如キハ全ク度外視セラレタリ。

小學校ノ配置。明治四年廢藩ノ詔アリテ全國ノ政令一ニ朝廷ニ歸シ政府ハ國民教育ヲ普及セシムル爲メ明治五年始メテ學制ヲ布告シ同時ニ上諭ヲ以テ「學問ハ人々ノ身ヲ立テ生ヲ遂グル所以ノモノナレバ今後邑ニ不學ノ民ナク家ニ文盲ノ子弟ナカラシムベキ」コトヲ示サレタリ。此ニ由リテ普通教育ノ基礎立テ全國普ク小學校ヲ設立シタリ。當時豐岡縣下三丹地方ニテコノ旨趣ニ基キ學校ヲ建築セシハ豐岡、久美濱、生野、宮津、篠山、福知山、舞鶴、出石、柏原、峰山、村岡等ノ十餘ヶ所ナリキ。多紀郡ニテハ明治六年四月篠山魚屋町誓願寺ニ創立シタル知新館ヲ郡ノ幹校トシ各村落ニアル學校ヲ支校トス。經濟ハ全郡共通ニテ官ノ補助金ト郡内賦課トニテ幹校ヨリ支出シ各支校ノ教員モ幹校ヨリ派出シタリ。篠山町ニテハ知新館創立後一ヶ月ニテ吳服町菱田平十郎ノ家宅ヲ借りテ東幹校増設セラレ由リテ知新館ヲ西幹校ト呼ビ明治七年幹校ノ名ヲ廢シテ篠山東學校、篠山西學校ト呼ビ明治八年コノ兩校ヲ合併シテ舊城二ノ九ノ地ヲ借用シテ篠山小學校ト改稱シ其ノ校舍ニハ舊大書院及ビ玄關廣間等ヲ用ヒ明治二十年ヨリ篠山尋常小學校ト改稱セラレタリコノ學校漸次發展シテ後校舍ニハ大修理増築ヲ加ヘタリシガ今マタ其ノ校舍ヲ東舊三ノ九ニ改築シ明治四十三年ヨ

リ引移レリ。是ヨリ先篠山小學校組合内必要ノ所ニ分校アリシガ其ノ一トシテ明治十三年吳服町以西六ヶ町ノタメニ立テラレタル始進小學校明治二十年廢校トナリ二階町ニアルソノ校舍ヲ全郡聯合ノ多紀高等小學校ニ用ヒタリ。

同校ハ明治二十五年ニ廢セラレ其所ニ篠山町外九ヶ村組合立振徳高等小學校起リ後明治三十五年篠山高等小學校ト改稱シ生徒數増加シテ法令ニ觸ル、ニ至リ男女二校ニ分レ兩校獨立シテ篠山高等小學校篠山女子高等小學校ト稱フルニ至レリ。此ノ間ニ組合町村多少減少シタリシガ明治四十一年ニ至リ各町村尋常科第五學年ヲ置キ翌年第六學年ヲ置クニ至リシカバ高等小學ノ修業年限ハ二ヶ年ニナルニ至レリ。明治四十二年ニ至リテ組合ノ一部解散シテ一町外四ヶ村組合立篠山高等小學校トナリ明治四十三年四月高等學校第三學年ノ設置ヲ許可サレ明治四十五年三月ニ全部組合ヲ解散シテ廢校トナレリ。他ノ村落ニ於テモ明治六年ヨリ各所ニ小學校ヲ立ツ。始メハ學校名ニ雅文字ヲ用フルモノ多カリキ。例ヘバ池上村ノ簡諒校、小多田村ノ雲照校、八上内村ノ日研校、八上新村ノ晴雲校、後川村ノ晚翠校、草ノ上村ノ和合校、大雲中村ノ啓蒙校、畑宮村ノ鷄谷校、本郷村ノ松隣校、澤田村ノ明倫校、垣屋村ノ博考校ノ類之ナリ。而シテ社會ノ進歩シ自治制整フニ從ヒ小學校ノ配置モ漸次改良セラレ校名ニハ地名ヲ冠スルコト、ナリ以テ今日ノ狀態ニ達ス。

小學校表左ノ如シ。



修業年限。明治五年布告ノ學制ニ依リ明治六年ヨリ全郡各所ニ小學校設立セラレドモ草創ノ際トテ法令完カラズ人心モ亦教育ヲ解セザレバ校規立タズ秩序整ハズ恰モ藩政時代ノ寺子屋ニ髣髴タルモノ多カリキ。明治八年始メテ教則及ビ學科表ヲ頒布セラレテ小學校ノ修業年限ヲ八ケ年ト定メラル。即チ始メテ入學セバ下等八級ニ編入セラレ十月ト四月トニ進級シテ下等一級ヨリ上等八級ニ進ミ更ニ上等一級ニ達シテ止ム。サレド上等科ハ民度ニ適セズ生徒極メテ僅少ナリキ。明治十五年等科ノ名稱ヲ改メ初等科六級中等科六級高等科四級トナリ各校競フテ中等科高等科ヲ置キタレドモ設備整ハザリシカバ寧ロ等科ヲ低クシテ完全ニ普及セシムル利タルヲ悟リ明治十八年ヨリ全郡小學校ノ多クハ初等科ノミトナレリ。明治二十年ヨリ小學校ハ尋常科四ケ年高等科四ケ年トナリ尋常科ヲ置クコト能ハザル所ニハ三箇年ノ簡易科ヲ置クコト、ナリ何レモ一ケ年ニ一度ノ進級トナル。コノ令ニヨリテ本郡各町村ニ尋常小學校或ハ簡易小學校ヲ設ケ高等科ニ入ラントスルモノ、タメニハ全郡聯合ニノ多紀高等小學校アリキ。コノ簡易科ハ經濟上頗ブル利アリタレド往々貧民學校ト誤マラレ大ニ生徒ノ自重心ヲ傷ケタルモノ、如カリキ。其ノ後憲法ノ發布、市町村制、地方學事通則ノ公布ニヨリ自治ノ制度ノ行ハルコト、ナリ之ヨリ教育ハ着實ニシテ光輝アル發展ニ向ヘリ。即チ改正小學校令ヲ明治二十五年四月ヨリ實施シ簡易科ハ消失シテ各町村何レモ四箇年ノ尋常小學校ヲ置キ篠山町及ビ附近九ケ村ノ組合ニテ振徳高等小學校ヲ設ケ組合外ノ大村ニモ漸次高等科ヲ併置セ

リ。其ノ後國家實力ノ進歩ト日清日露ノ兩戰捷トニヨリ國威發揚シ義務年限ヲ六年ニ延長スルコト、ナリ明治四十一年ヨリ實施セリ。本郡ノ各町村ハ四十一年度ニ尋常科第五學年ヲ新設シ四十二年度ニ同第六學年ヲ新設シ隨ツテ四ケ年ナリシ高等科ハ二ケ年トナリ前記小學校表ノ如キ現狀トナレリ。

二部教授。二大戰捷以來國力發展ノ結果小學校就學兒童甚ダシク増加シタレドモ教員及ビ校舍ヲ急ニ増大スルコト能ハザルヲ以テ已ムナク二部教授ヲ實行スルコト、ナレリ殊ニ義務教育年限延長ト同時ニ益々ノ必要アリトシ明治四十二年ニハ郡内二十三校ノ内十五校ハ之ヲ實施シ全郡ニテ四十學級ニ達セシガ其ノ後種々ノ弊害ヲ認メ漸次減少シ現今數校ニ過ギズ。

就學兒童數。大正四年末小學校ノ就學兒童數ハ小學校表ノ如ク全郡ニテ七千六百九十六名アリ。願ミルニ藩政ノ末ニハ藩學校ニ約三百名、私塾寺子屋ニ約千六百七十九名アリタルコトハ既ニ記セルガ如シ而シテコノ以外ノ私塾寺子屋ヲ合スレバ全郡ノ就學生徒ハ凡ソ二千名ヲ過ギタルナルベシ。學制布告以來小學校ノ就學兒童ハ年々増加シ殊ニ日清日露兩戰捷後著シク増加シテ今ノ數ニ達セルナリ。等科別ニセバ

學	校	名	生	徒	數	計
			男	女		

尋常小學校	二二三〇	一二三三九	四五六九
高等小學校	七二三	四〇五	一一二八
實業補習學校	二三四	一三〇	三六四
裁縫學校	1	一七七	一七七
鳳鳴義塾	二四七	1	二四七
郡立高等女學校	1	一一七	一一七
計	三五三四	三〇六八	六六〇二

コレ全部ノ學校ニ就學セルモノ、總數ナリ。義務教育ノ就學督勵ニハ最モ力ヲ用ヒ貧困ニ由リテ就學シ得ザルモノ、爲メニハ皆就學義會又ハ兒童保護會ヲ設ケテ保護ヲ與ヘ殊ニ北河内、大芋、村雲等ノ村ハ貧困兒童ニ衣服食料、學習用具ヲモ給セリ。

兒童數就學歩合累年比較表

年次	就學歩合		在籍兒童數	
	男	女	男	女
明治三十年	九〇、九八	六八、〇六	八〇、〇七	二、八五四
			一、八八六	四、七四〇

明治三十五年	九七、九五	九三、四八	九五、七五	三、二六九	二、六三六	五、九〇五
明治四十年	九九、一八	九九、八二	九九、五〇	三、七六八	二、九五四	六、七二二
明治四十五年	九九、三六	九九、六二	九九、四九	四、〇三二	三、五七一	七、六〇三
大正二年	九九、四八	九九、二四	九九、三六	四、〇二二	三、五四三	七、五六五
大正三年	九九、四八	九九、一二	九九、三一	四、〇五二	三、六〇五	七、六五八
大正四年	九九、六〇	九九、二九	九九、四五	四、〇四九	三、六四四	九、六九三

大正五年三月末ノ在籍兒童百ニ對スル出席歩合ハ

尋常 男 九五、一三 女 九五、八六 計 九五、四九  
 高等 男 九八、〇二 女 九八、三五 計 九八、一三

小學校教員。大正五年六月末日現在全郡ノ小學校教員數ハ

本科正教員	男 一一一	女 一四	計 一二五
專科正教員	男 二	女(裁縫)一〇	計 一二
准教員	男 六	女 一	計 六
代用教員	男 四	女 一一	計 一五
計	男 一三三	女 三五	計 一六八

以上百六十八名ノ教員ハ實直素朴ニシテヨク其ノ職ニ勵メリ。

町村名	正本 教員	專科 正教員	標準 教員	代用 教員	女男 計	最 多 月 俸 額	最 寡 月 俸 額	平 均 額	月 俸 總 額	年 功 加 俸 受 取 人	全 額
岡野村	一五	—	—	—	二六	二七	二	二〇、五〇〇	一四二	二	八四
城北村	一六	—	—	—	二七	四〇	二	二四、五〇〇	一八九	三	一〇二
畑村	一四	—	—	—	二五	三〇	三	二二、五〇〇	一四二	三	一〇二
雲部村	一四	—	—	—	二四	三〇	二	二二、八〇〇	一四五	三	九〇
村雲村	六	—	—	—	一六	三〇	二	二二、〇〇〇	一四〇	三	七二
大芋村	五	—	—	—	一五	三〇	二	二二、五〇〇	一二七	三	一〇八
福住村	二	—	—	—	—	三五	四	二四、〇〇〇	二五六	五	一七四
後川村	三	—	—	—	—	三〇	九	二二、〇〇〇	九二	四	一〇二
日置村	八	—	—	—	一九	四〇	二	二四、〇〇〇	二四九	五	一七四
八上村	一五	—	—	—	二五	三〇	四	二四、〇〇〇	一五五	四	一四四
篠山町	二五	—	—	—	三五	四〇	八	二四、〇〇〇	四四	二	三三八
計	一〇二	—	—	—	一〇二	—	—	—	—	—	—

町村名	正本 教員	專科 正教員	標準 教員	代用 教員	女男 計	最 多 月 俸 額	最 寡 月 俸 額	平 均 額	月 俸 總 額	年 功 加 俸 受 取 人	全 額
南河内村	五	—	—	—	二六	三五	八	二二、〇〇〇	一三五	三	一〇八
北河内村	六	—	—	—	一六	三〇	二	二〇、五〇〇	一三三	五	二〇四
草山村	四	—	—	—	一四	二七	二	二一、〇〇〇	九八	三	七二
大山村	一五	—	—	—	二六	三五	二	二四、〇〇〇	一七九	二	六六
味間村	一八	—	—	—	三九	三〇	二	二二、〇〇〇	二〇〇	三	一〇八
城南村	二六	—	—	—	三七	四〇	三	二二、五〇〇	二〇七	六	一四四
古市村	一八	—	—	—	二九	四〇	一	二二、五〇〇	二五五	七	一六〇
今田村	一七	—	—	—	二九	四〇	二	二二、〇〇〇	二〇〇	六	一四八
計	一〇二	—	—	—	一〇二	—	—	—	—	—	—

年功加俸中Xアルハ特別加俸ヲ示ス

教育會ノ事業トシテ經費ノ許ス限リ教員講習會ヲ開キ或ハ教員中ヨリ視察員ヲ他府縣ニ派出シ或  
ハ郡ヲ東西四部ニ分チテ各研究會ヲ開キ以テ學術ノ修養ト教授訓育ノ研究トニ資シ日進月歩ノ世運  
ニ後レザラントニカム。

月俸額ハ



校長	最高	四拾五圓
	最低	貳拾四圓
	平均	參拾壹圓〇五錢
本科正教員 <small>(校長ヲ含ム)</small>	最高	四拾五圓
	最低	拾參圓
	平均	貳拾貳圓九拾四錢
專科正教員	最高	貳拾貳圓
	最低	拾壹圓
	平均	拾四圓〇六錢
准教員	最高	拾四圓
	最低	拾壹圓
	平均	拾貳圓六拾錢
代用教員	最高	拾四圓
	最低	八圓
	平均	拾貳圓〇六錢

總員平均 貳拾貳圓九拾六錢

教育ノ現状。郡ノ人口約五萬男女殆ンド相半ス。内滿六歲ヨリ滿十四歲迄ヲ學齡兒童トス。郡ニ幼稚園ナキヲ以テ幼ナキモノハ各家庭ニ在リテ指ヲ折り數ヘテ「モウ一ツ正月シタラ學校ニ行カ  
ル、ナド」トイヒテ上校ノ時ヲ待ツ。其ノ學齡ニ達スルヤ年ノ四月一日彼等ハ其ノ町村尋常小學校  
第一學年ニ入學ス。是ヨリ學校教育ノ始マルナリ。抑モ教育ノ本旨ハ体育、德育、智育ヲ併進セシ  
メテ完全ナル人格ヲ作ルニ在リ。昔ノ學問ハ科目少ク且深キ研究ハ少數ノ天才ニ限ラレタレドモ維  
新後ハ歐米文明國ト對峙スル爲ニ學生生徒ハ智力体力俱ニ強健ナラズンハ將來コノ重任ニ堪フベカ  
ラズトシ小學校ニテハ殊ニ体育ニ重キヲ置キ兒童ノ精神ヲ平和快活ナラシメ身體ヲ圓滿ニ發達セシ  
メンコトヲ期セリ故ニ教アルニモ遊バシムルニモ賞スルニモ罰スルニモ其ノ程度ヲ体育ニ適セシム  
ル爲メニ苦心セリ。德育ハ明治二十三年十月三十日下シ給ヘル勅語ノ御趣旨ニ依リ忠孝ノ精神ヲ養  
ヒ善良ノ習慣ヲ造ラントス。然ルニ社會ノ惡影響ノ爲メ往々可憐ノ兒童ハ學校外ニテ善惡ノ路頭ニ  
迷フモノアリ。智育ニ關シテハ教材ヲナルベク實用適切ノモノヨリ取り反復練習シテ應用自在ナラ  
シメンコトヲ要旨トス。サテ新入ノ生徒ニ對シテハ先ツ學校生活ニ慣レシムル爲メ行儀作法ヲ教ヘ  
訓話指導ヲナシ以テ徳性ヲ啓發ス。國語科ニテハ訛音方言ヲ正シ話シ方ヲ習ハセ片仮名數字等ヲ教  
フ。算術科ニテハ多クハ二十以下ノ數ニテ計算スルコトヲ教ヘ。体操科トシテ遊戲ヲ課シ。唱歌科

トシテ歌曲ヲ教フ。日曜、祭日、夏季一ヶ月、冬季十一月ノ休業日ノ外毎朝登校シテ四時間或ハ三時間ノ授業ヲ受ク。但半日二部教授ノ場合ニハ二時間或ハ三時間ノ授業ヲ受クルノミ。斯クテ一年ヲ經過シ次ノ年ノ三月ニ至レバ平素ノ學業ノ成績ニヨリ兒童ノ大部分ハ第二學年ニ進ム以前ハ試験ニヨリテ及落ヲ定メタレドモ競争ノ弊ヲ避ケン爲メ明治二十四年ヨリ法令ニ依ツテ試験ヲ廢セリ。コレヨリ學年ノ進ムニツレテ何レノ教科目モ漸次程度ヲ高メ簡易ナル圖書手工ヲ教ヘ第三學年ヨリハ女子ニ裁縫ヲ加フ。教授時間モ一日四時間又ハ五時間トナル。第五學年ヨリハ日本ノ地理、歴史ノ大要、理科ノ初步ヲ教フ。學校ニヨリテハ隨意科トシテ農業英語ヲ授クルコトアリ。カクテ尋常第六學年ニテ義務年限ノ教育ヲ終リ有志ノ者ハ更ニ高等小學科ニ入りテ二ケ年若シクハ三ケ年ノ課程ヲ修ム、高等小學校ヲ卒レバ多クハ家業ニ從事シ少數者ハ中等ノ教育ヲ受ク。中等教育機關トシテハ男子ニ鳳鳴義塾女子ニ郡立實科高等女學校ノ設ケアリ。又補習教育機關トシテハ裁縫學校實業補習學校ノ設ケアリ。

小學校時代ニ一教室ニ學ビシモノモ其ノ卒業後ハ種々ノ方面ニ發展シ活動スルモノ少ナカラズ。小學校卒業後家ニ居ルモノ、爲メニ學校ニハ同窓會アリテ年々一二回母校ニ集マリ舊交ヲ温ム。又青年會、婦人會等ヲ設ケ、徵兵適齡者ノ爲メニ壯丁教育ヲ施ス等教育者ハ日夜教育ノ效果ヲ永遠ニ持續シ且増進センコトニ努力セリ。

補習教育ノ 小學校ヲ卒業シタルモノニ補習的實用ノ教育ヲ施サンタメニ設ケタル教育機關ハ左表ノ如シ

校名	學級數	教員		生徒		入學者		卒業者		學科	目
		男	女	男	女	男	女	男	女		
八上裁縫學校	一	一	一	二〇	一	六	一	一	一	裁縫	國語 算術 修身
後川裁縫學校	一	一	一	一五	一	一	一	一	一	修身	國語 算術 裁縫 家政
福住裁縫學校	一	一	一	一五	一	五	一	一	一	裁縫	國語
大芋裁縫學校	一	二	一	三九	一	三	一	一	一	唱歌	國語 算術 家事 裁縫
村雲裁縫學校	一	一	一	三五	一	二	一	一	一	裁縫	修身
雲部實業補習學校	五	四	一	六二	五	五	二〇	一	一	男修身 國語 算術 農業 法制 女修身 國語 裁縫 家事	裁縫 修身 作法 ミシン 家事
細裁縫學校	一	一	一	二五	一	九	一〇	一	一	裁縫	國語 算術 手藝
南河内實業補習學校	一	一	一	三五	一	八	一四	一	一	裁縫	修身 國語 算術
草山裁縫學校	一	一	一	二八	一	七	一	一	一	裁縫	修身 國語 算術
大山實業補習學校	一	六	一	二五	一	九	四〇	一	一	修身 算術 國語 農業 裁縫 家事	修身 國語 算術 農業 法制 經濟
味間實業補習學校	二	五	二	四三	八	四三	八	一	一	男修身 國語 算術 農業 法制 經濟 女修身 國語 算術 裁縫 家事	修身 國語 算術 裁縫 家事

吹實業補習學校 二二二 二二二 二四 二五 二四 七 男修身國語算術農業法制經濟 女修身國語算術裁縫家事

青年會。青年ハ國家ノ動力ノ源ナリ之ヲ指導シ之ヲ利用スルコトハ教育上ノ重大事トス。而シテ之ニ關シテ法律命令ノ設備ハアラザルヲ以テ各地方ノ上ニ立ツモノ率先シ青年自發ノ向上心ニ訴ヘテ此ノ事業ヲ盛ニセザルベカラズ。本郡ニテハ明治三十七年五月郡長鈴木需内訓ヲ發シ矯風、勸業ノ二目的ヲ以テ各町村ニ青年會、青年夜學會ノ設置ヲ獎勵セシガ三十八年十月ニハ十七團體會員千百七十四名トナレリ。爾來郡當局者ハ時運ニ副ヘル方針ヲ示シテ時々督勵ヲ加ヘ會ノ普及、名實相稱、補習教育、意氣ノ振作、風紀ノ改良等ヲ提唱シ教員村吏等之ニ應ヲテ銳意實功ヲ舉ゲンコトニカム。團體及ビ會員ノ現在ハ

町村名	團體數	會員	夜學ヲ設ケル團體	夜學會會員	町村名	團體數	會員	夜學ヲ設ケル團體	夜學會會員
篠山町	一二	一四六			岡野村	一	一五〇	四	五〇
八上村	九	八四	四	四五	南河内村	一二	一六二	一	五〇
日置村	一五	一九二	九	一一六	北河内村	一〇	九二	一〇	九二
後川村	三	六四	二	二七	草山村	四	九三	二	六五
福住村	一八	一五〇	一七	一五〇	大山村	一三	一九八	二	二九

大芋村	村雲村	雲部村	畑村	城北村	味間村	城南村	古市村	今田村	計
一	一二	九	一一	一五	一四	一〇	一〇	一七	一八七
一五〇	九〇	一一三	九七	一七四	一七八	一五五	一五〇	二二二	二六六
四	二		六	八	一	一〇	四	一四	一〇〇
八二	五八		六五	一三六	一	一〇	四	一四	二〇〇
四四	一二五	八五	一五〇	一三六九					一三六九

金額 四、四九一、〇四〇圓  
 物品 建物十六坪。圖書五六五。劍道具十五組。製繩器一臺。其他。  
 資産 一四八、〇〇〇圓  
 桑園 二〇、三〇五坪  
 耕地 一〇、六一五坪  
 殖林其他 二〇一、八二〇坪  
 トナレリ。其ノ中成績優良ニシテ表彰セラレタルモノ左表ノ如シ

表彰年月日	表彰團體數	表彰者	表彰理由
明治四十三年二月一日	大芋村青年會	兵庫縣知事	補習教育事業ヲ經營シ成績佳良ノ旨ヲ以テ表彰

同四十四年三月	玉津夜學會	兵庫縣知事	全
吹青年修養會	兵庫縣知事	全	
大正五年二月十一日	南河内村西谷青年部	兵庫縣知事	全

表彰年月日	表彰團體數	表彰者	表彰理由
明治三十四年三月	一二	郡教育會	會員一致シテ會ノ發展ヲ計リ夜學ヲ開設シテ修養ニ力メ事業ヲ經營シテ其成績見ルベキモノアリトシテ表彰
全四十四年十月二十日	一〇	全	
大正元年十月	八	全	
大正二年十月	三	全	
大正三年十月	三	全	
大正四年十月	三	全	
大正五年十月	二	全	

郡青年大會。郡ハ大正三年十月既記ノ如ク郡内各町村ニ組織セラレ益々隆昌ニ發展シツ、アル青年團體ヲ一同ノモトニ會同セシメ一層秩序アリ統一アル青年大會ヲ興シ大ニ指導啓發セントテ第一回青年大會ヲ開催セリ。其ノ成績ニ於テ稍見ルベキモノアレドモ尙前途ノ希望ナシトセズ。爾來

大會ヲ開クコト三度其ノ要項左ノ如シ

- 一、講話
- 二、相撲徒步競走
- 三、武術大會競技

壯丁教育。教育ノ成績ヲ見ル一方便トシテ多紀郡徵兵適齡者即チ壯丁ノ教育程度左表ノ如シ  
大正五年度調査

學年	學 歷 調 査					百 分 比				
	大正元年度	大正二年度	大正三年度	大正四年度	大正五年度	大正元年度	大正二年度	大正三年度	大正四年度	大正五年度
尋 未 卒	三、七五	二、〇七	二、七一	二、六一	三、九八	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
尋 卒	二二、五〇	一八、三五	三九、一六	三二、九七	二五、〇五	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
高 二 修	三七、二五	四一、八六	一一、八一	一六、五九	二二、〇六	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
高 卒	三六、五〇	三七、七二	四五、三二	四八、二八	四七、九一	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇
計	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇

學力上昇及低下累年比較表

年度	高卒		高一		修了		尋		卒		未		就學	
	相當	低下	上昇	相當	低下	上昇	相當	低下	上昇	相當	低下	上昇	相當	
大正元年	七、八二	二八、一九	一〇、〇〇	五七、七九	三三、三三	一三、〇二	四、七九	四五、三〇	二八、五七	七、三三	一〇〇、〇〇			
大正二年	五、八五	四八、一五	二、六九	四五、〇七	四二、二四	七、五三	六四、三九	二八、〇八	三七、五〇	三七、五〇	二五、〇〇	一〇〇、〇〇		
大正三年	九、四八	六、五三	一九、三三	三八、四四	四二、三二	二五、一六	五〇、九四	二三、九〇	五〇、〇〇	五〇、〇〇		六、六七	三、三三	
大正四年	九、九六	八、〇四	二四、六八	六七、五三	七七、九	一五、〇四	五四、九〇	三〇、〇〇	一四、二九	八五、七二		三、三三	六、六七	
大正五年	八五、〇六	一四、九四	三三、四二	六八、九七	八、六二	二四、六〇	五〇、八〇	二四、六〇	一一、二七	七、七九	一一、二七	二〇〇、〇〇		

(八四)

壯丁人員及學歷

學歷	人員	總人員ニ對スル百分比
中學校卒業以上	二四	四、五五
高等小學卒業	二四一	四五、七三
舊令高等小學二年修了	一一六	二二、〇一
舊令尋常小學校卒業	一二六	二二、九一
全上未卒業	一八	三、四二

不就學	合計	學力ノ昇上及低下
二	五二七	一〇〇、〇〇
〇、三八		

學歷	總人員	上昇人員	同百分比	相當人員	同百分比	低下人員	同百分比
高卒	二四二			二六	八五、四八	三五	一四、五二
高二修	二六			八〇	六八、九七	一〇	八、六二
尋卒	二二六			六三	五〇、〇〇	三三	二五、四二
尋未卒	一八			一四	七七、七八	二	一一、二二
不就學	二						
合計	五〇三			三三三	七三、二七	七九	一五、七〇

義務教育普及ノ狀況

義務教育以上ノ學歷アルモノノ人員	百分比	國語ノ人員	算術ノ人員	國語一科ノ人員	百分比	算術一科ノ人員	百分比
五〇七	九六、三三	四五三	八九、三五	二五	四、九三	五	〇、九九

(八五)

學力と職業との關係

計	不就學		尋未卒		尋卒		高二修		高卒		學 歷 除 職業	人員 百分比
	相當	昇上	低下	相當	昇上	低下	相當	昇上	低下	相當		
二八二	二	二	一	五	二	五	二	二	二	二	農	二四、六〇、四九
二、五、〇六	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	一、五〇、〇〇	一、五〇、〇〇	一、五〇、〇〇	一、五〇、〇〇	一、五〇、〇〇	一、五〇、〇〇	一、五〇、〇〇	一、五〇、〇〇	人員	二四、六〇、四九
八五			二	一	四	一	一	九	三	三	商	二一、一〇、〇〇
一、一六、九〇			二、四、二九	一、五〇、〇〇	四、二、九〇	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	二、五、〇〇	二、五、〇〇	二、五、〇〇	人員	二一、一〇、〇〇
八〇			三	三	七	三	三	二	二	二	工	一九、九、二七
一、一五、九〇			三、二、四三	三、二、四三	七、三、五八	三、九、六八	三、〇〇、〇〇	五、五、六	五、五、六	五、五、六	人員	一九、九、二七
八			一	一	一	一	一	一	一	一	無	五
一、一五、九			一、五〇、〇〇	一、五〇、〇〇	三、三、三	一、二、五	一、二、五	二、四	二、四	二、四	人員	二、四
四八			四	一	二	一	一	一	一	一	其	二四、二、七〇
九、五五			四、二、八、五七	一、五〇、〇〇	二、六、四、五	三、九、六八	一、〇〇、〇〇	二、七、七	二、七、七	二、七、七	人員	二四、二、七〇
五〇三			二、四、〇〇、〇〇	二、四、〇〇、〇〇	四、二、〇〇、〇〇	三、二、〇〇、〇〇	一〇、〇〇、〇〇	二、五、〇〇、〇〇	二、五、〇〇、〇〇	二、五、〇〇、〇〇	他	二、五、〇〇、〇〇
二、〇〇、〇〇			二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	人員	二、五、〇〇、〇〇
二、〇〇、〇〇			二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	二、〇〇、〇〇	計	二、五、〇〇、〇〇

體格と學歴との關係

通計	者ヲ有テ學歴ノ上以育教務義				者ヲ有テ學歴ノ育教務義				學 種
	中卒以上	高卒	高二修了	尋卒	合計	未尋卒	不就學	合計	
二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	甲	
一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	乙	
一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	丙	
一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	丁	
一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	戊	
一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	一、一六、四	計	

學力ノ上昇低下ト職業トノ關係

低 下	相 當	昇 上	農		商		工		無 職 其 他	
			人 員 百 分 比	人 員 百 分 比	人 員 百 分 比	人 員 百 分 比	人 員 百 分 比	人 員 百 分 比	人 員 百 分 比	人 員 百 分 比
五九、四九	五五、三七	五五、七四	四七	二〇一	一六	一七、七二	一五、二〇	一四	一五、二〇	二、五三
四七	二〇一	三四	一五、三五	五五	二六、二二	一七、〇八	一七、〇八	六二	一七、〇八	一、六五
四七	二〇一	三四	一五、三五	五五	二六、二二	一七、〇八	一七、〇八	六二	一七、〇八	一、六五
四七	二〇一	三四	一五、三五	五五	二六、二二	一七、〇八	一七、〇八	六二	一七、〇八	一、六五
四七	二〇一	三四	一五、三五	五五	二六、二二	一七、〇八	一七、〇八	六二	一七、〇八	一、六五
四七	二〇一	三四	一五、三五	五五	二六、二二	一七、〇八	一七、〇八	六二	一七、〇八	一、六五
四七	二〇一	三四	一五、三五	五五	二六、二二	一七、〇八	一七、〇八	六二	一七、〇八	一、六五
四七	二〇一	三四	一五、三五	五五	二六、二二	一七、〇八	一七、〇八	六二	一七、〇八	一、六五
四七	二〇一	三四	一五、三五	五五	二六、二二	一七、〇八	一七、〇八	六二	一七、〇八	一、六五
四七	二〇一	三四	一五、三五	五五	二六、二二	一七、〇八	一七、〇八	六二	一七、〇八	一、六五

体格ト職業トノ關係

丁種	丙種	乙種	甲種	農		商		工		無 職 其 他		計
				人員	歩合	人員	歩合	人員	歩合	人員	歩合	
二七	五三	七〇	一四二	四、八四	二五	二、二四	二〇	九、七二	三	〇、九七	二七	一〇〇、〇〇
二七	五三	七〇	一四二	四、八四	二五	二、二四	二〇	九、七二	三	〇、九七	二七	一〇〇、〇〇
二七	五三	七〇	一四二	四、八四	二五	二、二四	二〇	九、七二	三	〇、九七	二七	一〇〇、〇〇
二七	五三	七〇	一四二	四、八四	二五	二、二四	二〇	九、七二	三	〇、九七	二七	一〇〇、〇〇
二七	五三	七〇	一四二	四、八四	二五	二、二四	二〇	九、七二	三	〇、九七	二七	一〇〇、〇〇
二七	五三	七〇	一四二	四、八四	二五	二、二四	二〇	九、七二	三	〇、九七	二七	一〇〇、〇〇
二七	五三	七〇	一四二	四、八四	二五	二、二四	二〇	九、七二	三	〇、九七	二七	一〇〇、〇〇
二七	五三	七〇	一四二	四、八四	二五	二、二四	二〇	九、七二	三	〇、九七	二七	一〇〇、〇〇
二七	五三	七〇	一四二	四、八四	二五	二、二四	二〇	九、七二	三	〇、九七	二七	一〇〇、〇〇
二七	五三	七〇	一四二	四、八四	二五	二、二四	二〇	九、七二	三	〇、九七	二七	一〇〇、〇〇

壯丁体格累年比較表

戊種	合計	戊種	合計
一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二	一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二
一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二	一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二
一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二	一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二
一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二	一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二
一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二	一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二
一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二	一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二
一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二	一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二
一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二	一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二
一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二	一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二
一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二	一、一〇、〇〇	二、八四、五、六二

年次	項目	身		長		體		重		體 格 等 位				
		人員	最長	最短	平均	最重	最輕	平均	甲	乙	丙	丁	戊	
明治三十五年	壯丁	四三八	五、九〇	四、三〇	五、三三、二八、二〇〇	六、四〇〇	四、七〇〇	二〇三	七二	一三三	二九	三		
明治四十年	壯丁	四七九	五、七〇	四、六〇	五、二二、九、二〇〇	九、三〇〇	三、四〇〇	一九三	一五五	九一	三五	五		
大正元年	壯丁	四二四	五、七三	四、四七	五、三三、二八、一八〇	八、一三〇	三、七六三	一四八	一五一	一一三	九	三		
大正二年	壯丁	四〇三	五、七六	四、五〇	五、三三、二八、二〇〇	九、四〇〇	三、八三一	一五〇	一五九	七七	一五	二		
大正三年	壯丁	四三四	五、七九	四、七〇	五、二八、二八、九〇〇	九、九五〇	三、六八〇	二二五	一九〇	九三	一九	七		
大正四年	壯丁	四八八	五、七二	四、〇七	五、二二、二八、九五〇	一〇、二四〇	四、〇〇〇	一七二	二二二	八二	一八	五		

學校園。 學校ニ學園ヲ設ケ植物ヲ栽培スルコトハ外國ノ實例ニ鑑ミテ其ノ效果頗ル大ナリ因テ我ガ郡ニテモ各校トモ校外ノ畑或ハ校内ノ空地ニ學園ヲ設ケタリ。而シテ明治三十九年四月ヨリ同年十二月迄隔日曜日明石農學校教諭辻川巳之助ヲ聘シテ學園講習ヲ開キ學園ノ處置利用ノ方法ニ就

キ研究シタルニヨリ益々良好ノ結果ヲ現ハシ、モ近時農業科加設ト共ニ漸次實習地トナルノ傾キアリ。

鳳鳴義塾。ハ篠山町ノ内北新町ニアル私立中學校ニシテ明治九年ニ篠山町春日神社境内ニ設ケタル篠山中年學舎ガ舊藩主青山家ノ保護ニ依リテ發展シタルモノナリ。明治三十二年二月一日文部大臣ヨリ中學校ト同等以上ノモノト認定セラレ勤儉尙武ノ塾風ヲ以テ全國ニ聞エ。大正五年四月現在生徒數ハ第一學年五十八名、第二學年六十三名、第三學年四十六名、第四學年四十三名、第五學年三十八名、合計二百四十七名。

塾主ハ在東京子爵青山忠精公。塾主代理ハ篠山町石橋健藏。教員ハ塾長園田定太郎以下十餘名。大正四年度經費豫算總額壹萬參千貳百六拾五圓ナリ。當塾ハ青山家ト關係アルヲ以テ史談ノ篇ニ更ニ詳記ス。

高等女學校。明治四十四年二月十九日日本郡會ニ於テ郡立高等女學校設置ニ關スル事項調査ヲ多紀郡教育會ニ委囑ノ件ヲ議決シ同四十五年一月ノ郡會ニ於テ本校創立ノ件ヲ可決シ同年二月二十三日文部省ノ認可ヲ得四月十五日日本郡篠山町ノ内北新町舊篠山城本丸趾ニ開校。鳳鳴義塾長園田定太郎本校長兼任。大正三年二月ノ郡會ニテ實科高等女學校組織變更ノ件ヲ議決同三年四月一日多紀郡立實科高等女學校設置ノ件並ニ多紀郡立高等女學校ヲ大正六年三月限り廢止ノ件ニツキ文部省ノ認

可ヲ得現在第三四年級ハ高等女學校ニシテ第一二年級ハ實科高等女學校ナリ。大正四年五月三日園田校長辭任松本稜威哉校長ニ任セラレ大正五年六月二十一日松本校長依願免官同二十一日岡部右馬之助校長ニ任ゼラル。生徒數並ニ經費左ノ如シ

大正六年 現在生徒數	生徒數				合 計
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	
	三四	三四	二八	二八	一二四
大正五年度 經常費	經費				
	俸	給	雜	給	國庫納金
	三八三四		四七七		三七
		校	費	修繕費	合
		一〇六二		一〇〇	
					五五一〇

教育費。大正五年度豫算各町村教育費ハ小學校表ノ如ク其ノ全郡合計經常費五七、五四三圓臨時費五、九二六圓總計六三、四六九圓ナリ。

町村費全額ト教育費トノ權衡ヲ見ルニ

全郡町村經常費全額 一三四、七二三圓



教育費ハ其ノ約四二、七二%

全郡町村臨時費全額

一六、一九三圓

全經常費臨時費總額

全 約三六、六%

全

約四二、〇六%

學校基本財産。

經費ノ安全ヲ計ルニハ基本財産ヲ畜積スルヲ要ス。各町村ニテハ明治二十五年

舊篠山藩主青山家ヨリ多紀郡小學校基本財産中へ五百圓寄贈セラレタルモノヲ分配シコレヲ基礎ト

シテ植樹ノ收益、豫算ノ剩餘金組入、金穀積立規約、物品徵集、寄附獎勵等種々ノ方法ニヨリテ増

額ヲ計レリ。大正五年現在全郡ノ學校基本財産ハ

現今有價證券

二五、四〇〇圓

耕地

二〇五坪

價格

四〇圓

山林 三三・二四〇九坪

價格

四、二二二圓

計

二九、六六二圓

教育會。本郡ノ教育會ハ明治十四年ノ頃設立シ今ハ私立多紀郡教育會ト稱ス。兵庫縣教育會ト連絡シ多紀郡ノ教育官公吏及ビ有志者ノ團體ニシテ毎年春秋ノ二回總集會ヲ開キ知名人士ノ講話

ヲ聽キ、或ハ會員相互ニ見聞所感ヲ語リ或ハ教育上ノ時事ヲ討論ス。其他教育講習會ヲ開キ、通俗講話會ヲ各町村ニ開キ、教育視察員ヲ派遣シ、圖書ヲ購入シテ他日圖書館ヲ設立スル方針ニ進ム段階トシテ巡回文庫ヲ設クル等團體ノ力ヲ以テ教育ノ實績ヲ助ケントセリ。本誌ノ編纂モ其事業ノ一ナリ。

現在會員ハ

名譽會員

五

終身會員

一三

通常會員

二七四

計

二九二

尙齒會。本郡内ノ尙齒會ノ大要ヲ表示セバ左ノ如シ

名稱	主催者	創立年月	開會回数	年齡範圍	七十歲以上ノ高齡者數	主催區域ノ戸數	七十歲以上ノ一人對戸數	經費及開會ノ時行フ其出所主事
養老會	篠山 婦人會	明治十二年七月	二七〇	七歲以上	二七	二二〇	六	會員積立金 櫻應贈呈
八上村 尙齒會	村教育會	大正三年十二月	一八〇	七歲以上	四	四〇	四	寄附一〇圓 兒童遊戲餘興
養老會	日置村 教育會	明治十五年五月	四〇	七歲以上	六	六九	四	村教育會 茶菓會
計			四〇		三六	三〇九	一〇	櫻應贈呈 兒童遊戲餘興



福住村

小學校

兒童記念貯金。職員記念貯金。記念樹栽植。記念學園等。

青年會

記念田ノ購入。記念植樹等。

大芋村

小學校

沿革誌ノ編成。

青年會

記念貯金。栗林造成。會場建築。植樹等。

村雲村

小學校

校地周圍ノ生垣。記念學園等。

青年會

栗林及ヒ桑園ノ造營。果樹園施設。記念植林等。

雲部村

小學校

山林貳町步ヲ記念林トス。飲用水ノ水道新設。運動場ノ擴張等。

畑村

小學校

少年團設置。道分標柱新設。記念文庫ノ新設。記念植樹等。

城北村

小學校

敬老會。學園。記念貯金等。

青年會

荒蕪地開拓。基本金ヲ造ル。記念文庫。相撲場新設。劍道開始。体操器械設置  
記念樹。修學旅行費積立。雜誌共同購入。製繩。共同貯金。竹林ノ造營等。

神社

町村名	縣	社	郷	社	村	社	無格社	計	神職
篠山町						六	七	七	一
八上村						一〇	一	一一	二
日置村						三	一	四	一
後川村						七	六	一三	一
福住村						七	一	九	一
大芋村			一			七	一	九	一
村雲村						三	一	四	
雲部村						六	六	一二	一
畑村						七	二	九	一

計	今田村	古市村	城南村	味間村	大山村	草山村	北河内村	南河内村	岡野村	城北村
一										
三				一	一					一
一三七	一二	一五	八	六	一〇	一	二三	七	八	八
五八	七	八	三		二	二	二	四	一	四
一九九	一九	二三	一一	七	一三	三	一五	一一	九	一三
一七	一	一		二	一	一	一			三

我が國家ハ天神ノ産ミ成シ給ヘルモノニテ其ノ御子孫タル 天皇ハ現御神トシテ世々之ヲ統治シ給ヒ國民ハ又皇室ノ支裔トシテ克ク宗家ヲ守護シ萬世滄ルナシコノ故ニ忠君ノ心ハ敬神ノ情ト一致シ相離ル、コトナシコレヲ惟神ノ道トイフ蓋シ神ヲ敬スルハ祖先ヲ崇ヒ其ノ遺徳ヲ追慕シ以テ身

ヲ修メ家ヲ齊フル所以ニシテ我將來ノ冥福ヲ求メンガ爲メニ非ズ故ニ宗教ト其ノ趣ヲ異ニスルコト明カナリ。

郡ノ神社。 郡ニアル神社ノ主ナル次ノ如シ

縣 社 大芋村福井 櫛岩窓神社

右ハ世間ニ大芋ノ大宮トイフ。祭神ハ櫛岩窓命、豊岩窓命ノ二柱ナリ。創立年月不詳永祿十年再建明治六年村社格加列。明治三十七年三月二日村縣社ニ昇格。本郡中ニアル唯一ノ縣社ニシテ最上格社ナリ。天照大神ノ天岩戸ニ入り給フヤ手力男命ハ石窟ノ戸ヲ排シ。大神ノ御手ヲ執リ之ヲ迎へ奉ル時ニ此戸飛ビテ信濃ニ落チ戸隱山トナレリ。國幣小社戸隱神社之レナリ。天孫ノ降臨ニ際シ命ハ大神ニ奉仕シ天孫ニ扈從スルヲ得ズ。乃チ自像ヲ刻シテ子孫ニ授ケテ已ニ代ラシメタリ。今本社ニ藏スルモノ即チ是ナランカ。宮闕守護ノ神トシテ歷世ノ皇室勅使ヲ差遣シ幣帛供物ヲ賜フ。延喜式内ノ大社タリ。丹波ノ二ノ宮ト稱セラレ尊崇シテ奇シ岩窓、豊岩窓神ト稱シ又天岩戸別神ト稱ス。全國各地ニ分祀セラル。

境内七千七百二十九坪。境内ニ天満宮社、蛭子神社、嚴島神社、稻荷神社ノ四社ヲ併セ祀レリ。

郷 社 城北村黒岡 春日神社

右ハ黒岡ト篠山町トノ氏神ニシテ黒岡ノ地ニアリ篠山町ノ内二階町ヨリ直ニ參詣シ得ベシ。祭神ハ

健甕槌命。經津主命、天兒屋命。姫大神ノ四柱ナリ。由緒ニ曰ク貞觀年中創立大和國奈良ヨリ勸請元篠山城地ニ鎮座ノ處慶長十四年築城ノ砌當地ヘ奉遷云々。境内千四百八十二坪。内ニ八社ヲ併セ祀ル即チ天滿神社、愛宕神社、大宮神社、八幡神社、日吉神社、八阪神社、稻荷神社、水分神社ノ八社ナリ。

郷社 大山村大山上 神田神社

右祭神ハ大巳貴命。由緒ニ曰ク大寶二年九月九日勸請神田莊中ノ産土神トス。延喜式神名帳神田神社トアルハ即チ是ナリ。明治十二年五月十五日郷社格加列。境内九百三坪。内ニ八幡神社、嚴島神社、愛宕神社ノ三社ヲ併セ祀レリ。

郷社 味間村味間奥 二村神社

右祭神ハ伊弉諾命、伊弉册命ノ二柱ナリ。由緒ニ曰ク「天平勝寶二年賜正一位當郡御内村（今見内ト書ス）ニ鎮座アリシ處文明十四年本社神輿ニ神体ヲ乗セ奉リ味間二ノ谷ニ移ス。夫ヨリ當社ヲ式内ト稱シ慶長十九年四月十九日改テ當社ニ正一位ノ神階ヲ授ク。味間、古佐兩郷ノ總社ト稱シ奉リ候處明治六年舊豐岡縣ニ於テ本郡ノ郷社ニ定メラレ候」ト。境内千二百坪。内ニ三社神社ヲ併セ祀ル。

右一縣社三郷社ノ外ハ村社ト無格社トナリ。大正四年度末日現在數ハ村社一三七。無格社五八ナ

リ村社無格社中ニモ設備行キ届キテ莊嚴ナルモノ少ナカラズ。村社中ニテ著名ナルハ日置村ノ波々伯部神社、城北村ノ大寶神社、北河内村ノ多々奴比神社、福住村ノ熊野神宮神社、今田村ノ城山稻荷神社等ナリ。

一 神社合併。我國ニハ神社甚ダ多キ爲メ祭典奉仕ノ禮ヲ缺キ却ツテ神威ヲ瀆ス恐アルヲ以テナルベク之ヲ合祀シテ其ノ尊嚴ヲ増サントシ遂ニ内務省ハ訓令ヲ發シテ合祀ヲ獎勵セリ而シテ合祀ノタメニ社祠ノ廢滅シタル社地ハ其ノ氏子ヘ無代讓與スルヲ得ルコト、ナレリ。更ニ町村長會ノ申合ニヨリ郡ノ方針トシテ村社ハ五百圓以上無格社ハ參百圓以上ノ基本金ヲ積立テズハ存立ヲ許サザルコト、セリ。然レドモ合祀ヲ好マズ合併（社殿ヲ其儘某神社境内ニ移轉シ集ムルコト）ヲ希望スルコト多カリシ故内務省ハ更ニ合併ニテモ無代讓與スト定メラレ明治四十年ヨリ着々合祀及ビ合併ヲ行ヘリ。我郡ニテ縣社一、郷社三、村社一三七、無格社五八、計百九十九社トナル迄ニ合併ヲ了リ。此豫定數ヲ終リシ後ハ更ニ協議ヲ開キテ尙其上ノ合祀ヲ行ハントス。大阪府、三重縣等ニテハ一社ニ二社ト云フ如クニ強制ノ態度ヲ取リシガ故ニ人民ノ反感ヲ起セリ。本縣ハ強制セズ本郡ノ如キハ最モ圓滿ニ進行シツ、アリ。

宗 教

黒住教。備前人黒住宗忠ノ始メタル宗教ニシテ全國ニ廣マリ八百萬神ト教祖宗忠神トヲ拜ス。多紀郡ニテモ維新前ニハ非常ノ隆盛ヲ極メ信徒ノ狂熱ノ極藩主ニ疑ハレテ味間村ノ安井某ノ如キハ入牢ヲ命セラレタルコトアリキ。維新後漸次熱度ヲ減ジタレドモ今モ郡ノ各所ニ信者ヲ有ス。次ニ大社教。出雲ノ大社ヨリ出テタルモノニテ大國主命ヲ祭ル。

妙靈教。一時ハ甚ダ盛ナリシガ今ハ衰ヘタリ。之ハ雲部村春日江山内利三郎ノ祖父山内利兵衛ナル人ノ創始セシ所ニテ「造化妙靈天一神王」トイフ句ノ妙ノ字ヲ取り妙々々ト唱ヘテ信仰ス祭神ハ天御中主神、高皇產靈神、神皇產靈神、天照大神ノ四柱ナリ。

天理教。大和人中山みきトイフ婦人ノ熱心ニ唱導セシ宗派ニシテコノ宗派ハ全國ヲ通ジテ近年大ニ發展シタルヲ以テ明治四十一年十月ニ内務省ノ許可ヲ得テ獨立セリ。元來神道宗派ノ内ニ神道教ナル一派アリ數多ノ教派ヲ包含管理セシガ黒住教大社教等ノ先ヅ其ノ管理ヲ離レテ獨立スルアリ而シテ今又コノ天理教ノ更ニ分離獨立スルアリ是ニ於テ神道教ニ屬スルモノハ妙靈教、金光教等二三トナレリ。

金光教。金光教ハ藤井文治郎ノ始メシモノナリ。文治郎ハ備中國ノ農夫ニシテ嘉永五年神ヨリ金光大神ノ稱ヲ與ヘラレタリト稱シ姓ヲ金光ト改メ金光大神ヲ信ゼヨト熱心ニ弘教セリ。

神道ニ關スル希望。神社合併ハ今進行中ナリ。其整理ノ院神徳益々尊嚴ノ光ヲ發シ村民愈奉仕ノ誠ヲ竭スニ至ツテハ國家ノ祭典ハ固ヨリ一家村内ノ祝事婚儀等苟クモ吉慶ノ事ハ皆神前ニテ行ヒ神社ヲ以テ一致共同和樂ノ中心地トシ益々村内ノ平和幸福ヲ増進セシメント欲ス。又世ニハ神社ト宗教トヲ混同セルモノ多シ。一向宗、日蓮宗等ノ徒ガ神社ヲ敬セザルハコノ誤解ヨリ來レルナルベシコノ誤リヲ解セン爲メニ講筵ヲ開キ口ヅカル女子ナドニモ理解セシムル方法ヲ取リタシ。例ヘバ戊申詔書ノ捧讀式ヲ舉ゲタル序ニ神ノ功德ヲ説キ神社ニ關スル説話ヲナスコト甚ダ有益ナラン。以前ニハ神官ニ教導職ヲ兼務セシメテコノ事ヲ實行セシガ明治十七年ヨリコノ兼務ヲ解カレタリ。今ヤ神道ノ發展上コノ講話ヲ行ハンコトヲ希望ス。

教會所。數左ノ如シ

天理教	十二ヶ所
妙靈教	四ヶ所
黒住教	五ヶ所
金光教	一ヶ所
大社教	一ヶ所
日蓮宗	二ヶ所

佛教。佛教ハ印度ニ起リ東洋諸國ニ廣マレリ。朝鮮ヲ經テ我國ニ渡來セシハ欽明天皇ノ十二年

ナリ。渡來ノ初メニハ敬神ノ思想ト衝突シタレドモ漸次ニ日本化シテ我國體ト調和セリ是ニ於テ全社會ニ廣マルニ至レリ。佛教ノ大乘ノ眞理ハ高遠ナル哲學ノ理論ト一致スル所多クシテ思想家ニ貴バレ小乗ノ方便説ハ卑近ノ教訓ナルヲ以テ俗人ニ勸善懲惡ノ效果多シ。葬式ニハ佛式ヲ用フルモノ多キガ故ニ佛教ハ祖先ヲ敬スル情トモ合シテ家庭ニ大ナル勢力ヲ有ス。殊ニ老人ハ現世ノ希望將サニ盡キントシテ寂莫ノ感アルニ乘ジ極樂往生未來ノ無窮ノ幸福ナドイフ慰藉ハ最モ歡迎セラル故ニ多クノ家ニハ比較的莊麗ナル佛壇ヲ設ケ念佛ノ聲瀕リナリ。徳川幕府ノ時代ニハ寺院ヤ僧侶ニ特權ヲ與ヘ土地財物ヲ給シテ佛教ヲ保護シタリシガ維新後ハ廢セラレ從ツテ寺院ノ修理十分ナラズ或ハ無任荒廢ニ歸センモノ少ナカラズ佛教ノ法力ハ昔日ニ及バザル觀アリ。サレドモ信仰ハ生民ニ缺クベカラズ。古來根底ヲ固メタル佛教ハ之ヨリ奮勵シテ大ニ佛祖ト我國家トニ貢獻セザルベカラズトイフモノアリ。

		寺院及佛堂							
町村名	天台	眞言	淨土	臨濟	曹洞	眞宗	日蓮	計	佛堂
篠山			三		一	一	二	七	七
八上			二		二	三		七	一

日置	後川	福住	大芋	村雲	雲部	畑	城北	岡野	南河内	北河内	草山	大山
						三	二		一	二		一
			一									一
						一		四	三	一		三
								一				
五	一	九	二	五	四	五	五	二			一	
		二				一	一	二	三		一	一
												一
二	一	二	三	六	四	一〇	八	九	七	三	二	七
一		七	八	二	三	五	六	四	三	五	五	五

計	今田	古市	城南	味間
二十一	三	二	一	六
二				
二五		二	二	一
一				
四九			六	一
二五	一	二		二
四			一	
一二七	四	六	一〇	一〇
六九	三	一	四	六

(106)

郡ノ寺院ハ百二十七ヶ寺ニシテ住職九十一名

内淨土宗 二五ヶ寺  
 眞宗 二五ヶ寺  
 曹洞宗 四九ヶ寺  
 日蓮宗 四ヶ寺  
 眞言宗 二ヶ寺  
 天台宗 二ヶ寺  
 臨濟宗 一ヶ寺  
 其ノ著シキ數寺ヲ記セバ

誓願寺。ハ篠山町ノ内魚屋町ニアリ。中本寺清淨山ト號ス淨土宗京都誓願寺ノ末派ナリ。永祿八年征夷大將軍足利義輝ノ松永久秀ニ弑セラレシトキ其ノ孤天譽時ニ三歳遁レテ此ノ郡ニ來リシヲ國主波多野秀治迎ヘテ庇護シ其長ジテ僧ト爲ルニ及ビ高城城下ニ一寺ヲ開カシム。コレ此寺ナリ。高城亡ビテ篠山城成ルニ及ビ此ノ寺モ現今ノ位置ニ移リキ。

洞光寺。ハ雲部村東本庄ニアリ境内千二百三十四坪。中本寺寶鏡山ト號シ曹洞宗正眼寺ノ末派應安七年僧天鷹開基ス。郡中一二ノ大寺ニシテ其ノ末寺ハ五十ヶ寺アリテ本郡ヲ主トシ隣郡ニ散布ス。

弘誓寺。ハ北河内村上板井ニアリ。明應二年三尾山興法寺ノ僧祐賢ノ創建セシ所ニシテ三尾山ト號ス。天台宗延曆寺ノ末派一等寺ニシテ郡中天台宗寺院ノ首位ナリ。當寺ニ龍藏寺、高仙寺(文保寺ハ共ニ松尾山トシテ之ニ含マル)及ビ氷上郡ノ神池寺ヲ加ヘテ丹波ノ四箇本寺トイフ。弘誓寺ニ次ギテハ福徳貴寺、文保寺、東窟寺、高仙寺、龍藏寺、和田寺、高藏寺等何レモ三等寺ナリ。其他ハ次ノ寺院表ノ如シ。

寺	號	宗派	位	置	略	記
寺院表						

(107)



來迎寺	淨土宗	篠山町ノ内 立町	元八上ニアリ波多野秀治ノ歸依セシ所。
尊寶寺	真宗	全	永正中雪隆波々伯部村ニ開山、後信隆八上ニ移シ淨隆今ノ地ニ移ス。
眞福寺	淨土宗	篠山町ノ内 河原町	元和九年本柳開基。
觀音寺	曹洞宗	全	永祿中嶺玖八上ニテ開山。後榮珍今ノ地ニ移ス。
本經寺	日蓮宗	全	慶長中日泉常陸ノ土浦ニテ城主松平氏ノタメニ開山、元和五年今ノ地ニ移ス。
誓願寺	淨土宗	篠山町ノ内 魚屋町	天正中八上ニテ天譽開山。
妙福寺	日蓮宗	篠山町ノ内 西町	文明中攝津ニテ日助開山、後日洞八上ニ移シ日順今ノ地ニ移ス。
善導寺	淨土宗	八上村 小多田	誓願寺末
專福寺	真宗	全	本願寺末
十念寺	淨土宗	八上村 八上内	誓願寺末
東陽寺	曹洞宗	全	洞光寺末

松谷寺	全	八上村 奥谷	洞光寺末
寶林寺	真宗	八上村 松ノ木島	本願寺末
法誓寺	全	八上村 澁谷	全
石心寺	曹洞宗	日置村 八上上	洞光寺末
阿彌陀寺	淨土宗	全	來迎寺末
長和寺	曹洞宗	日置村 曾地中	洞光寺末
德壽寺	全	日置村 野々垣	天正三年賢易創建
照光寺	真宗	全	貞享元年創建
金光寺	全	日置村 西莊	安政五年創建
金剛寺	全	全	本願寺末
西光寺	曹洞宗	日置村 畑市	洞光寺末
大仙寺	全	日置村 辻	寛正二年開山
金樂寺	真宗	全	本願寺末
西安寺	全	日置村 上宿	弘化四年創立
清陰寺	曹洞宗	後川村 後川中	應永十二年洞光寺第二世良源開山

長谷寺	久昌寺	豐林寺	光明寺	永泉寺	彌陀寺	觀音寺	極樂寺	清泰寺	琴松寺	東林寺	西樂寺	福昌寺	如來寺	本休寺
全	曹洞宗	真言宗	真宗	曹洞宗	真宗	全	全	全	全	全	全	曹洞宗	淨土宗	曹洞宗
大芋村 藤坂	大芋村 市野々	大芋村 福箱	福住村 箱谷	福住村 川原	全	福住村 安口	全	福住村 西野々	福住村 中原山	福住村 二ノ坪	福住村 藤ノ木	全	福住村 福住	福住村 本明谷
全	洞光寺末	齊明二年法道開基、蓮花院末	應永二年玄喜創立	太寧寺末	本願寺末	太寧寺末、昔粉井家ノ祈願所	全	洞光寺末	昔毛利元就ノ家臣村井秀之建立	永祿十二年玄壽開基	大永三年道根開基	全	昔粉井家ノ祈願所	天文年中建立

寶塔庵	楞嚴寺	松泉寺	太寧寺	滿願寺	法圓寺	慈眼寺	洞光寺	觀福寺	長松寺	淨安寺	藏六寺	瑞祥寺	長福寺	多聞寺
曹洞宗	天台宗	全	曹洞宗	天台宗	全	全	全	全	全	淨土宗	全	全	全	全
全	畑村	全	全	畑村	雲部村	雲部村	雲部村	雲部村	村雲村	村雲村	村雲村	村雲村	村雲村	村雲村
全	火打岩	全	全	畑村 奥畑	奥縣守	西本庄	東本庄	春日江	向井	栲梨	貝田	井串	小立	上彼見
太寧寺末	聖護院末	太寧寺末	護國寺末、嘉吉三年細川持春創立	住心院末、明德年中創立	太寧寺末	洞光寺末、天和元年開基	正眼寺ノ末、應安七年天鷹開基	太寧寺末	正保二年創立	寬永二年創立	天文元年創立	天文四年創立	全	全

善法寺	天台宗	畑村和田	龍藏寺末
長德寺	曹洞宗	畑村大淵	太寧寺末
淨居寺	全	全	寛正二年創立
正覺寺	淨土宗	畑村般若寺	極樂寺末
金照寺	眞宗	畑村菅	本願寺末
吉祥寺	曹洞宗	城北村新莊	太寧寺末
法昌寺	全	城北村黒岡	洞光寺末
小林寺	全	城北村澤田	全
長樂寺	全	城北村郡家	全
法藏寺	全	城北村寺内	全
東窟寺	天台宗	城北村藤岡奥	延曆寺末、至徳元年永盛開基
正福寺	眞宗	城北村澤田島	本願寺末
玉照院	天台宗	城北村野間	明治三十二年北河内村坂本ヨリ移シタルモノ
光專寺	眞宗	岡野村風深	本願寺末
正樂寺	淨土宗	岡野村矢代	光忠寺末

善賢寺	全	岡野村野尻	誓願寺末
西林寺	全	岡野村今福	光忠寺末
専念寺	全	岡野村大野	全
蟠龍庵	臨濟宗	岡野村東岡屋	藩主青山家ノ廟、元濱松ニアリ。
大膳寺	曹洞宗	岡野村西岡屋	洞光寺末
長源寺	全	岡野村東濱谷	太寧寺末
福正寺	眞宗	岡野村有居島	本願寺末
淨法寺	天台宗	南河内村黒山田	治承元年源有經建立
西谷寺	淨土宗	南河内村西谷	光忠寺末
乘願寺	全	南河内村口坂本	全
大圓寺	全	南河内村川北	來迎寺末
西光寺	眞宗	南河内村西木ノ部	本願寺末
西誓寺	全	南河内村川西	全
滿福寺	全	南河内村口坂本	全
福德貴寺	天台宗	北河内村坂本	延曆寺末、聖徳太子創立

弘誓寺	天台宗	北河内村	上板井	延曆寺末、大化三年法道開基
光照寺	淨土宗	北河内村	宮田	光忠寺末
松隣寺	曹洞宗	草山村	本郷	寛文十一年創立
法藏寺	真宗	草山村	遠方	天保七年長五郎創立
高藏寺	天台宗	大山村	高倉	延曆寺末
大乘寺	真言宗	大山村	追入	寶城院末
園林寺	日蓮宗	全		元治元年園田貫治創立
淨土寺	淨土宗	大山村	大山新	誓願寺末
本來寺	全	大山村	大山上	智恩院末
念佛寺	全	大山村	北野	誓願寺末
正覺寺	真宗	大山村	明野	天正二年真好開基
西蓮寺	淨土宗	味間村	東吹	光忠寺末
法福寺	真宗	全		本願寺末
文保寺	天台宗	味間村	味間南	文保元年再建落成、由テ名ク
觀明院	全	全		元文保寺ノ一部分

大勝院	全	全	全	
真如院	全	全	全	
大國寺	全	味間村	味間奥	文保寺末
往生寺	全	味間村	味間北	全
岳應寺	曹洞宗	味間村	大澤	洞光寺末
法傳寺	真宗	味間村	中野	東本願寺末
龍藏寺	天台宗	城南村	真南條上	豊臣秀吉ヨリ朱印ヲ下サレタリ
圓心寺	日蓮宗	全		妙福寺末
願勝寺	曹洞宗	城南村	真南條中	洞光寺末
淨念寺	淨土宗	城南村	岩崎	來迎寺末
若林寺	全	城南村	栗栖野	永祿中酒井信政建立
西禪寺	曹洞宗	城南村	野中	洞光寺末
醫王寺	全	城南村	北	全
弘誓寺	全	城南村	宇土	全
法福寺	全	城南村	谷山	全

谷松寺	曹洞宗	城南村小	枕	洞光寺末
高仙寺	天台宗	古市村南	矢代	豊臣秀吉ヨリ朱印ヲ下サル
宗岸寺	浄土宗	全		天正年中城主酒井氏建立
浄福寺	眞宗	古市村牛ヶ瀬		本願寺末
宗立寺	全	古市村古	市	東本願寺末
妙樂寺	天台宗	古市村油	井	高仙寺末
徳圓寺	浄土宗	古市村當	野	仁壽二年創立
西方寺	天台宗	今田村	今田新田	昔西光寺山中ニアリテ西光寺ト稱セリ
眞藏寺	全	今田村木	津	清水寺末
和田寺	全	今田村下	小野原	昔和田寺山ノ頂上ニアリ東光寺ト稱シキ
滿福寺	眞宗	今田村東	莊	文祿三年創立

基督教。ハ西亞細亞ノシリヤ國ニ起リ西洋諸國ニ廣マレリ。我國ニモ三百年前ニ傳來セリ。其教義ハ一神教ニテ他神ト融和セザルヲ以テ我神道ト衝突ス。又平等無差別ノ博愛主義ハ我國ノ忠君愛國ノ念ト合ハヌ點アリ。サレバクリスト教ノ我國ノ布教ニハ悲惨ノ歴史アリ。維新後我政府ハク

リスト教ノ禁ヲ解キ更ニ帝國憲法ニテ明カニ信教ノ自由ヲ許サレタルヲ以テ熱心ナル傳導者ノ力ニヨリテ多クノ信者ヲ生ゼリ。本郡ニテハ篠山町ノ内北新町ニ日本基督教講義所アリキ其ノ他時々宣教師篠山等ニ來リテ熱心ニ傳道セリ。サレド郡ニハ信者ハ少數ナリ。

儒教。儒教ハ現世ノ道德ヲ説クモノナレバ宗教ニハアラザレド深ク人心ニ入りテ信念トナルコト宗教ニ類ス。儒教ハ孔子ノ教ヘニ基キテ成リ我國ニハ應神天皇ノ朝ニ渡來セリ。其ヨリ以來時ニ盛衰アレドモ常ニ教育ノ大主義トナレリ。維新後西洋ノ學藝入り來リテ儒教ヲ壓シタレドモ永ク日本化シタル儒教ヨリ得タル道德ノ精神ハ我國民性トナリ正義ヲ重ンズル高尚ノ情操ハ大ニ世界ニ歎賞セラレ。我郡ニテモコレマデニ文武ニ功績アリシ人々ニハ漢籍ヲ學ビ儒教ニテ精神ヲ鍛鍊シタル方多カリシガ如シ。郡中漢學ノ先輩ニハ渡邊弗措、谷野洋五郎、園田藤右衛門、市瀬禎太郎、大石貞質等ノ碩學アリ。

勸業

農業。多紀郡ニ於ケル農業ハ一般ニ米麥作ニ力ヲ注グト雖モ。地理上山地多キヲ以テ、自ラ林業モ亦盛ナリ。桑栽培ノ如キモ近年頗ニ増加シ來リ從ツテ養蠶業モ次第ニ隆盛ニ趣キツ、アリ。ナホ冬季ハ寒氣比較的強ク農業ノ閑暇ヲ利用シテ男子ハ多ク酒造出稼ニ出ヅ。

是レ等農事ニ關スル指導的機關トシテハ、明治三十四年以來、各村ニ農會ヲ組織シ郡ニ郡農會ヲ設ケ、縣、郡ノ當局者監督指導ノ下ニ斯業ノ進歩ニ努力シ、年ヲ逐ウテ益々事業ヲ擴張シ、其ノ成績ノ見ルベキモノ少カラズ。縣郡町村ノ熱心ニシテ適切ナル指導獎勵ト相俟ツテ郡内農事ノ面目ヲ一新スルニ至レリ。以下項ヲ逐ヒテ其ノ狀況ノ大略ヲ記サン。

農産物。最近五ヶ年ノ平均高ハ次表ノ如シ

品目	作付	反別	産	額	價	額
米		四、九七五、二反	九五、七〇四石	一、六四三、九五五		
麥		一、三九七、二反	二二、二三九	一五二、二四五		
大豆		一、五二、七	一、八五七	二一、九三二		
小豆		七六、二	七二〇	一〇、三四九		
豌豆		四二、〇	五〇三	五、一三八		
蠶豆		四八、三	五四九	五、四五三		
黍		四、四	四七	三〇〇		
蕎麥		一、二	一一	六一		

計	佛掌薯	青芋	馬鈴薯	甘藷
	五二、九	二六、〇	二七、〇	二七、〇
	八三、四九四	五九、二九五	六三、四四二	四、四九〇石
		六、一七九	三、五六二	五、二三一

郡ノ米麥産額。最近數年ノ比較次表ノ如シ

年	米	麥
明治三十六年	九六、二三三石	一八、五〇二石
明治四十年	八六、五七一	二〇、四六〇
大正元年	一〇〇、三八六	二〇、五二六
大正二年	九二、八四七	二二、七六七
大正三年	九八、六〇一	二〇、四六九
大正四年	九三、七六四	二二、七二三

右最近五ヶ年ノ平均額即チ平年作ハ次ノ如シ

米 九五、七〇四石

麥 二一、二三八石

粳米、糯米ノ比較ヲ見ルニ約九十二パーセントハ粳米ニシテ残り八パーセントハ糯米ナリ。其ノ一反歩當收穫ハ粳米ハ一石九斗三升三合糯米ハ一石八斗三升二合ナリ。而シテ糯米ハ産額比較的少ナキ故ニ價格ハ稍高キヲ常トス。陸稻ハ餘リ作ラズ麥ノ類別ヲ見ルニ大麥ハ八十二パーセント、裸麥ハ十六パーセント、小麥ハ二パーセントナリ。其ノ一反歩當收穫ハ大麥ハ約一石六斗内外ニシテ裸麥ハ大麥ヨリ稍減ジ一石五斗、小麥ハ稍減ジ八斗前後ナリ。

米ノ作付反別ハ約四千九百八十二町五反アリ、然レドモ本郡ニテハ其ノ中堀番トテ畑ノ如ク仕立テ大豆小豆其ノ他種々ノ作物ヲ作り稻作ヲナサズシテ以テ一期間地方ノ休養ヲナスモノモアリ。

麥ノ作付反別ハ約田千三百五十五町九反歩ト畑六十八町三反歩トニテ計一千四百二十四町二反歩ナリ。田ハ大部分冬麥作ニ用フベキナレドモ一ツハ習慣トシテ一ツハ濕田多キタメ多ク水田ノ儘遊バセ麥ノ作付ヲナスハ田畑ノ僅カニ三十パーセントニ過ギズ。近時可成二毛作ヲ多クセンコトヲ獎勵シ殊ニ耕地整理等モ次第二行ハレ濕田ハ自ら乾田トナリ冬季ニ於ケル麥作モ漸次ニ増加スルノ傾向ヲ示セリ。

本郡ニ於ケル米ノ收穫高ハ最近五ヶ年間ノ平均ヲ見ルニ九萬五千六百八十四石ニシテ米穀生産検査ニ係ルモノ約五萬九千六百六十八石内輸出検査ヲ受ケタルモノ約三萬九百八十八石アリ、是レ本郡内ノ需要ヲ充シタル剩餘ノ分ニシテ郡外ニ輸出セラル、モノナリ、是レヲ一石ニ付約拾五圓ト見ルトキハ四拾六萬餘圓ヲ收ムルコトヲ得ルナリ。サレバ全國ニ於ケル米ノ産額ヲ我國人口ニ割當ツレバ平均一人ニ對シ一石ノ割合ナリト云フニ比シ本郡ノ産米ハ既記ノ如ク人口五萬二千ニ對シ九萬五千石餘ナレバ一人約一石六斗餘ニ當ルヲ以テ全國ノ平均ニ對シテ本郡ノ如キハ實ニ幸福ノ地位ニアリト云フベシ

町村別米麥産額(最近五ヶ年ノ平均ニヨレバ)

篠山町	八上村	日置村	後川村	福住村	米産額	麥産額
四五四石	五四三一	六、五八〇	一、三四二	五、一五八	四三三石	一、三八一

大	芋	村	三、九六三	八六八
村	雲	村	四、七二一	一、〇七六
雲	部	村	三、八二五	六四四
畑		村	四、六五六	八二六
城	北	村	九、一〇三	一、六〇四
岡	野	村	五、一九七	一、〇五二
南	河	村	四、六三八	一、〇七七
北	河	村	四、五九四	一、〇〇七
草	山	村	一、二五一	六一八
大	山	村	五、〇三六	一、四七五
味	間	村	七、九〇七	一、九一一
城	南	村	八、四一三	八二二
古	市	村	五、八二四	一、五六一

今	田	村	七、四一〇	二、八四四
計				

黒大豆ノ原産地ハ南河内村川北ノ一部分ニシテ今ヲ距ルコト約百六十年前領主青山家ニ於テ郡内農産物中特ニ黒大豆ノ優良ナルヲ賞揚シ庄屋ニ命ジテ特選黒大豆ヲ納入セシメ更ニ青山家ニ於テ精選シ之ヲ幕府ニ献納セラレタリ。是レヲ特産黒大豆献納ノ始メトス。天保二年ニ至リ日置村豪農大庄屋波部六兵衛其ノ良種ヲ精選シテ郷ノ各所ニ配布シ大イニ改善ノ途ヲ講ジタレドモ廢藩ノタメ黒大豆ノ献納モ廢セラレ其ノ耕作區域モ漸次減少スルニ至リシヲ繼嗣波部本次郎父祖ノ遺志ヲ繼ギ明治四年ニ至リ善良ナル黒大豆種子中ヨリ大粒ノミヲ精選シ是レヲ原々種トシテ日置村ニ適地ヲトシ耕作ニ注意シテ良種ヲ作り波部黒ト名ヅケテ郡内一般ニ配布シ大イニ奨励シタル結果北海道ヲ始メトシ各府縣農事試験場、農學校及ビ全國各地ノ篤農家ヨリ種子配布ヲ請フ者多ク幕府へ献納シタル時ヨリモ優良ナルモノヲ得ルニ至レリ。而シテ波部氏ハ明治二十七年東京市ニ開設セラレタル第一回内國勸業博覽會ニ出品シテ三等有功賞ヲ受ケ又明治二十八年京都市ニ開設セラレタル第四回内國勸業博覽會ニ於テ有功二等賞牌ヲ受ケタルノミナラズ當時出品ノ黒大豆ハ宮内省ヨリ御買上ゲノ光榮ヲ得タリ。種類ニハ波部黒大豆、金時黒大豆一名八黒霜降、白大豆一名腹切大豆ノ三種アリテ



波部黒ハ普通ノ大豆ヨリ一石ニ付貳圓餘ノ高價ニ買取ラル。多紀郡黒大豆ノ販路ハ東京大阪京都地方ニシテ收納期ニ至レバ京阪地方ヨリ多數ノ商人入込ミ各農家ニ就キテ買取ル有様ナリ。但郡内ノ耕作區域狭小ニシテ多數ノ需要者ノ希望ニ應ズルコト能ハザルヲ遺憾トス。

菜種ハ近年石油ニ壓セラレテ産額ヲ減ズ其ノ狀況左ノ如シ

年度	作付	反別	産額
明治二十年		二四三、五 <sub>反</sub>	一、五三九 <sub>反</sub>
明治二十五年		二三八、九	一、五二五
明治三十年		二二一、九	一、三三六
明治三十五年		一七六、三	一、二〇七
明治四十年		七七、〇	六〇四
大正元年		六一、三	四六三
大正二年		五五、九	四九六
大正三年		五〇、四	四〇二
大正四年		四七、〇	三七八

最近五ヶ年平均

五五、九

四四六

馬齡薯ハ近年普及シテ各地ニ産スレドモ最モ盛ニ作ラル、ハ今田村トス。今田村ハ土質ヤサシキ故熟スルコト早ク而モ稻ノ植付ハ他村ヨリ遅ク即チ黒石ハ六月四、五日他ノ大字ハミナ六月十日以後ナルヲ以テ植付マデニ馬齡薯ノ收穫ヲ終リ其ノ跡ニ插秧スルニ差支ナキヲ以テナリ。甘藷ハ味間大山草山等ニ多ク就中草山ノモノ最良品ナリトス。

自作小作。最近ノ調査ニヨレバ本郡耕作地ノ自作小作ヲ比較スルニ。

自作	反別	田	畑	計	自作	反別	田	畑	計
自作	反別	田	畑	計	自作	反別	田	畑	計
		三、四〇一、八 <sub>反</sub>	四四六、四 <sub>反</sub>	計			一六二、一	二、〇五七、五	計
小作	反別	田	畑	計	小作	反別	田	畑	計
		一、八九五、四	一六二、一	計			六〇八、五	五、九〇五、七	計
合	計	田	畑	計	合	計	田	畑	計
		五、二九七、二	六〇八、五	計			五、九〇五、七		

即チ耕作地ノ三分ノ二弱ハ自作ニシテ三分ノ一強ハ小作ナリ。明治二十九年以後ハ大体ニ於テ變ラザレドモ近年ハ少シク小作地ヲ減ズル傾キアリ。自作戸數ト小作戸數トノ割合ヲ最近ノモノニヨリテ調査スレバ次表ノ如シ

町村別	區別	農		業		田		畑	
		自作戸數	兼作戸數	自作戸數	兼作戸數	自作	小作	自作	小作

篠山	八上	日置	後川	福住	大芋	村雲	雲部	畑	城北	岡野	南河内	北河内
二	一〇	一九〇	七〇	一五	一四六	一五〇	一〇〇	一五〇	一五	二二七	八	八六
七	五	二六	四	七	九六	七	一一	三	一八三	四	八	一三
三	七	八	二	三	三九	三	二	一四	六	四	五	四
一、六反	一六三、二	二七〇、〇	六五、三	二五五、四	一八七、二	二〇七、一	一六一、三	二二一、四	一五四、八	二五、六	一五九、一	一六、九
一八、五反	二〇、一	一三、七	二四、九	八三、七	六七、一	五、二	七四、五	五、五	一六、二	七〇、六	一〇五、〇	二二、二
二二、二反	一〇、八	二四、九	三、六	一八、三	二七、〇	一四、〇	一七〇、〇	二二、九	一八、〇	七、七	二〇、九	二九、九
二二、六反	三、一	六、九	一、三	二、四	六、〇	一、一	一、五	六、二	四、八	二、三	一、七	八、七

草山	大山	味間	城南	古市	今田	計
六	四	六	一六七	一四	二〇五	二、一五
四〇	三三	七	二〇一	一七	一五	一、八四
一八	七〇	五	四	二	一〇五	七、〇
六、一	一〇六、〇	二八、〇	三四八、七	一九六、四	一〇〇、二	三、四〇一、八
二六、三	一九六、九	三五、二	八一、七	一一〇、八	一六五、三	一、八九五、四
五、一	二八、五	三三、九	二二、九	五、七	二〇、一	四四六、四
九、九	四一、五	三六、二	一、三	五、六	四、八	一六二、一

小作料。 郡ノ小作料ハ最高一石五斗、最低五斗平均一石乃至一石二斗ナリ。

多紀郡ノ地主ト小作人トノ關係ハ他郡ニ比シテ圓滿ナリ。小作地ハ維新後大イニ増加シタリ。藩政ノ頃ニハ人別畝高作畝帳ヲ毎年書上ゲシメ、モシ無高無作畝ノ者アルトキハ庄屋ト共ニ本人ヲ役所ニ召喚シテ説諭ヲ加ヘシ故無作ヲ耻トシタリ。然ルニ維新後ハコノ干渉ナク人權進ミ富ノ移動激シクナリテ資本家ト勞力者ト相分レントスルニ至レリ。

養蠶。 本郡ニ於ケル養蠶ハ專業トスルモノ少ク多クハ農業ノ餘業トシテ飼育スルモノナリ、其ノ盛ナルハ草山、北河内、大山、味間、古市、日置、後川ノ各村ナリ。其ノ内ニハ養蠶室ヲ建築シ

ヲ多數ノ養蠶ヲナスモノモアリ。

本郡ニ於ケル養蠶ニ關スル最近ノ統計ハ次表ノ如シ。但シ一石ハ十貫久ナリ

	春蠶	夏蠶	秋蠶	計
飼育戸數	五一四	三、〇四九	五〇〇	四、〇六三
收繭額	六一九 <small>石</small>	一、八七五	三三六	二、八三〇
價額	二〇、二五八 <small>円</small>	五九、五五八	一一、六三六	九一、四五二

尙繭産額ノ比較ハ次表ノ如シ

年	春繭	夏繭	秋繭	計
明治三十年	一五五 <small>石</small>	一、一三二 <small>石</small>	〇 <small>石</small>	一、二八七 <small>石</small>
明治三十五年	二三一	一、五五三	四一	一、八二五
明治四十年	四〇五	二、二一四	四一	二、六六〇
大正元年	七二二	一、九八六	二九八	二、九九六

年	産額	價額	計
大正二年	七五四	一、八二二	二、九四三
大正三年	六九五	一、六六五	二、六二七
大正四年	六一九	一、三八〇	二、八三〇

本郡ノ蠶業ハ從來夏蠶ヲ主トシテ春秋蠶ハ少カリキ。蓋シ春蠶ハ其ノ上簇期ノ稻田植付時ニ當ル等ノ關係ヨリ飼育セラレザリシナリ。又秋蠶ハ夏蠶ノ時ニ桑葉ヲ取盡シ其ノ缺乏ヲ生ズルニ至レルヲ以テ之亦盛ナラザリキ。然レドモ近來蠶業ニ關スル知識ノ發達ト努力ノ經濟ヲ考フルト桑園ノ擴張等ニヨリ漸次春秋蠶ノ飼育ヲ増加スルニ至リ、中ニハ春蠶ヨリ秋蠶マデ相繼ギテ數回飼育スルモノアルニ至レリ。

茶。茶ハ本郡ニテハ味間、古市、後川、大山、草山、日置等ノ諸村ニ多ク産シ、郡外ニ賣出スモノ少カラズ。

	煎茶	番茶	計
産額	一九、五一七 <small>石</small>	一六、八〇六	三六、三二三
價額	四九、〇六九 <small>円</small>	六、二二〇	五五、二八九

家禽。 家禽ヲ飼養スルハ農業ノ餘業トシテ適當ナルヲ以テ普ク行ハル。最近五ヶ年ノ飼養數ヲ平均スレバ次表ノ如シ

飼養	戸數			計	鳥數			一ヶ年產卵數		
	十羽未滿	十羽未滿	百羽未滿		百羽以上	成禽	雛	價額	價額	價額
鷄	二、三六	三二七	九	二、七〇三	一〇、一三三	八、三四二	八、三〇五	五、八、九二	一〇、六四	
鶩	三七	四	一	四二	一七四	一七二	一四六	八、三六	一七	

郡農會。 多紀郡農會ハ明治三十四年五月ノ創立ニシテ郡内屈指ノ名望篤農家ナル波部本次郎之レガ會長トナレリ。兵庫縣農會ト連絡シ篠山町ヲ除ク十八箇村ノ村農會ヲ指導シ副會長以下ノ役員ト共ニ數名ノ技手ヲ使用シ郡ノ當局者ト相提携シテ農事ノ發展ヲ遂グルヲ任トシ土地人情ニ適セル方法ヲ以テ理論ヲ説キ或ハ警告シ或ハ獎勵シタル結果漸次其ノ實績ヲ示シ近年郡ノ農事ハ大ニ活氣ヲ呈シ面目ヲ改メタリ。大正五年波部氏ハ故人トナリ小林常三郎氏之レガ後ヲ繼ギテ其任ニ當レリ創立以來郡農會ノ行ヒシ事業ハ農產物及ビ畜產品評會ヲ開キ、種籽選水選ヲ獎勵シ、褒賞規程ヲ設ケテ農業上ノ功勞者ヲ褒賞シ、郡外ノ共進會博覽會等へ出品スルコトヲ獎勵シ、種苗ヲ購入配布シ蠶病消毒器及ビ害鳥捕獲器ヲ購入貸與シ肥料飼料等ノ共同購入ヲ周旋シ、耕地整理ノ調査ヲ行ヒテ獎勵指導ヲ加へ、堆肥ノ改良ヲ獎勵シ、種牛ヲ購入飼育シテ牛種改良ヲ獎勵シ、俵米品評會改良俵

造講習會ヲ開キテ米穀改良ニ資シ、桑園ヲ獎勵シテ養蠶ノ普及ヲ圖リ、農園ヲ設ケテ試作スル等其ノ經營ハ各方面ニ涉ル。中ニ就キテ農事講習會ヲ開キテ一般ノ人ニ農業的知識ヲ授ケシガ如キ、種牛ノ購入飼育ニ依リテ畜產ヲ進歩セシメタルガ如キ或ハ俵米品評會改良俵造講習會ヲ開キテ米穀改良ニ資シタルガ如キ等ハ其ノ成績ノ最モ佳良ナルモノト云フベシ。而シテ農會ノ更ニ以前ヲ回顧スルニ明治二十八年創立セラレタル私立多紀郡勸業會ナルモノアリ時ノ郡長ヲ會頭トシ其他役員ニハ郡ノ實業界ノ有力者ヲ網羅シテ勸業上殊ニ主トシテ農業上ノ研究協議及ビ活動ヲ爲シ斯業ノ進歩ヲ計リテ功績ヲ現ハシタリシガ農會起ルニ及ビテ廢セラレタリ。

農業講習所ノ由來。 郡農事講習所ノ前身ハ郡農事試驗場ナリ。其ハ明治二十九年八上村ノ内糶ケ坪村ニ創立シ附近ノ田四段九畝廿六歩、畑三反一畝十一歩ヲ借入レテ試驗田畑トシ米麥ヲ始メ種々ノ農作物ヲ試作シテ其經過ト成績トヲ公示シ講話説明ト相待チテ郡ノ農業ノ改良ヲ促シタリシガ日露戰役ニ際シ經費緊縮ノタメ三十七年三月廢セラレタリ。其ノ後二ヶ年間技手ハ巡回教師トシテ勤務シ明治三十九年四月多紀郡農事講習所ヲ創立セラル。始ハ篠山町ノ内南新町ニアリシガ四十二年二月舊城内元尋常小學校々舎ノ一部分ニ移轉セリ。新家侃氏ヲ創立以來引續キ主任技手トシ生徒ヲ募集シ講習シテ農業ニ關スル智識技能ヲ授ケタリ。規程ノ細目ニハ時々變更アリシガ講習生ヲ二種トシ本科定員百名、養蠶專科定員二十名。本科ノ課程ハ米麥栽培法、養蠶法、桑樹栽培法、産牛

大意、養鶏法、造林法大意、養蠶專科ノ課程ハ桑樹栽培法、養蠶法、蠶種製造法ニシテ兩科トモ毎月十日以内講習シ隨時實習ヲ行ヒ以テ新智識ヲ郡内ニ普及セリ。而シテ四十三年度ヨリ女子部ヲ新設シ講習所附屬畑トシテ試験場時代ヨリ繼續セル糶ヶ坪村ノ畑三反一畝十一歩ト篠山城内ニテ畑五反九畝歩トヲ借用シ南新町ニテ畑一反五畝歩ヲ購入シ、之レ等見本園及ビ模範園トシテ桑栽培ノ好成績ヲ示シツ、アリキ。大正二年三月迄ノ卒業生本科百十九名專科四十九名女子部八名ノ多キニ達シタルト一般ニ農業ニ關スル智識技能ノ發達ニ伴ヒ大正二年三月限りコレヲ廢止シ城内ニ於ケル桑園ノ一部ハ郡立高等女學校園ニ移シタリ。

耕地整理。耕地整理ハ農業ノ改善ヲ圖ル絶好ノ有益事業ニシテ産業ノ充實振興ヲ期スル基礎ナリ、サレバ郡ニ於テハ之ガ施行ニ就キ指導獎勵ヲ加ヘ今ヤ各所ニ於テ施行ヲ見ルニ至レリ即チ明治四十三年味間村ニ於テ十五町餘ノ起工ヲ始メトシ今日迄ニ工事完成セルモノ四、目下工事中ニアルモノ五組合之レヲ細別スレバ別表ノ如クニシテ何レモ良好ナル成績ヲ示シツ、アリ、就中吹耕地整理組合ハ尤モ効果ノ著シキモノニシテ本地域ハ福知山線篠山驛ヨリ篠山町ニ至ル間縣道ニ沿ヒ篠山川ヲ以テ境トセル一團地ニシテ面積二百二十餘町歩アリテ計畫稍ヤ大ナルモノナリトス全地區ハ米作ノ本源タル水源ニ乏シクシテ天然ニ流出スルモノ殆ドナク大部分溜池ニヨリ之レガ不足ハ田松川ノ流水及ビ湧出溝渠ニ溜滞セルモノヲ以テ補フ状態ナリシモ灌溉溝ハ總ジテ田面ヨリ低ク隨テ用水

ヲ流入スルコト能ハズ爲メニ植付後ノ如キハ殆ド連日釣瓶投桶又ハ水車ニテ給水ヲナス等灌溉ノタメニハ不尠勞力ヲ要スルノミナラズ旱天ニ害ヲ被ルコト屢々ナリキ尙一面用水缺乏ノ結果水田ハ年中水ヲ溜溜スルヲ以テ二毛作ヲナス能ハズ土地利用上ニ於テモ不充分ナルヲ免ガレザリシガ大正二年篠山川ノ流水ヲ揚騰スベク六十馬力ノ吸入瓦斯機械ヲ据付ケ灌溉溝渠ヲ築造シ續イテ地盤整理ヲ行ヒツ、アリ以來大旱天ニ際會セルモ用水潤澤ニシテ作物農饒ノ好成绩ヲ收メツ、アリ。

耕地整理現況一覽表

組合名稱	地區	面積	工事ニ要スル豫算額	現況
味間南村耕地整理組合	味間南(北、奥ノ飛地一部)	一五	三、三三二	大正二年工事完了
辰巳耕地整理組合	今田村辰巳	一四	三、九九六	大正五年工事完了
宮代小倉村耕地整理組合	大芋村宮代小倉	二六	五、四〇一	大正二年工事完了
吹耕地整理組合	味間村東吹、吹新、杉、網掛、西吹、東古佐、城南村宇土	二二二	四六、八五一	大正二年揚水機据付大正五年マテニ百七十七町八反歩ハ整理済大正六年完了豫定
波賀野耕地整理組合	古市村波賀野	二五	七、九〇一	主要ナル溜池改築工事を了ヘ目下整地工事中
奥池郷耕地整理組合	岡野村矢代、大野、南河内村川北、西谷、口坂本、西坂本	一一五	二一、四九三	主要工事タル溜池改築ヲ了ヘ大正五年マデニ十五町歩整理済

川原村耕地整理組合	福住村川原	二	五五七	大正五年工事完了
黒石村耕地整理組合	今田村黒石	一三	八、三三一	山林開墾整理ニシテ大正五年工事着手
城西耕地整理組合	北河内村六ヶ大字	三二〇	三一、九六四	大正五年十二月設立認可ヲ受ケ整理ニ着手
	南河内村九ヶ大字 大山村三ヶ大字			
計		七六二	一一九、八三六	

米ノ選種。 明治初年ノ頃ニアリテハ種粃ハ單ニ唐箕ニ掛ケテ不良ノ粃ヲ除クニ止マリシガ明治十七八年頃ニ至リ稀ニ拔選穂又摺水選ヲ行フモノアルニ至リタレドモ之等ハ郡内一二ノ老農篤志家ニ止マリキ。 時世ノ進運ニ伴ヒ農業改良ニ關スル學理ノ研究ト共ニ摺水選種ノ有効ナルヲ認メラレ明治二十六年頃ヨリ農家ノ總テニ對シテ此ノ摺水選種ヲ獎勵シ明治三十六七年頃ニハ全部ノ摺水選種ヲ實行スルニ至レリ。 又麥種ニアリテモ摺水選ヲ獎勵スレドモ未ダ普及ニ至ラズ百中ノ二十乃至三十ノ實施ヲ見ルニ過ギズ。

浸種。 明治二十年頃迄ハ何十日間モ浸種スル習慣アリテ其浸種中ニ殆ンド全部發芽セル粃種ヲ播下シタリシガ研究ノ結果七日内外ノ浸種ヲ最適當ト認メラレ近來ハ之レ以上浸種スルモノナキニ至レリ。

水稻苗代。 明治十七八年頃迄ハ一定シタル形ナク一種類一區ノ平播ニシテ害虫驅除除草等ハ少シモ行ハレザリキ。 苗代ヲ共同ニスルノ利ヲ悟リシハ明治二十年頃ナレドモ單ニ害虫誘殺ノ利便ヲ圖ルニ出デタルモノニシテ只集合苗代ヲ設置スルノミ而シテ之ヲ行フモノモ稀ナリキ。 又短冊形ニ播種ヲナスニ至リタルハ三十年頃ニシテ其後短冊形ニ播種スルハ害虫驅除豫防上又ハ除草手入上至便ナルヲ認メ遂ニ縣令ヲ以テ制裁ヲ加ヘ總テ短冊形トナスコト、ナリタルヲ以テ明治三十六年頃以來悉ク短冊形トナレリ。 又單ニ害虫誘殺ニ止マラズ共同苗代ノ設置ハ稻作ノ改良上ニ至大ノ功益アルヲ認メ明治三十六年以來其實施ヲ獎勵セルモ土地ノ狀況及ビ水利其他各種ノ事情アリテ實施上困難ナリシガ地方ノ狀況ニ應ジ適當ノ指導獎勵ヲ加ヘ明治三十九年ニハ集合苗代或ハ外觀上ニ於テ共同苗代ト認メ得ベキモノ殆ンド半数以上ニ達セル際四十年縣令ヲ以テ其實施方ヲ規定セラレ爲メニ四十二年頃ニハ全部ニ涉リテ其ノ實行ヲ見タルモ四十四年縣令改正ト共ニ漸次舊ニ復シ目今共同苗代ノ殆ンド跡ヲ絶チシハ遺憾トスル所ナリ。 苗代ニ於ケル害虫驅除ニ就テハ年々郡令ヲ發シ當業者一齊ニ驅除ヲ勵行セシメツ、アリ。

播種量。 粃種ハ本田一反ニ對シ四升以上甚シキハ七八升ノ粃ヲ當テ苗代一坪ニ一升以上ヲ下種スル習慣アリシガ明治二十七年頃ヨリ薄播ノ有利ナルヲ認メ獎勵ノ結果ハ現今一坪ノ播種量五合以內本田一反ニ對シ四升以內トナルニ至レリ。 麥種ノ播種量ハ一反ニ對シ三升乃至五升ニシテ古今一様ナリ。

挿秧法) 古來不規則ノ挿秧法ヲ採リ來リシガ明治十七八年頃ヨリ稀ニ繩引正條植ヲナスモノアリ明治二十六年頃ニハ進ンデ定木ヲ用ヒテ正條植ヲナスモノ往々アルニ至レリ。現今ニアリテハ郡内作付稻田ノ殆ンド全部ハ此ノ正條植ノ實行ヲ見ルニ至レリ。但繩引ヲ主トシ定木ヲ用フルモノハ稀ナリ。

麥ノ播種ハ條播ニナスノ習慣ニシテ點播スルモノ極メテ稀ナリ。

稻作立毛品評會) 明治三十二年頃ヨリ開設セルモノニシテ町村又ハ村農會ノ事業トシニ村ヲ一區域トシテ實施スルモノ漸次多キヲ加ヘ現今ニアリテハ毎年村ノ約半數ハ之ヲ實施シ大ニ人氣ヲ鼓舞セリ。其他拔穂競作品評會等ヲ行ヒ稻作ノ改良上ニ裨益セリ。

米ノ俵裝) 俵裝ハ舊藩政ノ頃ヨリ二重俵、橫繩五ヶ所括リニシテ何レモ五斗ニ二升五合ノ乘米ヲ加ヘテ俵裝スル習慣ニシテ之ガ改良ハ數年來屢々研究ヲ重ネタレドモ習慣ノ久シキ容易ニ改良ヲ見ルニ至ラズ。明治四十年ニ至リテ多紀郡產米改良組合ヲ設置シ其ノ改良事項ヲ協定シテ實施セルニ際シ明治四十一年縣令ヲ以テ米穀検査規則ヲ發布セラレ米粒ノ精選、乾練ノ完全、四斗入、二重俵、橫繩五ヶ所、縱繩二ヶ所掛(郡外輸出米ハ縱繩四ヶ所十文字掛)ニ改メラレ其他俵ノ編方並ニ繩ノ太サヲモ一定セラレタリ其ノ結果大イニ從來ノ俵裝ヲ一變シ其ノ面目ヲ一新シテ價格ヲ増スニ至レリ。大正四年度内米穀検査ノ受檢數ハ十五萬一千八百八十八俵ニシテ内合格ハ十三萬二千九百五

俵、即チ八十七パーセントノ合格ナリ。合格米ハ不合格米ニ比シ一石五拾錢ノ高價ニテ賣買セラレツ、アリ。

採種田) 郡ニ最適セル米種ハ大粒ナル萬作系統ノモノトス即チ政岡、萬作、雄町、有岡等ニシテ其他ニモナホ神力等ハ多ク植付ケラル。又農會ニテハ其普及ヲ計ルタメ採種田擔當人ヲ選定シ最善ノ耕作法ニ據リテ此良種ヲ作ラシメテ全部へ交換及ヒ配布ヲ行ヒツ、アリ。其採種田ハ十三ヶ所ニテ各約一反歩内外ノモノナレハ四十石餘ノ良種ヲ採リツ、アリ。

堀作) 本郡ニ於ケル堀作トイフモノハ他ニ例ナキコトナリ。是ハ四作取リテ第五年目毎ニ一夏水田ヲ畑トシテ稻以外ノモノヲ作ルナリ。斯クテ半作又ハ三分作ノ收穫ヲ得ルノミ。尙昔ハ白堀トテ全ク土地ヲ遊ハセタリシガ今ハ殆ンド止ミタリ。

堆肥舍) 堆肥舍構造ノ改良ハ肥料經濟ヲ計ル上ニ必要ナリ。明治三十六年頃ヨリ獎勵ヲ加ヘ全三十八年縣ノ事業トシテ其ノ品評會等モ開設セラレタリ其結果郡内ニテ模範堆肥舍トシテ褒賞セラレタルモノ年々増加シ百二十餘箇所ノ多キニ達セリ。

酒造出稼) 農家ハ冬季閑散ナルヲ以テ家業ヲ老幼婦人ニ任セ壯年ノ男子ハ灘五郷ヲ始メ諸國酒造家ノ需ニ應ジテ出稼ス。本郡人ニハ酒造ノ長技アリテ古來重用セララル。尙此ノ事業ヲ益々發展セソガタメ明治三十五年八月多紀郡釀酒業組合ヲ創立シ毎年夏期ニ於テ講習會ヲ開キ神戸稅務監督局

(一三八)  
 酒師技師ヲ聘シテ釀造ニ關スル學理ト實地トヲ學習ス。其費用トシテ明治三十九年度ヨリ毎年百五拾圓ヅツ郡費ノ補助ヲ受クルコト、ナレリ。  
 最近ノ調査ニヨレバ酒造出稼總人員四千百二名

種 類	人 員	收 得 額	一 名 平 均
杜 氏	七百八十一名	六〇、八六六圓	七八圓
副杜氏及ビ麴師	九百七十五名	三五、八〇二・	三七・
其 他	二千三百四十六名	五四、五九二・	二三・
計	四千百〇二名	一五一、二六〇・	三六・八七圓

釀酒講習會ニテ講習ヲ受ケタル生徒數次ノ如シ

年 度	自第一回 至第十五回 釀酒法講習會講習生員數					計	特 別	總 計
	一	二	三	四卒業	復 習			
明治三五	一五	二七	—	—	—	一五五	—	一五五
明治三六	八〇	二七	—	—	—	一〇七	—	一〇七
明治三七	三七	五	—	—	—	九二	—	九二

年 度	一	二	三	四卒業	復 習	計	特 別	總 計
明治三八	四	四	二六	—	—	一四	—	一四
明治三九	三六	一〇三	三六	—	—	一七五	—	一七五
明治四〇	一〇三	九〇	三六	—	—	二三九	—	二三九
明治四一	一〇五	九七	六六	—	—	二六八	—	二六八
明治四二	二二	九六	八二	—	—	二〇〇	—	二〇〇
明治四三	二〇八	一六一	八五	—	—	三〇九	—	三〇九
明治四四	一九〇	一八〇	一四六	—	—	三六一	—	三六一
明治四五	一六八	一七四	一三三	—	—	二七五	—	二七五
大正二	一五二	二七	二七	—	—	二〇六	—	二〇六
大正三	一四	二九	二七	—	—	一〇〇	—	一〇〇
大正四	一〇二	九四	八七	—	—	二八三	—	二八三
大正五	二七	八七	八八	—	—	二〇二	—	二〇二
通 計	一、九五	一、四二	九四	七五	六九	五、一八四	二七	五、四六二

(一三九)  
 元來本郡ニ於テ農家ノ一般ニ裕福ナルハ實ニ此ノ酒造出稼ニヨリテ多額ノ金ヲ收得シ來ルガ故ナリ  
 サレバ是レガ發展増加ヲ圖ランタメニハ一方ニ於テハ實地ニツキ其ノ技倆ヲ鍊磨スルト共ニ一方ニ  
 於テ學理ノ研究ヲナサザルベカラズ。茲ニ於テ郡當局者ハ郡ニ釀酒講習會ヲ開キ其ノ目的ヲ達シツ  
 、アリ即チ明治三十九年度ヨリハ學理ヲ三課ニ分チ一回生ニハ簡易ナル釀酒化學、理化學及ビ分析  
 法ヲ教ヘ二三回生ニハ實地應用ニ近キ釀酒理論ト清酒釀造法トヲ教ヘ四回生ニハ純粹酵母ノ培養、



分析術及ビ顯微鏡使用法ヲ教フルコト、セリ。

牧畜。古來畜牛ハ専ラ農耕採肥用トシテ飼養セラレタルガ故ニ其ノ利用最モ狹少ナリシモ社會ノ進歩ハ乳肉ノ供給ヲ促スコト益々急ニシテ畜牛利用ノ途ハ漸次擴マリ從ツテ畜牛ハ乳肉役採肥等ノ目的ヲ以テ飼養セラル、モノ多キヲ加フルニ至レリト雖モ古來ノ因襲ハ容易ニ脱去セズ畜牛飼養ノ途ハ耕作採肥ノ外ナキモノト誤認スルモノ亦尠カラズ是レ即チ畜牛飼養、畜産改良ノ普及セザル重大原因ナリトス。而シテ近時國運ノ進歩ニ伴ヒ農役ニ於テモ將タ又乳肉採肥ニ於テモ漸次畜類ノ需要ヲ増加シタルヲ以テ左ニ掲グル方法ニヨリ本郡畜産利潤ノ方法並ニ畜産思想ノ普及ヲ計ルト共ニ社會需要ニ伴フベキ施設ヲ爲スヲ以テ畜産改良増殖獎勵ヲ爲サントス。

一、畜牛交尾蕃殖ヲ獎勵スルコト

交尾獎勵法トシテハ縣有種牡牛ノ貸與ヲ受ケ農家飼養牝牛ニ交尾獎勵ヲナシ交尾料ハ無料トシ或ハ村農會有種牡牛及ビ一般種牡牛等ニ可成的飼養費ノ幾分ヲ補助シ種牡牛ノ増加ヲ計リ郡農會及ビ畜産組合等ニ於テモ種牡牛ヲ購入設置シ蕃殖ヲ獎勵セントス。

本郡農會ニテハ去ル明治三十三年六月始メテ種牛ヲ購入種附ケテ獎勵セリ、現今和種ヲ以テ一般農家ノ飼牛ニ種附ヲ獎勵セリ又一面ニ於テハ「ブラウンスキス」(縣有)ヲ借入レ畜産生産販賣組合員ノ乳牛ニ種附ケテ施行シ來タレリ。

大正五年度種牡牛飼養管理

- 一、ブラウンスキス種 (縣 有) 八上村
- 一、純和種 (郡農會有) 岡野村
- 一、和種 (村農會有) 北河内村
- 一、和種 大山村
- 一、エアシヤ種 篠山町

二、畜牛肥肉法ヲ獎勵スルコト

畜牛最後ノ利用ハ肉ニアリ本郡ノ如ク役肉用種牛ヲ飼養セル地方ニ於テハ肉産收利ノ方法ヲ講ジ飼養改良ニ伴フ利益ノ増進ヲ計ラザルベカラズ。今ヤ交通機關ノ完全ニ從ヒ畜牛輸送費ハ輕減セラレ且ツ輸送期間ハ著シク短縮セラル故ニ肥肉法ヲ施シ畜牛改良最後ノ利益ヲ收メザルベカラズ、幸ニ本郡ハ肉牛ノ産地トシテ京阪神地方ニ認めラル、ヲ以テ畜牛飼養熱心家ニ向ヒ經濟的肥肉法ヲ獎勵セントス

三、家畜飼養頭數及ビ飼養家數ノ増加ヲ計ルコト

農家ノ一部ニハ從來二戸乃至三戸共同ニテ一頭ノ畜牛ヲ飼養シ之レヲ共同使役セルノ習慣アルヲ以テ今後ハ可成個人各自ニ飼養ヲ獎勵シ小農及ビ小作人等ニシテ畜牛購入ノ資力ナキモノニハ畜牛購

入頼母子講小作人等ニハ地主ヨリ畜牛(牡犢)ノ貸與方法等ヲ講ゼントス。

從來畜牛ヲ飼養セザルモノニシテ新ニ購入飼養セントスルモノニハ村農會及ビ畜産組合等ヨリ獎勵金又ハ補助金ヲ交附スルコト。

低利資金融通ノ途ヲ講ジ畜牛購入ヲ容易ナラシムルコト、畜牛共濟方法ヲ各部落ニ設ケシメ畜牛斃死等ニ際シテハ畜牛代價ノ幾部分ヲ救濟セシムルコト。

山間部牧草豊富ナル土地ニハ共同放牧場ヲ設ケ夏期飼養困難ナル地方牛ヲ委托飼養スル方法ヲ企ツルコト。

各期飼料ヲ容易ニ得セシムル爲メ簡易ナル「サイロ」ノ普及ヲ獎勵スルコト、畜牛ヲ經濟的ニ飼養セシムル爲メ飼料ノ研究ヲナスコト。

小學校職員及ビ生徒ニ畜産講習講話會等ヲ開催セシメ畜産思想ヲ普及セシムルコト、小學校ニ牧草園ヲ設置シ其種子種苗ヲ配付スルコト、濃厚飼料ヲ安價ニ供給スルタメ共同購入ヲ獎勵スルコト、農作ニ關シ厩肥利用ノ緊要ナルコトヲ勸勵スルコト。

四、借牛ヲ廢シ自牛購入ヲ獎勵スルコト

本郡ハ從來牛馬商人ヨリ畜牛ヲ借入レ使役セル習慣アリシモ此ノ久シキ因襲ヲ打破シ自牛購入ヲ獎勵セントス

五、農家一般ニ畜産思想及ビ畜産經濟家畜衛生ノ普及ヲ計ルコト

農繁期ヲ避ケ畜牛品評會及ビ短期講習會、講話會等ヲ開催シ畜牛ノ利用、能力、体格ノ適否、畜牛ノ賣買交換、時價飼育管理法、乳肉ノ利用等ヲ覺知セシメ獸疫發生流行ヲ豫防スルト共ニ其ノ病毒ノ怖ルベキヲ知ラシメ病畜取扱及ビ其ノ治療上ニ付キ注意スルコト。

六、農家ノ餘乳利用法ヲ講究シテ斯業ノ成績ヲ舉グルコト

農家畜牛餘乳利用法トシテハ現今郡内ニ三ヶ所ノ畜産生産販賣組合設置目下試驗中ニ屬セリ組合ノ設立日淺ク經驗乏シキヲ以テ充分ノ成績ヲ舉グル能ハザルモ順境ニ向ヒツ、アリ將來ニ於テハ適當ナル場所ヲ撰定生乳集散所ヲ設ケ一般餘乳ヲ京阪神地方ニ販賣セントスルモノ、爲メニ生乳運搬ニ關シテハ鐵道院、私設鐵道會社及ビ運搬業者へ運賃ノ低減、速達方法ヲ交渉シ尙ホ一面ニ於テハ乳製品工場(例ヘババター)ノ設立ヲ獎勵セントス。

牛 乳		年 度	搾 乳 場	搾乳牛延頭數	搾 乳 高	販 賣 高	販 賣 代 金
明 治 四 十 四 年	五		三〇四	一八三、〇〇〇 <small>金</small>	一七七、〇〇〇 <small>金</small>	五、九七七、〇〇〇 <small>圓</small>	
大 正 元 年	七		三三四	一九三、〇〇〇	一八七、〇〇〇	六、四〇一、〇〇〇	

大正二年	七	四三五	二八五、〇〇〇	二六六、〇〇〇	八、二〇四、〇〇〇
大正三年	九	四二二	二八三、二五七	二六八、二二七	七、九六二、〇〇〇
大正四年	八	四五四	二八七、七四八	二六〇、二四六	七、八八九、二二五
大正五年					

七、犢牛ノ去勢ヲ獎勵スルコト

犢牛ノ去勢ハ從來ノ通り獎勵ヲナスト共ニ一般農家モ漸ク其ノ効果ヲ認識セルヲ以テ將來一層ノ獎勵ヲサントス。

八、犢牛ノ育成ヲ獎勵スルコト

本郡ノ内今田、草山、後川村ノ如キハ從來犢牛ノ育成地トシテ最モ適當ナル土地ナルヲ以テ一層之レヲ獎勵シテ利益ヲ收メシメントス。

九、牧草ヲ獎勵スルコト

家畜改良上牧草ノ必要ナルコトハ論ヲ俟タズ而シテ從來種々獎勵ノ方法ヲ講ジ之レガ栽培ヲ促シタルモ其ノ効果顯著ナラズ之レ大ニ遺憾トスル所ナリ故ニ左ノ方法ヲ講ゼントス。即チ郡農會及ビ畜産組合等ニ於テ種子ヲ準備シ以テ町村農會、小學校、青年團並ニ篤志家等ニ無償交付シ是レガ普

及ヲ圖リ種子ハ「クローバー」苗代ヲ作り播種セシメ以テ移植ヲ行フコト、栽植場所ハ可及的採取シ易キ所即チ畦畔、堤塘、路傍、秣草場及ビ原野特ニ耕地整理道路ノ新設等ニ際シ機ヲ失セズ播種スルコト又一毛作ノ田等ニハ紫雲英ノ栽培ヲ促サントス。

一〇、農家一般病畜ヲ治療スルコト

病畜診斷治療ノ請求アリタル牛ハ親切丁寧ニ速カニ診斷治療ヲナシ一般畜主ヲシテ不便不安ヲ感ゼシメズ農家ニ便利ヲ與ヘントス。

一一、牛馬商人ヲ矯正スルコト

從來牛馬商人ノ多クハ不徳義ナル故今後商人ノ講習及ビ講話會等ヲ開催シテ之レガ指導獎勵ヲナスコト。

右ハ畜産改良獎勵ニ關スル本郡當路者ノ方針ナルガ其ノ事務タルヤ日ヲ追ヒテ着々進捗シツ、アリサレバ之レガ改善進歩モ亦近キニアルベシ。最近數ヶ年ニ於ケル畜産狀況ハ左表ノ如シ

家畜市場

定期市	開市日數	出 場 頭 數		販 賣 頭 數		販 賣 價 額	
		牝	牡	牝	牡	牝	牡
三	三	五六	二九六	四六	二〇三	二六、一一四	一一、〇七一

年次	成	牝	計	牝	牝	計	牝	計	合
明治四十四年	一〇二	四七	五八	一	二	三	五	七	五三
大正元年	七	四四	五九	一	一	二	六	七	五七
大正二年	四〇	四四	四八	一	一	二	三	五	四八
大正三年	八	三七	四八	二	一	二	一	一	四五〇
大正四年	?	?	五〇五	一	一	一	?	?	五〇六

(一四七)

年次	牝	牝	計	牝	牝	計	合
明治四十四年	二	二六	二八	四	四一	四五	
大正元年	三	三六	三九	三	三一	三五	
大正二年	三	三二	三五	四	四八	五二	
大正三年	四	四八	五二	四	四八	五二	
大正四年	四	四一	四五	四	四一	四五	

年次	牝	牝	計	牝	牝	計	合
明治四十四年	二、七四〇	一、六〇二	四、三四二	二、六二二	一、五七九	四、二〇一	
大正元年	二、七四〇	一、六〇二	四、三四二	二、七四〇	一、四三六	四、一四九	
大正二年	二、七二二	一、四三六	四、一四九	二、六七七	一、四六一	四、一三八	
大正三年	二、六七七	一、四六一	四、一三八	二、六二二	一、五七九	四、二〇一	
大正四年	二、六二二	一、五七九	四、二〇一	二、六二二	一、五七九	四、二〇一	

(一四六)

年次	牝	牝	計	牝	牝	計	合
明治四十四年	一四一	一二六	二六七	七三	八〇	一五八	
大正元年	一一〇	一一三	二二三	九六	一〇九	二〇五	
大正二年	九六	一〇九	二〇五	七八	八〇	一五八	
大正三年	七八	八〇	一五八	七七	七三	一五〇	
大正四年	七七	七三	一五〇	七七	七三	一五〇	

林業。本郡ノ林業ハ人口ノ増加ト工藝ノ發達ニ伴フ需要ハ益々多キヲ加ヘ爲メニ森林ハ濫伐荒廢ニ陥リ明治二十年頃ニハ全郡見渡ス限リ滿山樹木稀ニシテ往々赤土ヲ現ハセルモノ多カリシガ其後漸次翠綠ノ色ヲ増シ赤土ハ縮メラレテ諸所ニ人工造林ノ規則正シキ植樹ヲ見ルニ至レルモ公有林野ハ依然トシテ人民ノ自由濫伐ニ委セラレ荒廢ノ甚ダシキモノ多カリシガ明治四十年森林法ノ發布ニ伴ヒ是等林野ノ整理ヲ行ヒ適地ニ對シテハ人工造林ヲ獎勵スルト共ニ天然生ノ養育ニ努メ自由伐採ヲ制限セル結果荒廢セル林野ハ今ヤ鬱蒼タル森林ト化シツ、アリ。

林相。藩政時代ニハ森林保護ニハ重大ナル注意ヲ拂ハレタリ。多紀郡ノ如キモ御林即チ藩主有林ノ保護ノ鄭重ナルハ云フマデモナク、井根山ハ井根即チ川溝ノ堰ノ修築等ニ願出デ、用材ヲ伐採シ民有林ニテモ立山ヲ伐ルニハ一々願出デ、許可ヲ得タルナリ。斯カリケレバ其當時ノ山林ハ實ニ美ハシキモノナリキ。三嶽ノ如キハ滿山杉ノ大樹圓錐形ノ梢並立チ黒々ト茂リ篠山春日神社境内ノ能樂堂ノ建築ニハコノ三嶽ノ材木ヲ用ヒタリキ。コノ山モ其後濫伐ト火災トニテ岩石ヲ現ハシ殺風景ヲ極ム。他ノ國有林民有林モ皆維新後林政弛廢ノタメ林相ハ甚シク下レリ。近年政府ハ林業ニ注意シ恢復ニ努力セラレツ、アレバ五十年モ經過セバ昔ノ形態ニ復スルコトヲ得ベシ。尙林業ニ就テ希望スルハ山燒ヲ嚴禁スベキコトナリ。古來ノ習慣ニテ種々ノ理由ヲ附シテ警察ノ許可ヲ得テ燒クモノアリ。警察上ノ公安ニハ背カズトモ林業上ノ一大心得違ヒナリトス。許可ヲ得ズシテ故ラニ或ハ

過チテ燒クコトノ罪深キハ今更論ヲ俟タズ。

郡ノ造林事業ハ明治十五六年頃ヨリ始メテ注意セララル。コレ地方ノ富源タル山林ノ荒廢セルヲ見テ識者ノ挽回ノ策立チシニヨル。カクテ明治二十年頃ニ荒廢ノ極ハヤガテ回復ノ始メトナリテ始メハ個人事業トシテ小規模ノ植林行ハレ明治二十八年頃ヨリ上ノ獎勵ト下ノ覺醒トニヨリ團體事業トシテヤ、見ルベキモノ現ハレ明治三十五年頃ニ至リテハ植林思想大イニ發達シテ山地ニ富メル我郡ハ今ヤ人工造林ノ進歩期ニアリ前途ニ望深シ。郡ノ用材林面積ハ二〇二五町步アリ此ノ外薪炭用造林面積ハ一〇八町アリ。

大正四年度迄ニ百町以上植林セル村ハ左ノ如シ

大山村	三〇〇町
草山村	二一〇町
今田村	一〇六町

人工造林以外ノ山林ハ肥料ノ柴草又ハ薪炭採取場トセララル、サレド中ニハ天然造林トシテ雜木ノ成長セルモノ少カラズ。

林産物。大正四年度郡ノ林産價額次ノ如シ

建築用材 二〇、八八六圓

下駄用材 一一〇圓

下駄用材ハ主トシテ山桐ニシテ草山村ニ多ク産シ北河内村大山村ノ一部分等之ニ次グ。

竹 一、九〇九圓

苗木 三、七五八圓

苗木ハ植林用ニシテ前ニハ郡外ヨリ買入レタレドモ近年其植林ノ近傍ニテ育ツルコト、シテ好結果ヲ得タリ。苗木ノ種類ハ杉檜ヲ主トシ松くぬぎ等トス。

木炭 二四、四一七圓

松茸 一七、二二八圓

松茸ハ日置村ニ殊ニ多ク産ス。罐詰トシテ好評アリ。

栗 二、二一六圓

栗ハ草山村日置村古市村等ニ多シ。

其他ノ林産物。尙最近五ヶ年ノ林産物價額ハ次ノ如シ

明治四十四年度 一五三、七一九圓

大正元年度 一四七、九七八圓

大正二年度 一三七、八四五圓

大正三年度 一四九、七七三圓

大正四年度 一三三、四八九圓

郡ノ林業計畫ハ全郡ノ公有林ノ現在臺帳面積九千八百餘町ナルガ其ノ一部分ヲ實測セル結果臺帳面積ノ二倍乃至三倍ニ達スルモノ多シ今假ニ平均六割ヲ増加スルモノトシ其面積一萬五千町ナリ。其三分ノ一即チ五千町ヲ牧草柴肥ノ採取地トシテ之ヲ存置シ他ノ一萬町ニ就キテ計畫ヲ立ツベキモノトス。此ノ中地味良好ニシテ用材ノ植林ニ適スル面積ヲ二千町ニ杉檜及ビ松ヲ植込ミ五十ヶ年目ニ採伐更新スル方針ヲ採リ年々四十町ヅ、ノ新植ヲ行ヒ今後四十餘年ヲ經テヨリ年々四十町ヅ、ノ伐採收入ヲ得ベク明治四十二年度迄ニ植林セル面積ハ五百四十餘町ニシテ其レ以後植樹スベキ面積ハ千四百六十町ナリ。而シテ年齡五十年ノ林木四十町ニ對スル純益拾貳萬餘圓ナリトス。是レ用材林二千町ノ經營ナリ。而シテ他ノ八千町ヲ天然萌芽更新法ニ依リくぬぎ、ならヲ主トセル矮林仕立トシ二十ヶ年ヲ伐齡トスルトキハ將來年々四百町ヅ、ノ皆伐面積ヲ得ベク其一半ヲ薪材トシテ年收益八萬圓、一半ヲ炭材トシテ年收益拾貳萬八千圓。之ニ前記人工植林ノ拾貳萬圓ヲ合セバ將來郡公有林ノ收益總計參拾貳萬八千圓ナリ。而シテ現今私有林ヨリ生ズル主産物及ビ副産物ノ年收入拾七萬八千餘圓ハ將來益々増額スルコト極ナシト雖モ假ニ現在ノマ、トシテ公有林ノ收入ニ合スレバ將來郡ノ林産年收入ハ總計五拾餘萬圓ノ巨額ニ達スベシ。之ヲ想ヘバ山地ノ利用増進ハ主要郡是ノ一

トシテ經營セザルベカラズ。而シテ草山村、大山村、畑村等ハ用材林ニ適シ大芋村、福住村、今田村等ハ薪炭林ニ適スルナリ。以上ハ郡全体ノ計畫ナルガ別ニ郡直營事業トシテ郡基本財産ノ造成ト林業模範タルトノ目的ヲ以テ草山村本郷ニ七十町、城北村藤岡奥、畑村火打岩、福住村川原ニ各十町合計百町ノ用材植林ヲ行ヒ明治三十九年度ヨリ進行シツ、アリ。

其後ノ成績ハ森林法ノ改正ト一般林業思想ノ向上ニ伴ヒ當郡ノ計畫ノ空想ナラザリシハ大イニ意ヲ強クスルニ足ル。

今其ノ實例ヲ示サンニ明治四十四年以後大正四年度迄ノ公有林用材人工栽樹面積ハ五一八町六段ニシテ一ヶ年百町以上ノ植栽ヲ行ヒ此ノ外天然林ハ當初計畫以上ノ面積ヲ超ヘ進ンデ大字有林野ヲ村ニ統一移轉セシメ益々林野ノ利用ヲ増進スルニ至レリ。

村ニ統一シタルモノハ福住ノ四百餘町、雲部ノ實測五十餘町、後川ノ五百餘町ニシテ就中後川村ハ施業要領ノ設置シテ百年ノ長計茲ニ確定シテ統一村ノ管理ヲ確實ナラシメントシ今ヤ其筋ヘ手續中ニ屬シ其ノ實行近キニアルベシ。

其他ノ林野ニ至ツテモ何レモ法規ニ基キ管理法ヲ設ケ目下手續中ニシテ今後二三ヶ月ヲ出デズシテ完成スベキ見込ナリ。

用材林植栽面積 一九〇三町一段

薪炭林植栽面積 一二一町三段

果實。果樹園ノミナラズ宅地ノ隅、畑ノ周圍等ノ狭キ地所ヲ利用シテ果樹ヲ栽培スルコトハ古來行ハレ勸業思想ノ進ムニツレテ漸次盛ントナル。大正四年度中郡ノ果實產額ノ主ナルモノ

- 梅 二〇三石 一、四二一圓
- 水蜜桃 八〇五石 二四二圓
- 柿 一八四、三三二貫 二八、八九四圓
- 梨 三、三二〇貫 九九三圓
- 栗 三六九貫 五、五三五圓

商業。我國ノ武士道ハ金錢ニ執着スルコトヲ忌ミ隨ツテ商業ハ士人ニ輕視セラレタリ。サレド一家ノ經濟モ一藩ノ經營モ富力ニ依ラズバ行ハレズ商人ハ表面ニ輕ンゼラレナガラ内實ハ重大ノ勢力アリキ。維新後四民平等トナリ世襲ノ職業ハ廢セラレ國民ノ經濟思想進ムニツレテ商業ハ國力増進ノ大要件トシテ尊重セラレ商業ノ範圍ト分量トハ非常ニ擴張セラレタリ。多紀郡モコノ風潮ニ漏レズ交通ノ障害漸次ニ除カレ商業ノ機關漸次ニ備ハリテ今ハ廣ク社會ヲ相手ニシテ相當ニ大ナル取引ヲ行ヘルモノアルニ至レリ。

會社ノ發達。徳川幕府ノ鎮國主義ト封建割據ノ狀態トハ維新ノ革新ト共ニ改マリ開國進取ノ氣

運トナリ又随ツテ經濟社會モ廣ク資金ヲ募リ適任ノ管理者ヲ選ミ共同シテ事業ヲ營ムノ有利ナルヲ悟リケレバ政府ノ獎勵ト相俟チテ農工商ノ種々ノ會社ハ勃然トシテ各地ニ興起セリ。殊ニ日清ノ戰勝ニ醉ヘル國民ハ元氣頗ル揚リテ企業益々昂進シテ底止スル所ヲ知ラザリシガヤガテ其ノ反動ノ爲メニ俄然トシテ經濟界ハ悲運ノ状態ニ陥リ恐慌ヲ來タシ、ガ漸ク其恢復ヲ終リシ頃又日露戰役アリ然ルニ戰勝後ニハ前ノニガキ歴史ヲ繰リ返サント實業家ハ自重シテ容易ニ新事業ヲ起サザリシモ徐々ニ企業熱ヲ喚起セシメ明治三十九年ノ下半年ニ人氣ハ極端マデ昂騰セリ。戰勝後ノ企業熱及ビ次ギテ來ルベキ恐慌ハ經濟學ノ教フル所ニテ人ハ注意セザルニアラザレドモ人氣ノ趣ク所ハ制止スベカラザルガ。果シテ反動ハ明治四十年一月ヨリ株式ノ暴落トナリテ現ハレ偶々世界の不景氣ノ影響ヲモ受ケテ投機者ハ失敗シ濫設ノ會社ハ解散シ薄弱ノ銀行ハ破綻セシガ朝野共同シテ善後策ヲ講シ奮闘苦戰中ニアリシガ我國民ハコレ等ノ苦シキ鍛鍊ヲ經ルト同時ニ國威ノ發揚ト共ニ國際的經濟ノ地位高マリ責任イヨ／＼重クナリ手腕ハ之ヨリ揮ハルベキ前途有望ノ状態ニアリ。多紀郡ハ土地山間ニ僻スルヲ以テ經濟界ノ變動ヲ感ズルコトハ大都會ノ如ク鋭敏ナラザレドモ亦多少ノ影響ヲ受ケザリシニアラズ今現存會社及ビ其ノ興廢セルモノ二三ヲ次ニ記サン。

三業株式會社ハ依託販賣業、運搬業、倉庫業ノ三業ヲ目的トシテ篠山町ニ設立セラレタリ。設立ハ阪鶴鐵道ノ開通ノ際ニシテ明治三十二年三月頃ナリキ。資本金壹萬圓。日清戰勝後ノ人氣勃興ノ

氣運ニ伴ヒテ起レルモノニシテ初メハ非常ニ手ヲ廣ゲ藪ハ赤穂ヨリ、石油ハ大阪ヨリ、肥料ハ神戸ヨリ盛ニ買入レテ郡内ノ需用ニ供シ其ノ上阪鶴鐵道開通ノ終點ナル福知山町ヨリ宮津町へ馬車ノ運搬ヲ開始シタリ。從來交通機關不備ナリシガ一時ニ開ケシコト、テ貨物ノ集配甚ダ盛ニシテ活氣ヲ呈シタリシガ何分經驗ニ乏シキ事業ニシテ創業費非常ニ嵩ミタルト競争者起リタルト循環シ來ル不景氣トノ三原因ノタメニ悲運ニ沈ミ遂ニ明治三十四年頃解散セリ。三業中倉庫業ハ實行スルニ至ラザリキ。解散後個人事業トシテ三業商會ヲ開キ辨天運輸合資會社ト競争シテ双方トモ之ガ爲メニ失敗シ維持困難トナリ三十八年春ヨリ合同談ヲ始メ遂ニ三十九年八月圓滿ニ合同シテ篠山運輸合資會社トナリ今日ニ至ル。今ハ内國通運會社ノ取引店トナリ、帝國鐵道院ノ貨物集配特約店トナレリ。篠山製糸場ハ明治二十五年頃創業ニシテ七八ヶ年間ノ後廢滅セリ。始ハ森本又助、米村忠兵衛藤本多助ノ三名ノ發起經營セシ所ニテ後森本莊三郎續キテ經營セリ。八馬力ト稱スル蒸汽機關ヲ用ヒ(郡ニテ汽笛ノ音ノ始メナラン)、五十人取ノ機械ヲ以テ生糸ヲ製ス。製造ノ年額ハ約三百貫位ナリキ。然ルニ經營者ハ何レモ他ニ業務アルヲ以テ多忙ノ爲メコノ業ニ力ヲ盡シ難ク六ヶ年程行ヒタル後機械等其儘ニテ野々口助之亟ニ讓渡シ同人二三年繼續セシガ何レモ多大ノ損失ヲ累テ廢業セリ。

興農社ハ大阪深田組ガ大規模ノ計畫ニテ農業者ニ資金ヲ融通シテ農業ノ進歩ヲ計ルヲ目的トスト



イヘリ。其ノ方法ハ土地ヲ抵當ニ取り其土地ノ收穫ヨリ費用ヲ減ジタル純益ノ十五ヶ年分ノ金ヲ農家ニ貸付ケ年々其ノ純益ヲ以テ償還セシムル計畫ナリキ。本郡ニハ篠山支社ヲ篠山町ニ置キ一ヶ年間ホド準備セシカドモ活動スルニ至ラズシテ止ミキ。思フニ理想ハ甚ダ良ケレドモ實際ニ適切ナラザル故ニ當事者ノ意思ノ貫徹シ難キナラントイフ者アリ。コノ外日置物産株式會社ナド起リシガ暫時ニシテ破産セリ。

篠山魚類合資會社ハ篠山町ノ内立町ニアリ。南海、北海ノ魚類ヲ競賣スル市場ニシテ毎日午前ニ魚商人集マリ市振リノ聲勇マシ。業務擔當社員ハ米村忠兵衛ナリ。コノ會社ハ其ノ起原甚ダ古シ。同社ノ保存セル「組織並成規」ト題スル一冊ハ明治三十年ノ内國勸業博覽會ニ出品シテ衰狀ヲ受ケタリ。同冊ヲ見ルニ左ノ如キ事項ヲ含ム。

本社ノ創立ハ寛延年間ニシテ幾多ノ盛衰ヲ經テ百五十年間繼續セリ。始メハ魚問屋ト稱シ寛延ノ某年菱田勘右衛門外四五名ノ共同組織ニシテ藩政ノ保護ニヨリ篠山藩領内魚類販賣ノ全權ヲ握リテ維新ノ際ニ至レリ。廢藩ト共ニ藩政ノ干渉止ミ郡内各所ニ同種類ノ競爭者起リテ一時困難シタレドモ本社ハ勉勵シテ全勝ヲ得競爭者ハ廢業シ本社ハマスノ事業ヲ擴張シテ明治五年ニ融遞舍ト改稱セリ。明治八年ニ魚市場ト改稱シ明治十五年ニ魚商社ト改稱メンガ明治十六年ノ旱魃ニ伴フ不景氣ノタメニ本社ハ非常ノ逆境ニ立チ閉店ニ至ラントセシガ社員一同身ヲ忘レ家ヲ忘レ各自ニ醜金シテ挽

回ニ努メ十九年魚商會社ト改稱シ整理ヲ行ヒ善後策ヲ講セシガ努力ノ効ニテ悲運ヲ經過シテ二十一年頃ヨリ順境ニ向ヒ二十二年ニ魚市場ノ稱ニ復シ二十六年商法實施ニヨリ篠山魚類合資會社ト改稱シテ今ニ至レリ。

廣ク社會ヲ合手ニセル會社トシテハ古市村ノ斧屋合資會社、篠山河原町ノ高田九兵衛ノ攝丹石油會社ナドアリ。

丹陽組ハ歩兵第七十聯隊ノ設置ノタメニ現ハレタル合資會社ニシテ篠山町ノ内立町ニアリ。四十年一月創立。資本金貳萬參千圓。軍隊需用品ノ販賣ヲ營ム。

攝丹煙草元賣捌合資會社ハ篠山町ノ内立町ニアリ。創立ハ明治三十七年十一月二十五日。資本金貳萬四千圓。有馬郡三田町ニ支店アリ。

篠山印刷合資會社ハ篠山町ノ内東新町ニアリ。明治四十一年二月創立。資本金六千圓拂込濟。

篠山砂糖合資會社ハ篠山町ノ内立町ニアリ。創立ハ明治三十八年十二月。資本金四千圓。砂糖、小麦粉ヲ販賣ス。

多紀製糸株式會社ハ北河内村下板井ニ新設セラル。營業ノ目的ハ生糸ノ製造販賣及ビ委託販賣ナリ。資本金壹萬圓。大山村、草山村、味間村、北河内村ノ養蠶家及ビ生糸家ノ發起ニヨリテ成ル。籠坊温泉合資會社ハ後川村籠坊温泉場ノ繁榮ヲ目的トシテ設立セリ。資本金參千圓。後川村、日

置村、福住村ノ有志者ヨリ成ル。

辨天魚類合資會社ハ大正四年六月味間村大澤ニ設置セラレ。専ラ魚類鳥獸蔬菜乾物ノ競賣ヲ目的トシ資本金六千貳百圓ナリ。

多紀炭酸瓦斯株式會社ハ後川村後川新田ニ設置セラル。營業ノ目的ハ炭酸瓦斯ノ販賣ナリ資本金六萬五千圓ナリ。

篠山輕便鐵道株式會社

創立ノ動機 當地交通機關缺如セルヲ遺憾トシ、坊ケ内安治郎外六名輕便鐵道敷設免許ヲ申請セシニ因ル。

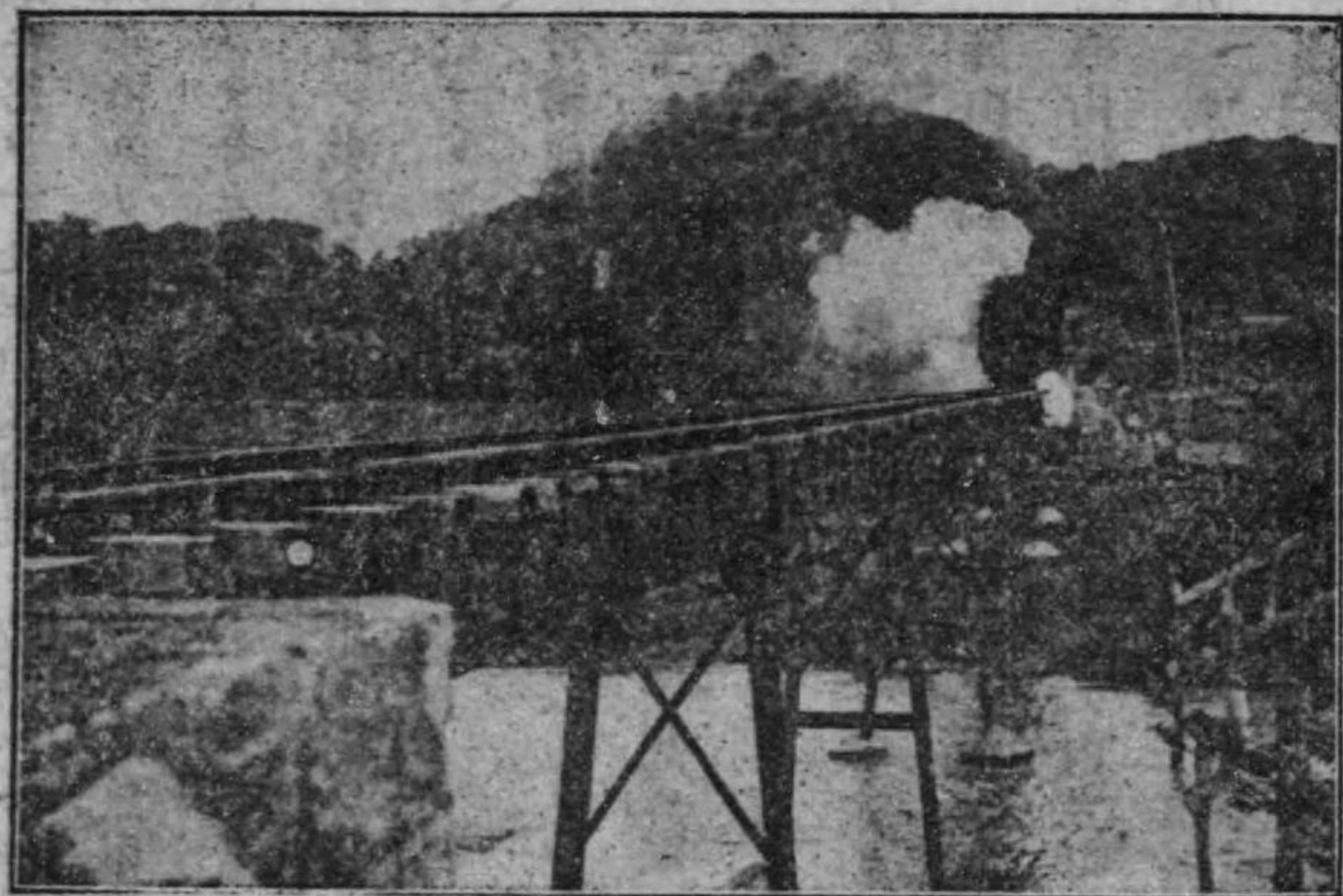
創立 大正二年四月二十七日

株數 一千六百株ニシテ株主人員百八十二名

大正三年四月二十日工ヲ起シ大正四年九月八日成工セリ。

工事中篠山川橋梁ハ稍困難ナリシモ全線概ネ平坦ニシテ施工極メテ容易ナリ。

車輛費、土工費、用地費、軌道費ノ總額六萬五千八百拾參圓八拾七錢九厘。



大正五年九月末ニ於ケル乘降人員並ニ貨物發着數乘降人員

篠山町驛乘車人員 二二二、一一六人

全 驛降車人員 二二二、二八八人

辨天驛乘車人員 二二二、〇三九人

全 驛降車人員 二二二、二四二人

貨物發着數

篠山町驛發 二一九噸 全驛着 四八〇噸

辨天驛發 四一〇噸 全驛着 六五噸

銀行。 明治維新ト共ニ各藩割據ノ境界ハ除カレ全國共通ノ交際行ハレ朝野共ニ財政ニ心痛スルコト多クナルニツレテ金融機關ハ發達セザルヲ得ズ。 明治五年金札ノ整理ト資金ノ流通トヲ目的トシテ國立銀行條例制定セラレ第一國立銀行先ヅ東京ニ現ハレ次ニ横濱ノ第二國立銀行現ハレ漸次増加シテ明治十二年第五百十三國立銀行最後ニ設立セラレタリ。 是等ハ明治三十二年マデニ悉ク營業滿期トナリ其ノ十五銀行ハ解散シ他ハ普通銀行トシテ營業ヲ繼續ス。

多紀郡ノ銀行。 明治十二年篠山町ニ第三百三十七國立銀行起ル。之ヲ郡ノ銀行ノ始トス。

明治十二年 第三百三十七國立銀行

- 明治十五年 南丹銀行 (百三十七銀行ト合併)
- 明治十六年 篠山銀行
- 明治十七年 古市銀行
- 明治十八年 多紀銀行
- 明治廿三年 日置銀行
- 明治廿五年 今田銀行
- 明治廿七年 金融株式會社
- 明治廿八年 月五 福住銀行
- 同 年 月五 共同貯蓄銀行 (百三十七銀行ト合併)
- 明治三十年 城西銀行
- 明治三十一年 月二 城北農業銀行
- 同 年 月五 村雲銀行
- 明治三十二年 月六 丹南合資會社
- 同 年 月五 辻銀行

明治二十七八年戰勝後ノ事業勃興熱ニテ急ニ増シテ十五行トナル。其内ニハ名ハ銀行ニテ實ハ質屋

同様ノモノアリ。由テ我妻助輔、樋口達兵衛等極力合同ヲ主張シ十五行ヲ合シテ一銀行トナサントシタレドモ折合成ラズ遂ニ明治三十三年九月第百三十七銀行ト共同貯蓄銀行ト合同ヲ決行シタルノミ。其後社會ノ進歩ト銀行家ノ修練トニヨリ各漸次發達シツ、アリ。現今百三十七銀行ハ郡ノ金融機關ノ中心トシテ活動シ國庫及ヒ縣金庫金ヲモ取扱フ。尙本郡銀行相互ノ連絡ヲ計ルタメ銀行同盟會アリテ預金利子ノ引上引下等ニ共同ノ行動ヲ取レリ。

銀行表

行名	位 置	資本總額	拂込金額	積立金	現預金	現貸金
百三十七銀行	篠山町ノ内二階町	二〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇	七三〇,七七九	九三,五四八
篠山銀行	篠山町ノ内二階町	三五,〇〇〇	三五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	二六一,二七六	一八,九〇五
南丹銀行	篠山町ノ内河原町	一〇〇,〇〇〇	四七,〇〇〇	四〇,〇〇〇	三七九,〇八六	四五,九二九
多紀銀行	篠山町ノ内河原町	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,四〇〇	七七,一七三	六四,三三三
日置銀行	日置村 八上新	二五,〇〇〇	二五,〇〇〇	一七,九〇〇	一〇五,〇〇二	一三九,一七九
辻銀行	日置村 辻	五〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	一〇,五〇〇	二二八,八四〇	一三三,五〇三
福住銀行	福住村 福住	七〇,〇〇〇	四三,七五〇	一四,五〇〇	一八〇,二八七	一六九,六五三

村雲銀行	村雲村	小田中	五〇,〇〇〇	三三,七五〇	三三,六〇〇	一六〇,〇九九	一六七,五五四
城北農業銀行	城北村	澤田	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	—	一五八,五八〇	一七七,〇三〇
城西銀行	北河内村	宮田	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二四,〇〇〇	一四六,〇四二	一六一,五五五
金融株式會社	味間村	杉	五〇,〇〇〇	四一,五〇〇	六,七〇〇	二二六,六五三	一七六,六六五
古市銀行	古市村	古市	五〇,〇〇〇	四一,〇〇〇	—	七〇,四九九	一一一,九九六
今田銀行	古市村	古市	二五,〇〇〇	二五,〇〇〇	二一,九〇〇	二二八,二二四	一五〇,九五五

(1711)

銀行ノ希望。 郡内ノ銀行ガ郡外ニ資金ヲ供給スルコトモ郡ノ富ヲ増ス一方法ナリ。 現ニ百三十  
七銀行ハ水上郡柏原町、天田郡福知山町、何鹿郡綾部町ニ支店アリ。 篠山銀行ハ有馬郡三田町、同  
郡有馬町ニ辻銀行ハ船井郡殿田村ニ丹南合資會社ハ川邊郡杉生村ニ村雲銀行ハ船井郡檜山村ニ何レ  
モ支店ヲ有セルガ吾々ハ斯業ノマス一發展センコトヲ希望ス。 又銀行ハ商人ニ對シテハ極力低利  
ニテ資金ヲ供給シ商業者ノ活動ヲ助ケントス。 商人ガ取引銀行ヲ定メ之ト密接ノ關係ヲ結ビ銀行ヲ  
巧ニ利用スレバ大ナル便益アルベシ。 然ルニ商業者ニ此考ヘノ少ナキヲ遺憾トス。 吾人努力シテコ  
ノ便益ヲ得シムル様ニ仕向ケントス。 商業者モ此ニ意ヲ注ガレタシ。 又商業道德ヲ進ムルコト今日  
ノ急務ナリ。 銀行者ハ資本運轉ノ樞軸ヲ握レルモノナレバ自ラ德操ヲ守ルハ云フマデモナク關係者

ヲ制裁誘導シテ商業界ニ良風ヲ進メンコトヲ希望ス。

保險。 不慮ノ災害ヲ互ニ救済スル機關トシテ保險事業ハ進歩セル社會ニ行ハル、多紀郡ニモ保  
險ノ必要ヲ悟レルモノ漸次増加セリ、現ニ損害保險ニハ東京火災海上運送保險會社、横濱火災海上  
運送信用保險株式會社、共同火災保險株式會社等ニ契約シ其金高約一四三、四七五圓 口數一一四ニ  
シテ。 生命保險ニハ八千代生命保險會社、富士生命保險會社、太陽生命保險會社、福德生命保險會  
社、東洋生命保險會社、東海生命保險會社、神國生命保險會社、國光生命保險會社、蓬萊生命保險會  
社、常盤生命保險會社、京保生命保險會社、簡易生命保險、福壽生命保險會社、太平生命保險會  
社、日の出生生命保險會社、相生生命保險會社、千代田生命保險會社等ニシテ之等ニ契約セル金高約  
五〇二、三二〇圓 口數九九五ナリ。

工業。 本郡ハ山間ニシテ大規模ノ工業ハ未ダ起ラザレドモ將來ノ理想トシテハ先ヅ郡内ニ一  
盛大ナル製糸工場ヲ設ケントス(綾部町ニハ郡立製糸場アリ。 頗アル整頓セリ)。 今新設中ノ多紀製  
糸株式會社ハコノ希望ニ應ズル發展ヲ將來ニ期シテ起レルモノナリ。 次ニ家庭操業ノ機械業ヲ獎勵  
セント考慮中ニアリ。 遠江ニハ濱松ニアル織元ヨリ各家庭ト豫約シテ原料ヲ配布シ之ヲ取纏メテ販  
賣スル組織アリ。 コレ本郡ニモ適當セル方法ナラン。 尙將來ニハ林業ノ發達ニ伴ヒテ製材、製炭ノ  
事業ヲ起サンコトヲ欲スト。 郡ノ當局者既ニ此希望アリ郡中ニモ亦志望者アルベシ。 サレバ奮勵協

(1712)

カシテ郡ノ富力ヲ進メソコト願ハシケレ。

立杭焼。後ニ記セル工産物表ノ陶器トアルハコノ立杭焼ナリ。村人ニツキテ聞ケバ年額約八萬圓ナリトイフ。明治二十九年頃ノ年額ハ六千五百圓トイヒキ。總括シテ考フルニ年々價格ヲ増シ既ニ七八萬圓ニ達セルナルベシ。沿革詳ナラザレドモ口碑ニヨレバ大同元年三月長州萩ノ人風露簀惣太郎ト云フ人來リ焼物ヲ始ム。始ハ手ねりニテ後現今ノ如ク轆轤ニ掛ケシモノナリ。元暦元年右風露簀ノ功ヲ追旌シ上立杭村ニオノ神トシテ祠ヲ建ツ。今其小祠アリト云フ其説ハ俄ニ信ズベカラズト雖モ。古來今田村上立杭、下立杭、釜屋ノ三ヶ村ハ陶器ヲ主業トシ農ヲ副業トセリ。而シテ現時陶器業戸ハ百戸アリ。村ノ西ノ山ノ側面ニ沿ヒテ上下ニ長キ窯數ヶ所アリ各組合ノ所有ニシテ製品ヲ之ニテ燒ク。原料土ハ以前ハ有馬郡今ノ相野驛附近牛淵ニ取リシガゴヲ取盡シ今ハ本郡古市村油井ト味間村大澤新トヨリ取ル。其原料土ノ價ハ一坪參圓位ナリ。製品ハ主トシテ播鉢、徳利、壺ナリ。何レモ外觀粗ニシテ其質堅牢、最モ實用ニ適ス。北海道ヲ除クノ外全國各地ノ需用ニ應シ且朝鮮滿州ニモ輸出ス。而シテ從來ノ形質ノマ、需用多キ故ニ新案改良ニ暇アラズ。一意本來ノ特質ヲマシク發揮セントス。製造スルニハ轆轤ノ運轉ニ連レテ職工ノ手ニ持テル金屬ニヨリ土ハ切ラレテ種々ノ形態ヤス／＼ト造リ上ダラレ傍觀スルニ甚興味アリ。

工産物、郡ノ工産物ノ主ナルモノ（大正四年）

品	種	産	額	價	額
清	酒		六、七五九		二七〇、三六〇
味	耐		五四		三、三三一
醬	油		二、五五八		三、四八六
燐	寸		一一六、〇〇〇		三、七八〇
和	紙		五、四八六		五、三五八
和	靴		七三〇		三、一五〇
下	靴		六四〇		一、二五〇
生	糸		二八、一〇〇		二、六七一
葛			一、一二二		六三、三六〇
ラ			二、七四〇		八二二
凍			九五、八〇〇		一、三九四
酢			七、一四〇、〇〇〇		二、四九九
			二五四		二、八三二

油	油	織	陶	漆	指	苴	繩	煉	瓦
類	類	物	器	器	類				瓦
六、六八二	一一二五	一〇、八八五	八四、二八〇	一二、一五四	五〇、八一〇	二四、一一一	二四、〇〇〇	六〇八、一二〇	
二、七二一	二一、一六五	五〇、九〇〇	一、三九八	五、七八九	三、七九七	二、五二六	三三六	一三、一四〇	

(一六六)

郡ノ主ナル工場

工場名	所在地	創業年月	主要製品	製品價額
佐野輝榮館	篠山町ノ内東新町	明治三十一年九月	安全燐寸	三、七八〇
篠山印刷合資會社	篠山町ノ内東新町	明治四十一年一月	活版印刷	四、七〇八

畑製糸場	畑村瀬利	明治二十六年八月	生糸	三一、〇九五
多紀製糸場	北河内村板井	明治二十三年十月	生糸	三〇、八〇八
長澤製糸場	大山村大山下	明治四十一年六月	生糸	八、〇〇〇
來住織物工場	古市村古市	明治四十二年五月	生ガ―セ	二、〇〇〇

凍豆腐ハ今田村ニ一八戸、後川村ニ二戸、福住村ニ一戸ノ製造家アリ。今田村ノ凍豆腐ハ原料ノ八分ヲ清國牛莊ニ取り、二分ヲ朝鮮ニ取り、製品ハ主トシテ神戸ニ輸出ス。神戸ニテハ凍豆腐ハ今田産ヲ主トシテ販賣ス。

燐寸ハ篠山町ノ佐野榮太郎。罐詰ハ古市、日置ノ兩村殊ニ古市ノ藤田順治。漆器ハ日置村辻、小中兩字ヲ各主産場トス。

産業組合。産業組合法ノ發布以來設置獎勵ノ結果殆ンド全町村ニ亘リテ其設置ヲ見ルニ至レリ其内大山信用購買組合ノ如キハ成績顯著ノ廉ヲ以テ明治四十三年中央會ヨリ表彰セラレタリ

産業組合大正四年十二月末現在既設組合左表ノ如シ

(大正四年)

組合名	設立年月	出資額	貸附金	貯金	販賣價額	購買價額	積立金
總額		一拂込濟額					

(一六七)

八上信販購	明治四十年二月	五,四九〇	五,四九〇	一三,七二二	二,一四〇	三七八	一,四八
會地中口信販購	明治四十五年五月	五,四四〇	二,三三七	一四,二〇五	一五,三三七	三三六	九八二
會地奥信購	明治四十三年三月	五四〇	五四〇	一,八五八	一,四三七	六七	
後川信販購	大正三年二月	一,五〇〇	四四六	一,五四七	二,三八五		
福住信販購	明治四十二年十月	六,九六〇	四,六六三	二,五〇七	一六,〇五七		
大芋信販購	明治四十年一月	五,七八〇	五,四六四	二六,四三七	二五,三三九		
彼見信販購	明治四十五年六月	三,三五〇	三,三五〇	二,八三九	四三四		
向井信販購	大正元年八月	一,五〇〇	一,〇五〇	一,一五一	一,八八九		
雲部信販購	明治四十年三月	四,一〇〇	三,八六六	三七,四九五	三六,一八九		
般若寺信販購	明治四十五年四月	二,〇〇〇	八六一	二,三四二	二,四六八		
和田信販購	明治四十四年三月	二,〇〇〇	一,〇八八	二,五二五	二,〇八三		
畑信販購	明治四十五年五月	五,八八〇	二,五九五	三,四二五	二,五八〇		
中畑信販購	大正元年八月	六,〇〇〇	二,五三三	六,四二六	四,五〇七		
奥畑信販購	大正元年八月	二,〇四〇	八五三	二,二三九	一,五二九		
城北信販購	明治四十年二月	四,二六〇	三,四八六	一八,六五六	一七,七三七		

(一六八)

濱谷信販購	明治三十九年十二月	二,三〇〇	二,三〇〇	二,六九九	一,五五五	二七四	二九四
南河内信	明治三十九年八月	五,三九〇	四,八二二	二六,四四〇	二二,〇一四		二,九六四
北河内信販購	明治四十年二月	八,〇〇〇	六,五二七	四二,九九八	三,〇四〇	七六二	四,一〇一
草山信	明治三十四年四月	四,六〇〇	四,四四四	一五,二五三	七,一三三		二,五六七
大山信購	明治三十八年十月	六,六八〇	六,六八〇	六九,六七九	五三,七一九	一六〇	二,六六八
西古佐信販購	明治四十五年四月	三,四八〇	七八	四,一七一	二,三三〇		一一二
西吹信販購	明治四十五年四月	三,〇一〇	二,二四	二,〇九二			二六
味間南信販購	大正元年十月	二,五〇〇	九一五	八六九			三三
八幡信販購	大正元年十月	三,〇六〇	九七三	三,三二五			一〇六
岩崎信販購	明治四十五年四月	一,三〇〇	一,〇四八	一,三九一	六六一		一〇〇
古市信販購	明治四十一年三月	二,〇五〇	二,〇三四	一,三五九	二,〇一六		三三五
青山家自疆信購	明治四十五年一月	一,七〇〇	四一八	九二八	一,一九〇	七五八	七〇
今田新田信販購	大正元年	一,〇〇〇	七〇〇	七五三	二六二		一〇一
市原信販購	明治四十一年十二月	七五	七五	七四三	一四〇		二〇七
今田村凍豆腐	大正二年十二月	一,五〇〇	四五〇			三,二二〇	一一六

(一六九)

城東畜産生販	大正二年六月	一五〇	七五				
畑生販	大正三年二月	一〇〇	〇〇				
城北畜産販	明治四十四年五月	六〇	四〇			一、六〇〇	
小阪畜産生販	明治四十四年三月	一八五	一八五			九三	
							二七

(140)

負擔

國稅。郡ノ負擔セル大正四年度ノ國稅額次ノ如シ

田租	九七、八六五 <sub>円</sub>
畑稅	四、五九四
宅地稅	一一、三二八
雜地稅	二、七八六
第一種所得稅	六、四七〇
第三種所得稅	一八、七二三
營業稅	一一、八六五

相續稅	三、六八七
通行稅	三三二
工業稅	四四〇

備考 第二種所得稅即チ公債ノ利子ニ關スル所得稅納稅者ハ本郡内ニ無シ。  
以上ハ直接國稅ニシテ、間接國稅ハ

酒造稅	九七、四四五 <sub>円</sub>
醬油造石稅	二、五六三
自家用醬油稅	一、六二七
織物消費稅	九
賣藥營業稅	二一九
總計	二六三、三三三

縣稅ノ大正四年度全郡負擔ハ

主ナル稅目ノ町村別ハ次表ノ如シ

主ナル稅目ノ負擔表

(大正四年度)



町村名地	租	所得稅	營業稅	縣稅	町村稅
篠山	三,〇七〇・五五〇	八,八九六・二〇〇	六,三九三・二四〇	七,一七一・四二五	一三,七二七
八上	六,七四七・三〇〇	六六・七五〇	四一・〇一〇	三,四〇九・八〇〇	四,六九〇
日置	九,〇五九・五五〇	一,八四〇・六九〇	七三三・八四〇	五,二〇七・二九五	七,四二四
後川	二,〇五七・三九〇	一八七・六〇〇	一三〇・三七〇	一,〇五六・九九〇	三,〇四九
福住	七,一九〇・四〇〇	一,一〇三・四〇〇	五四七・六六〇	四,一九五・一七五	七,二七六
大芋	四,六三三・三三〇	五三三・五四〇	四二四・〇〇〇	二,五〇二・一六五	四,五四〇
村雲	五,一一七・二六五	九三三・三九〇	三三八・五九〇	二,七八九・三三〇	四,五八五
雲部	五,一七四・三三〇	四八三・六三〇	一一五・八六〇	二,五六九・七〇五	四,六六〇
畑北	五,八五〇・五四五	七七七・〇四〇	四二二・三四〇	三,一〇六・〇九〇	五,三四一
城野	九,八四五・二七五	一,四四三・三七〇	三八五・二一〇	四,九七六・一八〇	七,〇九〇
岡内	五,五九五・七〇〇	七三〇・九八〇	一四〇・二一〇	三,一五五・七七五	四,四二八
南内	五,八九二・三八五	五七七・九〇〇	一三三・六一〇	三,一四七・三三〇	四,四二二
北河	六,五七三・〇〇〇	一,三三三・一〇〇	九四三・八七〇	三,八七四・九三五	五,二八八

町村名地	租	所得稅	營業稅	縣稅	町村稅
草山	一,九八四・二二五	一四六・四五〇	一〇・一〇〇	一,一二五・三〇五	三,〇一三
大山	六,七六八・八九五	一,六〇三・二一〇	一七二・六四〇	三,八九九・九九五	六,〇三七
味間	八,九六五・六〇〇	一,一七九・二六〇	五九七・九三〇	五,〇三四・〇六〇	八,〇四五
城南	一〇,〇八〇・七八五	一,一三〇・五七〇	三七七・九二〇	五,〇三三・七二〇	六,〇四七
古市	六,五一六・五〇〇	一,三六一・三九〇	九〇三・八一〇	四,一八八・四六五	六,八〇五
今田	六,四八〇・五二〇	四三四・二〇〇	九五・一四〇	三,七三四・七五	一七,一三五
計	二七,六〇三・三九〇	二五,一八二・五二〇	二,一八五・三六〇	七〇,二八三・七五	一一三,六〇一
大正三年度	二二,〇四八・〇〇〇	二五,七三三・〇〇〇	一七,九三三・〇〇〇	六四,三六九・〇〇〇	一一三,四九三
大正二年度	二二,一八八・〇〇〇	二四,七九九・〇〇〇	一六,六六一・〇〇〇	七四,九六六・〇〇〇	一一八,六〇五
大正元年度	二二,〇九九・〇〇〇	二九,一七八・〇〇〇	一五,六九二・〇〇〇	七七,三四〇・〇〇〇	一二七,七三五
明治四十四年度	二二,一一一・〇〇〇	二五,四七四・〇〇〇	一三,六八〇・〇〇〇	六八,五六六・〇〇〇	一二四,九六二

所得稅額。大正四年度郡ノ所得稅額ハ前ニ記セル負擔表ノ如クナルガ稅額別ノ人數ハ次ノ如シ

千圓以上	納稅額		納稅者	
	第一種所得納稅者數	第二種所得納稅者數	第一種所得納稅者數	第二種所得納稅者數
1	1	1	1	1

所得税ノ累年増加ノ有様次ノ如シ

年 度	所 得 金 額	所 得 税 額	人 員
五百圓以上	一、四七、四一九	三	一
二百圓以上	二、八七、八三三	四	六
五十圓以上	二、五四、二五五	五	一
拾圓以上	二、七〇、一七九	六	二
拾五圓以上	三、〇〇、八一四	一	八
五圓以上	三、三一、一五八	一	〇
參圓以上	三、五五、四九九	一	七
參圓未滿	三、八四、七五〇	一	五
合 計	四、〇九、一五〇	一	三

(一七四)

明治三十二年度	一、六、〇九〇	二、四七、四一九	三三
明治三十三年度	二、〇七、八三三	二、八七、八三三	三九
明治三十四年度	二、五四、二五五	三、五五、四九九	四三
明治三十五年度	二、七〇、一七九	三、八四、七五〇	五二
明治三十六年度	三、〇〇、八一四	四、〇九、一五〇	六二
明治三十七年度	三、三一、一五八	七、七四、三三〇	六六
明治三十八年度	三、五五、四九九	一〇、九四、二五〇	七七
明治三十九年度	四、〇一、六七〇	一二、四二、五七〇	八〇
明治四十年度	四、五三、七九六	一四、一六、四〇〇	九五
明治四十一年度	六、六、五六六	一九、七九、三三〇	一、五二
明治四十二年度	六、七、四四六	二〇、二五、一三〇	一、四八
明治四十三年度	六、九、八四七	二〇、四三、一三〇	一、五八
明治四十四年度	七、一、五七五	二〇、九九、二五〇	一、六七
大正元年度	七、二、七五〇	二一、一六、〇一〇	一、八三
大正二年度	六、五、七〇二	一九、四八、一九〇	一、五八

(一七五)

大正三年度	七四七、二五〇〇〇	二、八〇八、九四〇	一、六五二
大正四年度	六五三、九二六〇〇	一八、八五八、七二〇	一、五二七
大正五年度	五七三、二〇五〇〇	一六、四四二、二〇〇	一、三五七

(一七六)

町村費。大正四年度各町村費歳出豫算額次ノ如シ

町村名	經常費	臨時費	合計
篠山	一五、四六六、八五九	四九六、〇〇〇	一五、九六二、八五九
八上	五、三六七、二八	三六六、三〇〇	五、七三三、四二八
日置	九、四五二、八六七	四七七、六六〇	九、九三〇、五二七
後川	三、三五七、三五二	六五三、一〇〇	四、〇一〇、四五二
福住	七、九五五、一五四	三、四三七、三七六	一一、三九二、五三〇
大芋	五、一六六、六四〇	一、四七四、四一〇	六、六四一、〇五〇
村雲	四、八〇四、七五二	五七三、七二〇	五、三七八、四六二
雲部	四、七六九、七七七	二、四二七、五二〇	七、一九七、二五七
畑部	五、三二一、四六八	一、七二三、六〇九	六、九三五、〇七

町村名	經常費	臨時費	合計
城野北	七、六四〇、六一七	一、三四九、七〇〇	九、〇一四、三二七
岡野	四、五七三、二八七	一、三六一、六二五	五、九三四、三二七
南河内	五、一七四、三三九	五六〇、四五五	五、七三四、七八四
北河内	六、四八七、七〇五	九六、〇〇〇	六、五八三、七〇五
草山	三、三四四、七六〇	一、一一一、三〇〇	四、四五六、〇六〇
大山	七、一七六、八九八	三八一、五三五	七、五六〇、四三三
味間	八、七〇三、三二五	三、四四〇、七二〇	一二、一四四、〇四五
城南	八、一六二、四〇七	一、二四七、六八三	九、五一〇、〇九〇
古市	七、二五五、六八	二、六五八、〇〇〇	九、九一三、六二八
今市	七、六六一、八五四	九二五、五五〇	八、五八八、四〇四
計	二七、八一〇、七五七	二四、七五二、二四三	五二、五六三、〇〇〇

町村費科目別。大正四年度全郡町村費歳出豫算額ヲ科目別ニ示セバ次ノ如シ

役場費	經常費	臨時費	合計
役場費	三二一、一八三、八二二	四、〇七四、三九五	四、〇七四、三九五

(一七五)

會 議 費	一、〇七九・七九三	
士 木 費	二、三一七・四〇〇	八、九九〇・二二八
教 育 費	五七、六一九・七三〇	五、九二七・一三五
衛 生 費	五、五八七・八八〇	
勸 業 費	六〇三・九五四	四八二・八五〇
救 助 費	七二・九三五	
警 備 費	三三〇・九七五	
基本財産造成費	七、四〇二・四六一	二、三九五・九七一
財 産 費	七四七・七七九	
諸 稅 及 負擔	一八、九三八・八四五	
神 社 費	八七・〇〇〇	
雜 支 出	四八二・二六二	五五三・一九四
其 他	二九二・三〇〇	一、一三五・三九〇
特別積立金	六〇〇・〇〇〇	

(一七九)

町村費ノ累年比較ノ概數

明治二十九年年度決算額	五〇、〇〇〇 <sup>甲</sup>
明治三十年年度決算額	六三、〇〇〇
明治三十一年年度決算額	七五、〇〇〇
明治三十五、六兩年度決算額	各 九〇、〇〇〇
明治三十七、八兩年度決算額	各 六〇、〇〇〇
明治三十九年度決算額	七五、〇〇〇
明治四十年年度決算額	一二八、〇〇〇
明治四十一年年度決算額	一五一、八九三
明治四十二年年度決算額	一六三、一八九
明治四十三年年度決算額	一五四、五二一
明治四十四年度決算額	一四九、七七四
大正元年度決算額	一五八、七九七
大正二年度決算額	一五二、四五〇
大正三年度決算額	一五二、五六三

(一七九)